

カンボジア国  
REDD+ 戦略政策実施支援プロジェクト  
(CAM-REDD)  
終了時評価報告書

平成 28 年 3 月  
(2016 年)

独立行政法人国際協力機構  
地球環境部

環境
J R
16-119

**カンボジア国  
REDD+戦略政策実施支援プロジェクト  
(CAM-REDD)  
終了時評価報告書**

**平成 28 年 3 月  
(2016 年)**

**独立行政法人国際協力機構  
地球環境部**

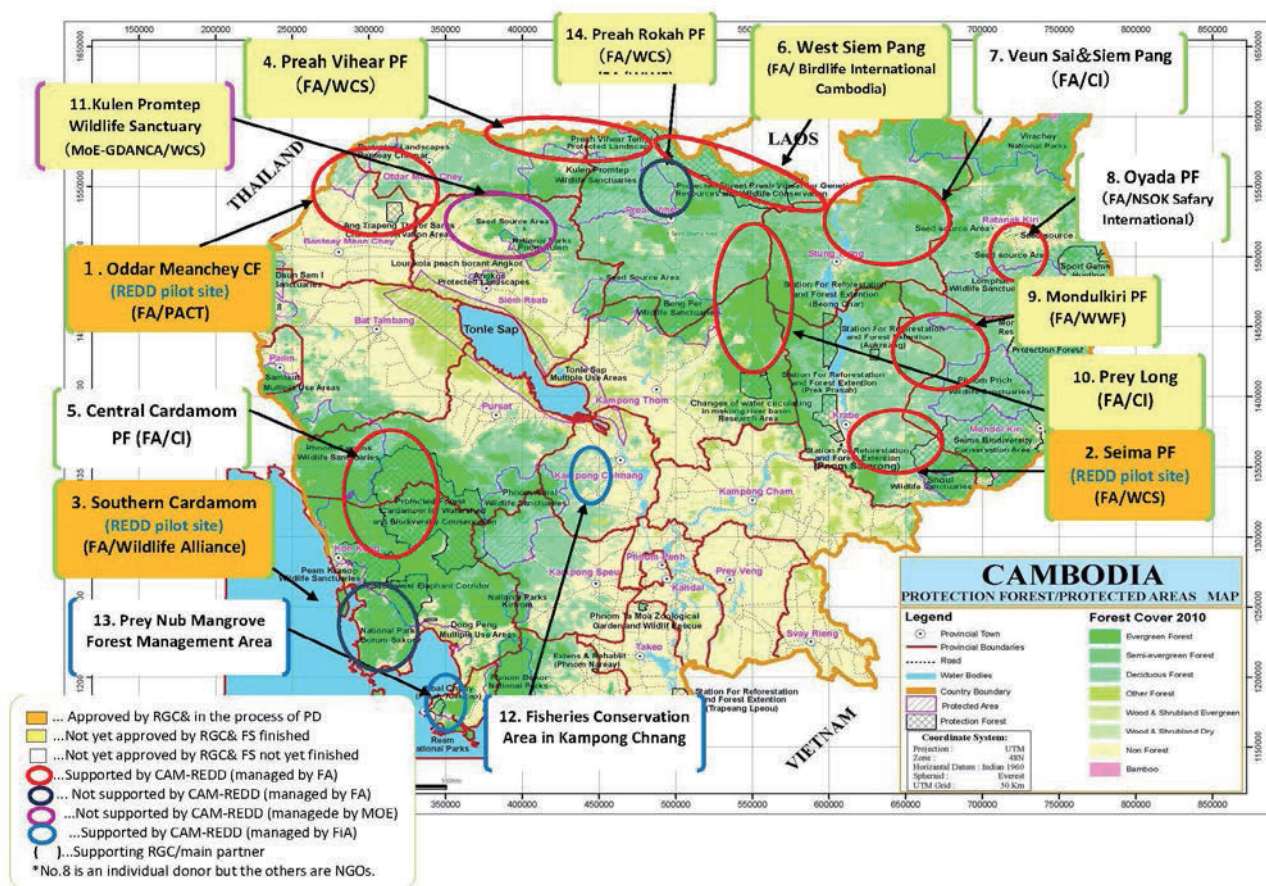
# 目 次

目 次	
地 図 (プロジェクト活動 位置図)	
写 真	
略語表	
要約表	
第1章 評価の概要	1
1-1 調査の背景	1
1-2 プロジェクトの概要	1
1-3 合同終了時評価の目的	3
1-4 調査団構成	4
1-5 評価手法とスケジュール	4
第2章 プロジェクトの実績	6
2-1 投入の実績	6
2-1-1 日本側	6
2-1-2 カンボジア側	7
2-2 活動の実績	7
2-3 成果の実績と達成度	7
2-3-1 成果1の実績と、指標に対する達成度	7
2-3-2 成果2の実績と、指標に対する達成度	8
2-3-3 成果3の実績と、指標に対する達成度	10
2-3-4 成果4の実績と、指標に対する達成度	11
2-4 プロジェクト目標の達成状況 (達成見込み)	12
2-5 事業対象地	13
2-6 プロジェクト実施プロセスと枠組み	14
2-6-1 プロジェクト関係者間のコミュニケーションと連携	14
2-6-2 他のREDD+開発パートナーとのコミュニケーションと連携	14
2-6-3 REDD+に係る社会環境への配慮	15
2-7 効果発現に貢献した要因	15
2-8 問題点及び問題を惹起した要因	16
第3章 評価結果	17
3-1 妥当性	17
3-2 有効性	17

3-3	効率性.....	18
3-4	インパクト.....	18
3-5	持続性.....	20
第4章	結論.....	22
第5章	提言.....	23
5-1	プロジェクトへの提言.....	23
5-2	REDD+ステークホルダーへの提言.....	23
5-3	JICA への提言.....	23
第6章	教訓.....	24
添付資料		
添付資料1	合同評価報告書（最新PDM 含）.....	27
添付資料2	主要面談者リスト.....	91
添付資料3	面談メモ.....	93
添付資料4	評価グリッド.....	133
添付資料5	収集資料リスト.....	155

# 地 図

## (プロジェクト活動 位置図)



1. オッドミアンチェイ共有林 (オッドミアンチェイ州)
2. セイマ保護林・FPIC (モンドルキリ州)
3. 南カルダモン保護林 (コッコン州)
4. プレアビヒア保護林・プレ FPIC (プレアビヒア州)
5. 中央カルダモン保護林 (プルサト州、コッコン州)
6. 西シエンパン (ストウントレン州)
7. ブンサイ・シエンパン (ラタナキリ州、ストウントレン州)
8. オヤダ保護林 (ラタナキリ州)
9. モンドルキリ保護林 (モンドルキリ州)
10. プレイロング (コンポントム州)
11. クレンプルンテップ野生生物保護区 (プレアビヒア州)
12. コンポンチュナン浸水林 (コンポンチュナン州)
13. プレイヌップマングローブ林 (プレアシハヌーク州)



# 写 真



環境プロジェクト無償「森林保全計画」にて  
供与された建物（セイマ保護林管理事務所）



環境プロジェクト無償「森林保全計画」にて  
供与された車両（セイマ保護林）



境界杭（セイマ保護林）



違法行為取り締まりで押収された車両  
及び木材（セイマ保護林）



違法行為取り締まりで押収された自動二輪車  
（セイマ保護林）



違法行為取り締まりで押収された畚  
（セイマ保護林）





プレイロング・パトロールステーション



パトロール野営用小屋（プレイロング）



パトロール隊に護衛されながらの現地視察  
（プレイロング）



違法行為取り締まりで押収されたボウガン  
（プレイロング）



樹脂採取（プレイロング）



ミニッツ署名

## 略 語 表

略語	英語	日本語
AD	Activity Data	活動度データ
C/P	Counterpart	カウンターパート
CAM-REDD	Project for Facilitating the Implementation of REDD+ Strategy and Policy	REDD+戦略政策実施支援プロジェクト
CCBA	Climate, Community and Biodiversity Alliance	気候変動対策におけるコミュニティ及び生物多様性への配慮に関する企業・NGO 連合
CF	Community Forest	共有林
CG	Consultation Group	コンサルテーショングループ
COP	Conference of the Parties	締約国会議
DAC	Development Assistance Committee	開発援助委員会
FA	Forestry Administration	森林局（農林水産省）
FACCC	Forestry Administration's Climate Change and REDD+ Committee	気候変動及び REDD+委員会（森林局主催の）
FAO	Food and Agriculture Organization of the United Nations	国連食糧農業機関
FCPF	Forest Carbon Partnership Facility	森林炭素パートナーシップ基金
FiA	Fisheries Administration	水産局（農林水産省）
FPIC	Free, Prior and Informed Consent	自由で事前に十分な情報を与えられた上での合意
FREL	Forest Reference Emission Level	森林参照排出レベル
GHG	Greenhouse Gas(es)	温室効果ガス
IP	Indigenous People(s)	先住民族
IPCC	Intergovernmental Panel on Climate Change	気候変動に関する政府間パネル
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
LEAF	Lowering Emissions in Asia's Forests	アジアの森林における排出削減プログラム
LWB	Law on Wildlife and Biodiversity	野生生物及び生物多様性法



M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
MAFF	Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries	農林水産省
MoE	Ministry of Environment	環境省
MRV	Measurement, Reporting and Verification	計測・報告・検証
NFMS	National Forest Monitoring System	国家森林モニタリングシステム
NFP	National Forest Programme	国家森林計画
NGO	Non-governmental Organization	非政府組織
NRS	National REDD+ Strategy	国家 REDD+戦略
NSDP	National Strategic Development Plan	国家戦略開発計画
NTFP	Non Timber Forest Product	非木材産物
OECD	Organization for Economic Co-operation and Development	経済協力開発機構
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PF	Protected Forest	保護林
PLRs	Policies, Laws and Regulations	政策・法律・規制
PO	Plan of Operation	活動計画
RBP	Result-Based Payment	成果に応じた支払い
R/D	Record of Discussions	討議議事録
REDD+	Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in developing countries; and the role of conservation, sustainable management of forests and enhancement of forest carbon stocks in developing countries	開発途上国における森林減少・劣化等に由来する排出の削減等(開発途上国における森林減少・劣化に由来する排出の削減並びに森林保全、持続可能な森林経営及び森林炭素蓄積の増加の役割)
REL	Reference Emission Level	参照排出レベル
RGC	Royal Government of Cambodia	カンボジア王国政府
RL	Reference Level	参照レベル
RTS	REDD+ Taskforce Secretariat	REDD+タスクフォース事務局
SFB	Supporting Forests and Biodiversity project	森林及び生物多様性プロジェクト支援
SFM	Sustainable Forest Management	持続可能な森林経営
SIS	Safeguard Information System	セーフガード情報システム

SLMS	Satellite Land Monitoring System	衛星土地モニタリングシステム
TA/DG-FA	Technical Advisor to Director General of Forestry Administration	森林局政策アドバイザーチーム
TOR	Terms of Reference	業務指示書
TT	Technical Team	テクニカルチーム
UNDP	United Nations Development Program	国連開発計画
UNFCCC	United Nations Framework Convention on Climate Change	国連気候変動枠組条約
UN-REDD プログラム	United Nations Collaborative Programme on Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries	国連森林減少・劣化に起因する温暖化ガスの排出とその抑制方策計画
USAID	United States Agency for International Development	米国国際開発庁
VCS	Verified Carbon Standard	ベリファイド・カーボン・スタンダード(自主的なカーボンクレジット認証制度及び炭素算出のための基準)

## 評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：カンボジア王国	案件名：REDD+戦略政策実施支援プロジェクト (CAM-REDD)
分野：自然環境保全－荒廃地回復 環境管理－地球温暖化	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：地球環境部森林・自然環境グループ	協力金額（評価時点）：3.2 億円（評価調査実施時）
協力期間	(R/D) 2011 年 5 月 27 日
	2011 年 6 月～2016 年 5 月 (5 年間) (F/U)
先方関係機関： 農林水産省森林局 (FA) 環境省 (MoE) 農林水産省水産局 (FiA)	
日本側協力機関：林野庁	
他の関連協力： 環境プログラム無償「森林保全計画」2010 年 3 月～ 国連森林減少・劣化に起因する温暖化ガスの排出と その抑制方策計画 (UN-REDD) <sup>1</sup> 2011 年～2015 年 11 月 UNDP/FAO：森林炭素パートナーシップ基金 (FCPF) 米国国際開発庁 (USAID)：森林及び生物多様性プロ ジェクト支援 (SFB) ～2016 年 6 月) USAID：アジアの森林における排出削減プログラム (LEAF) ～2015 年	
1-1 協力の背景と概要	
<p>カンボジア王国（以下、「カンボジア」と記す）政府は「カンボジア気候変動戦略計画（2014 年～2023 年）」を 2013 年 11 月に公式発表しており、これは現行の政策の相乗効果を高め、気候変動関連の幅広い問題（適応、緩和、低炭素開発等）をまとめるものとして機能している。開発途上国における森林減少・劣化等に由来する排出の削減等（REDD+）の推進は本計画のうち「主要生態系、生物多様性、保護区、及び文化遺産サイトにおける気候変動からの回復力を高める」という戦略の主要手段として挙げられている。</p> <p>2010 年 9 月に承認された国家 REDD+ロードマップ作成に伴い、従来の国際社会による森林保護やコミュニティフォレストリーへの支援に加え、国連森林減少・劣化に起因する温暖化ガスの排出とその抑制方策計画（UN-REDD プログラム）や森林炭素パートナーシップ基金（FCPF）などがカンボジア政府のロードマップ実施に対する支援を表明した。2010 年のカンボジア政府から日本政府への協力要請を受け、日本による本ロードマップを支援する枠組みが協力期間 5 年の CAM-REDD プロジェクトとして合意され、2011 年 5 月 27 日に討議議事録（R/D）が両国により署名、2011 年 6 月 1 日より実施されている。</p> <p>本プロジェクトのプロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）及び活動計画（PO）は、カンボジア国家 REDD+タスクフォースの多年度行動計画の基礎となるものであり、この多年度行動計画に沿って、UN-REDD プログラム、CAM-REDD、FCPF、USAID による SFB/LEAF 等の REDD+支援枠組みが活動を進めてきた。</p>	
1-2 協力内容	
(1) 上位目標	
REDD+実施の経験に基づき、気候変動の緩和策として持続可能な森林経営が推進される。	
(2) プロジェクト目標	
REDD+の戦略と政策の実施が円滑に行われるように関係者（ステークホルダー）の能力が強	

<sup>1</sup> 2008 年より国連開発計画（UNDP）、国連環境計画（UNEP）、国連食糧農業機関（FAO）が共同で実施している「途上国における森林減少・劣化による二酸化炭素排出の削減に関する取り組み」で、REDD+に関する活動を進めている。

化される。

(3) 成果

成果1：ロードマップの原則に基づき、REDD+に係る準備作業を効果的に管理する体制、及びステークホルダー・エンゲージメントが国レベルで整備されることを支援する。

成果2：国レベルのREDD+戦略が策定され、実施の枠組が整うように支援する。

成果3：プロジェクト及び準国レベルにてREDD+を管理する能力向上を支援する。

成果4：政府職員が森林炭素量の測定・報告・検証（MRV）及び参照排出レベル（RELs）の枠組み設計及びその実施に必要な知識を身につけるための支援を行う。

(4) 投入（評価時点）

日本側：総投入額 3.2 億円

専門家派遣：長期2名 技術支援8名

機材供与：約15万ドル

ローカルコスト負担：デモンストレーション等 約179万ドル

研修員受入：本邦研修6回・12名

相手国側：

カウンターパート（C/P）配置：29名

専門家執務室提供

ローカルコスト負担（光熱費等）

2. 評価調査団の概要

調査者	（担当分野：氏名	職位）
1.	総括：宍戸 健一	国際協力機構（JICA）地球環境部 森林・自然環境グループ 審議役兼次長
2.	協力企画：見宮 美早	JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ 自然環境第一チーム 企画役
3.	評価分析：田中 誠	(株)アイコンズ 主任コンサルタント
4.	団長：Mr. Bun Radar	FA 森林管理・国際協力部副部長
5.	副団長：Mr. So Than	FA 湾岸森林管理副主任行政調査官
6.	評価：Mr. Lim Bunna	FA 行政計画・会計・財政部計画・統計・強化室副室長
7.	評価：Mr. Ouk Vibol	FiA 水産資源保護部長

調査期間	2016年2月12日～2016年3月3日	評価種類：終了時評価
------	----------------------	------------

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) 成果の達成度

成果1：既に達成されている。

国家REDD+タスクフォース、同事務局（RTS）が2013年2月に発足し、タスクフォースの下に、4つのテクニカルチーム、コンサルテーショングループも同年中に設立された。これらはプロジェクトの助言の下、機能している。以上により指標1.1が達成された。

成果2：ほぼ達成されている。

国家REDD+戦略（NRS）案が2014年から草稿され、その概要が2015年12月の国連気候変動枠組条約（UNFCCC）第21回締約国会議（COP21）において発表された。このNRS案にはREDD+セーフガードが盛り込まれている。準国レベルの国家森林計画（NFP）が12州において承認、4州において実施された。以上により指標2.1、2.2、2.4、2.5が達成された。他方、野生生物及び生物多様性法（LWB）案は作成されたものの、農林水産相による承認待ちとなっており、閣僚評議会に提出されていないことから、指標2.3が完全には達成されていない。

成果3：既に達成されている。

一つのデモンストレーションにおいて排出削減が第三者機関により認証された。準国レベルのREDD+の活動経験が文書化され、FCPFに提出された。デモンストレーションサイトでの経験が文



書化され、関係者に共有された。以上により指標 3.1～指標 3.3 が達成された。

#### 成果 4：達成は中程度。

国家森林モニタリングシステム(NFMS)を構築する計画が NRS に盛り込まれた。初期の REL/RL<sup>2</sup> が開発され、COP21 にて発表された。初期の森林炭素量計測案が作成された。以上により指標 4.1～4.3 が達成された。しかし、FA が独力で国レベルの森林からの参照排出量(FREL)を改善していくための能力に更なる強化の必要がある。

#### (2) プロジェクト目標達成の見込み：達成される見込みである。

必要な政策措置が NRS 案に盛り込まれている。国家 REDD+タスクフォース及びコンサルティンググループ(CG)が NRS 案に対する協議を進めている。以上により指標 1、2 が達成された。しかし、ステークホルダーの能力、特に REDD+を全国的に実施していくための人員配置及び技術的スキルの面における能力は、更に強化される必要がある。

### 3-2 評価結果の要約

#### (1) 妥当性：極めて高い

国家戦略開発計画(NSDP)に森林セクターの重要性が述べられている。NFP のなかで気候変動への取り組みが戦略目標の一つとされており、そのために REDD+が重要な項目に位置づけられている。よって、本プロジェクトはカンボジア政府の政策とよく合致している。

UNFCCC の COP21 にて締結されたパリ協定においても、REDD+推進の重要性が謳われた。また、カンボジアは JICA の REDD+プロセス支援対象として最優先国の一つであり、持続的な森林経営を通じた気候変動対策は JICA の自然環境保全に関する基本分野の一つである。

#### (2) 有効性：比較的高い

カンボジア REDD+ロードマップのもと、多くの REDD+開発パートナーが協力し、相互補完しながら活動している。いずれの活動も、カンボジア側の REDD+の目標と自国の能力とのギャップを解消することに貢献している。しかし、カンボジア側が自力で REDD+を国家規模で実施していくには、更なる能力強化が必要である。

#### (3) 効率性：比較的高い

環境プログラム無償「森林保全計画」にて供与された設備・機材の有効活用や、REDD+開発パートナー間の調整、日本企業・非政府組織(NGO)からのインプット調整等々が奏功し、複数主体からの投入が相乗効果を生むに至った。一方、特に本プロジェクトの初期の調整コストが大きかった。

#### (4) インパクト：比較的高い

REDD+のメカニズム構築が進み、第1段階である REDD+の準備(Readiness)がほぼ完了したことで、REDD+の国際的資金が得られる可能性が高まった。また、本プロジェクトの取り組みにより、FA、MoE、FiA 等の関係省庁の協力体制が構築された。ただし、上位目標にある「持続可能な森林経営」について、政府の森林セクター組織改編計画が首相から発表される等、外部要因が多いため、上位目標を数年内に達成できるか否かは現時点では判断できない。

#### (5) 持続性：中程度

政策・制度面、社会・文化・環境面の持続性は高い。財政面では、REDD+開発パートナーから予算拠出のコミットはあるものの総額として不十分であり、政府職員の日当や燃料費等を政府予算で賄うことができていない。組織面では、森林セクター組織改編のインパクトを予測することが困難である。技術面では、特に成果 4 に関係する部分で更なる能力強化が必要である。以上を総合すれば、持続性は中程度と評価される。

### 3-3 効果発現に貢献した要因

<sup>2</sup> 参照レベル (Reference Level : RL)

(1) 計画内容に関すること

- ・ 適切な REDD+開発パートナーの結集：カンボジア側は、REDD+が時宜を得た話題であるとして、多くの REDD+開発パートナーからの資金を動員した。多くの REDD+開発パートナーの存在は、場合によっては本プロジェクトに負の影響を与えかねないが、カンボジア側はさまざまな REDD+開発パートナーの投入から相乗効果を生むための取り組みを続けてきた。

(2) 実施プロセスに関すること

- ・ 強化されたオーナーシップ及び調整能力：カンボジア側のオーナーシップは協力期間を通じてよく確立されており、調整の役割を安定して果たしている。カンボジア側は次第に REDD+を自身の重要な問題であると理解し認識するようになってきている一方、関係する開発パートナーの多くはカンボジア側のイニシアティブや取り組みを尊重している。
- ・ UNFCCC によって設定された明確な目標：FA は、他の実施機関や本プロジェクトとともに、2015 年 12 月の COP21 において REDD+戦略案または NRS 案を発表し、FREL を UNFCCC に提出する機会をとらえ、政府の制度に係る意思決定プロセスを加速した。これらの目標は、カンボジア側及び REDD+開発パートナーにとって同じ目標を目指す協働の絆を強化することにもなった。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

- ・ REDD+の複雑さ及び不確実性：REDD+は国際社会における新しい政治的かつ技術的な問題であり、とりわけ 2015 年 12 月の UNFCCC COP21 までは複雑さ及び不確実性を含んでいた。例えば、データや情報を収集するための技術的方法論に係る国際的な基準が存在せず、そのことがすべての締約国にとって REDD+を準備するうえでの共通の困難をもたらしていた。FA は特定の方法論を採用すると決定したにもかかわらず、外交上の懸念から、実務レベルでは異なる REDD+開発パートナーによって提案された異なる方法論を受け入れていた。このことにより、成果 4 に係る活動について遅延や調整コストが生じた。

(2) 実施プロセスに関すること

- ・ 意思決定プロセス：本プロジェクト開始時、カンボジア側の主要な REDD+ステークホルダーにとって、政策を決定し、カンボジアの REDD+に関わる必要な情報を共有するには、長い時間を要した。カンボジア側の REDD+管理体制を確立するために更なる時間を要し、本プロジェクトの実施がかなり遅れることにつながった。

3-5 結論

1. 2015 年 12 月に採択されたパリ協定は、持続可能な森林経営の重要性及び緩和策としての REDD+の推進を明記しており、カンボジア政府は自国の NFP のプログラムの一つとして REDD+の準備作業に高い優先順位を付している。この状況の下で、本プロジェクトは、多くの REDD+開発パートナーによる他のインターベンションとともに、カンボジアの REDD+プロセスに合わせて実施された。
2. 本プロジェクトは、プロジェクト目標及び 4 つの成果を高いレベルでほぼ達成したことにより、カンボジアの REDD+プロセスに顕著な貢献をなした。評価 5 項目については、妥当性は非常に高く、有効性、効率性、インパクトは比較的高く、持続性は中程度と評価される。
3. REDD+を推進する FA 及び関係機関の能力並びに RGC 内の体制はある程度強化された。本プロジェクトの結果、カンボジアが REDD+資金を受け取る可能性が高まった。REDD+がもたらす収益が持続可能な森林経営に配分される限り、この支払いは持続可能な森林経営に貢献すると期待される。
4. しかし、カンボジア側の能力形成は、実施面及び予算確保の面で更に強化される必要がある。さらに、プロジェクト目標が達成される見込みであるといえども、上位目標達成のためには、REDD+開発パートナーによる支援が決定的に重要である。

3-6 提言

- (1) REDD+ステークホルダーへの提言（主要 C/P である森林局及び環境省）

#### 1. REDD+を実施するための REDD+資金の利用促進

カンボジア側は、REDD+や炭素クレジットに係る国際的な潮流や関心の時宜を逸することなく、REDD+の実施に向けて必要となる財源として、国際機関の公的資金や市場原理に基づいた民間資金を獲得するための努力を継続すること。

#### 2. 国・準国レベルにおける実施能力の更なる強化

優先度の高い活動に応じた短中期の活動計画を策定の上、それに基づいて、実施を担当するステークホルダーの能力をさらに強化する必要がある。

#### 3. 国家森林モニタリングシステム、特に FRELs を実施するための人員配置

成果に基づく支払いを実現するため、2016 年森林被覆図を作成する。また、MRV の活動には適切な数の人員を配置すべきである。

#### 4. REDD+の実施に必要な基本的予算の確保

これまで、旅費や日当といった基本的な事業経費も REDD+開発パートナーが支援している REDD+開発パートナーによる補填は持続的とはいえず、FA その他の実施機関は、REDD+のための政府予算を増額する努力をすべきである。

#### 5. 組織改編に関し、森林セクターにおける新体制確立の加速化、また、それに伴った第 2~3 四半期に派遣中の REDD+戦略に関する JICA からのアドバイザーの TOR 調整

### (2) JICA への提言

#### 1. 成果 4 に係る協力期間の延長

FREL に係る技術的及び財政的支援を行い、2016 年森林被覆図及び FREL の文書の作成を支援し、成果に応じた支払いの実現に貢献すること。

#### 2. 国家 REDD+戦略の実施を支援するためのアドバイザーの配置

- ・ 国家 REDD+戦略の実施を引き続き支援する。
- ・ RGC、JICA、民間企業、NGO 及び国際機関といった他の REDD+関係機関からの REDD+資金調達を推進する。

### 3-7 教訓

(1) 単一の政策文書:カンボジア国家 REDD+ロードマップ:カンボジア国家 REDD+ロードマップは、カンボジア側の多数のステークホルダー及び REDD+開発パートナーの活動を調和させるのに貢献した。今後、多くの機関や関係者を巻き込む案件形成において、効果的かつ効率的な事業実施に重要な役割を担うようなガイドライン的文書を作成することは検討に値する。

(2) 関連するすべての REDD+開発パートナーのための単一のワークプラン:プロジェクトのステークホルダーや、CAM-REDD、UN-REDD カンボジアプログラム及び FCPF を中心とする REDD+開発パートナーの間で、同一の目標に向けた個々の取り組みを提携させることに貢献した。先方のプログラムに連動した複数ドナーの案件形成において、関係者単一のワークプラン導入を検討することも一案である。しかし、ドナーの観点からは、PO のレベルにおいてさえ同じ活動に複数のパートナーからの投入があるという複雑さの下で、各自の投入から生じる具体的な成果を特定することが困難になることがある。アカウントビリティ及び可視性に係る配慮及び取り組みについて、協力期間を通じて議論されなければならない。

## Summary of Evaluation Results

1. Outline of the Project	
Country: Kingdom of Cambodia	Project Title: The Project for Facilitating the Implementation of REDD+ Strategy and Policy (CAM-REDD)
Issue/Sector: Nature Conservation - Revegetation of Degraded Land / Environmental Management - Global Warming	Cooperation Scheme: Technical Cooperation Project
Division in Charge: Natural Environment Team 1, Forestry and Nature Conservation Group, Global Environment Department	Total cost: 320 million yen at the time of the Terminal Evaluation
Period of Cooperation	Record of Discussion (R/D): 27 May 2011
	June 2011 - May 2016 (five years)
	Partner Country's Implementing Organization: Forestry Administration (FA), Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries Ministry of Environment (MoE) Fisheries Administration (FiA), Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
	Japan's Implementing Organization: Forestry Agency
	Related Cooperation: Environmental Programme Grant Aid: "Forest Preservation Programme" (Mar. 2010 - ) UN-REDD Programme <sup>1</sup> : (2011 - Nov. 2015) UNDP/FAO: "Forest Carbon Partnership Facility (FCPF)" (Nov. 2015 - ) USAID: "Supporting Forests and Biodiversity project" (SFB, - Jun. 2016) United States Agency for International Development (USAID): "Lowering Emissions in Asia's Forests (LEAF) ", (- 2015), etc.
1-1 Background of the Project	
<p>The Government of Cambodia officially launched the Cambodia Climate Change Strategic Plan 2014-2023 in November 2013. It builds synergies with existing government policies to ensure a strategic cohesion to address a wide range of climate change issues linked to adaptation, Greenhouse Gases (GHG) mitigation, and low-carbon development. Promotion of REDD+<sup>2</sup> is stated as one of the major strategies to ensure climate resilience of critical ecosystem, biodiversity, protected areas and cultural heritage sites in the Plan.</p> <p>The stakeholders of REDD+ endorsed the Cambodia National REDD+ Roadmap in September 2010. In addition to historical support through international community to the protected forests and to the community forestry, UN-REDD Programme and Forest Carbon Partnership Facility (FCPF) endorsed their engagements to help the Government of Cambodia implement this Roadmap. The government's implementation structure for the Roadmap was also designed at that point shown in Annex IV. Based on the official request by the Government of Cambodia to the Government of Japan in 2010, a framework to support the implementation of the REDD+ Roadmap was agreed for the period of 5 years as CAM-REDD. The initial detail is defined in the "Record of Discussion (R/D)" signed between the Director-General of FA and the Chief Representative of Japan International Cooperation Agency (JICA) to the Government of Cambodia on May 27, 2011 in accordance with the standard procedure defined by the Government of Japan, and it has been operationalized since 1 June 2011.</p> <p>The Project Design Matrix (PDM) and the Plan of Operations (PO) of the Project are expected to be a base for the future multi-year work plan for Cambodia National REDD+ Taskforce Frameworks such as UN-REDD, CAM-REDD, FCPF, Supporting Forests and Biodiversity project (SFB) on Lowering Emissions in Asia's Forests (LEAF) funded by USAID and etc. have promoted their activities following this work plan.</p>	
1-2 Project Overview	
(1) Overall Goal:	
Sustainable forest management as a mitigation measure against climate change is promoted based on the	

<sup>1</sup> The collaborative initiative on REDD or REDD+ was launched in 2008 and builds on the convening role and technical expertise of the Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO), the United Nations Development Programme (UNDP) and the United Nations Environment Programme (UNEP).

<sup>2</sup> Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in developing countries; and the role of conservation, sustainable management of forests and enhancement of forest carbon stocks in developing countries



experiences of REDD+ implementation.

(2) Project Purpose:

Capacity of related stakeholders is strengthened for smooth implementation of REDD+ strategy and policy.

(3) Outcomes

Outcome 1: Effective National Management of the REDD+ Readiness process and stakeholder engagement

Outcome 2: Development of the National REDD+ Strategy.

Outcome 3: Improvement of capacity to manage REDD+ at the subnational/national levels.

Outcome 4: Design of a Monitoring System and RLs<sup>3</sup> / RELs<sup>4</sup> framework and capacity for implementation

(4) Inputs

Japanese Side: approximately 320 million JPY (at the time of evaluation)

Experts: 2 long-term and 8 technical assistance experts

Equipment: USD 150,000

Local Cost: Demonstrations, etc., approximately USD 1,790,000

Number of Trainees Received: 12 participants in 6 Trainings in Japan

Cambodian Side:

Main Counterparts (C/P) : 29 people

Facilities: office space, meeting rooms for the experts

Local Cost: utility costs, etc.

2. Evaluation Team

Members of Evaluation Team	< Japanese Side >	
	1.	Team Leader: Mr. Kenichi SHISHIDO, Deputy Director General, and Group Director for Forestry and Nature Conservation Environment Department, JICA
	2.	Cooperation Planning: Ms. Misa KEMMIYA (Shimizu), Acting Director, Natural Environment Team 1, Forestry and Nature Conservation Group, Global Environment Department, JICA
	3.	Evaluation Analysis: Dr. Makoto TANAKA, Senior Consultant, ICONS Inc.
	< Cambodian Side >	
	1.	Team Leader: Mr. Bun Radar, Deputy Director of Department of Forest Industry and International Cooperation, FA
	2.	Sub Leader: Mr. So Than, Deputy Chief of Gulf's Forestry Administration Inspectorate, FA
	3.	Member: Mr. Lim Bunna, Deputy Chief of Planning, Statistics and Consolidation Office, Department of Administration, Planning, Accounting and Finance, FA
	4.	Member: Mr. Ouk Vibol, Director of Department of Fisheries Conservation, FiA
Evaluation Period	12 February 2016 - 3 March 2016	Type of Evaluation: Terminal Evaluation

3. Results of Evaluation

3-1 Confirmation of Achievement

(1) Outcomes<sup>5</sup>

1) Outcome 1: already achieved

The National REDD+ Taskforce and its secretariat started its operation in February 2012. Technical Teams (TT) and Consultation Groups (CG) were also established in 2012. These are functional under advice by the Project. Thus the Indicator 1.1 was achieved.

2) Outcome 2: almost achieved

The National REDD+ strategy (NRS) has been drafted since 2014. The outline of the draft NRS was presented during the 21st Conference of the Parties (COP21) the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC) in December 2015. This includes a relevant section on REDD+ safeguards. Sub-national National Forest Programme (NFP) documents were endorsed by the governors of 12 provinces and sub-national NFP programmes were implemented in 4 provinces. Thus Indicators 2.1, 2.2, 2.4 and 2.5 were achieved. Although draft Law on Wildlife and Biodiversity (LWB) was prepared, it is still waiting for the approval by the Minister of Agriculture, Forestry and Fisheries and not yet submitted to the Council of

<sup>3</sup> Reference Level

<sup>4</sup> Reference Emission Level

<sup>5</sup> The PDM of the project uses the term "Outcome" as meaning of "Output" to adjust the frameworks for REDD+ of another donors.

Ministers. Thus the Indicator 2.3 is not completely achieved.

3) Outcome 3: already achieved

Emission reduction was approved by the third party organizations in 1 demonstration. A document that summarized the experiences in Sub-national REDD+ activities was formulated and submitted to FCPF. The experiences on pilot sub-national approach was documented and shared to related members. Thus the Indicators 3.1 to 3.3 were achieved.

4) Outcome 4: moderately achieved

The plan to establish National Forest Monitoring System (NFMS) was described in NRS. Method of initial REL(s)/RL(s) calculation and a provisional REL/RL figure was developed and presented at COP21. Initial forest carbon measurement was proposed. Thus the Indicators 4.1 to 4.3 were achieved. However, the capacity of FA on improvement of forest reference emission level (FRELs) by itself needs to be further strengthened.

(2) Project Purpose: likely to be achieved

Necessary policies and measures are included in the draft NRS. Cambodia National REDD+ Taskforce and CG have enhanced consultation on draft NRS. Thus the Indicators 1 and 2 were achieved. However, the capacity of the stakeholders needs to be further strengthened especially in terms of assignment of officers and technical skills.

### 3-2 Summary of Evaluation Results

(1) Relevance: Very High

The National Strategic Development Plan (NSDP) states the importance of the forestry sector. Addressing climate change is one of the strategic goals in NFP, where REDD+ is positioned as a major component. Thus the Project is quite relevant to Cambodia's policy. Paris Agreement, which was adopted in UNFCCC COP21 in December 2015, also emphasized the importance of REDD+. Cambodia is one of the highly prioritized countries for JICA to assist a REDD+ process. A measure against climate change through sustainable forest management is one of JICA's main fields in nature conservation.

(2) Effectiveness: Relatively High

Many REDD+ development partners cooperated and supported each other to implement their activities under Cambodia REDD+ Roadmap. Any of these activities contribute to filling gap between the goal of Cambodia's REDD+ and its capacities. However, the capacities need to be further strengthened so that the Cambodian side implements REDD+ by itself nationwide.

(3) Efficiency: Relatively High

Inputs from multiple entities caused multiplied effects: effective utilizations of facilities and equipment provided by Japan's Grant Aid "Forest Preservation Programme", coordination among REDD+ development partners and Japanese enterprises and Non-Governmental Organizations (NGOs). On the other hand, considerable time and resources were spent for the coordination as a fact, especially at the earlier stage of the Project.

(4) Impact: Relatively High

Construction of the REDD+ mechanism was enhanced and the probability to receive economic inceptions became higher. Due to the Project efforts, FA, FiA and MoE have built a cooperative setup. However, it is difficult to predict whether the Overall Goal including "sustainable forest management" will be achieved within several years due to many external factors. For instance, a plan to reform the governmental structure concerning forestry sector was announced by the Prime Minister.

(5) Sustainability: Moderate

The Project is sustainable in terms of policy, institutional, social, cultural and environmental aspects. In financial aspects, budget allocation has been committed by any REDD+ development partners but is not sufficient in total, and FA still cannot cover even some of its basic activity cost such as allowance and fuel. In organizational aspects, it is difficult to predict an impact of the reform of the forestry sector. In technical aspects, the capacities of the Cambodian side need to be further strengthened especially in relation to the Outcome 4. In total, the sustainability of the Project is evaluated as moderate.

### 3-3 Factors Promoting Sustainability and Impact

(1) Factors Concerning Planning

- Mobilize relevant REDD+ development partners: The Cambodian side mobilized fund from many REDD+ development partners given the timely topic of REDD+. Existence of many REDD+ development partners would be a factor that negatively affects the Project but the Cambodian side has been making efforts in producing synergetic effects from inputs of various REDD+ development partners.

#### (2) Factors Concerning the Implementation Process

- Strengthened ownership and coordination ability: The ownership of the Cambodian side has been well established throughout the project period and led a steady coordination role. The Cambodian side has gradually understood and recognized REDD+ as its own important agenda while most of the related development partners respect the initiative and efforts on the Cambodian side.
- Clear target set by UNFCCC: FA, together with the other implementing organizations and the Project, accelerated a decision making process among government institutions by utilizing a window of opportunity to present its draft REDD+ strategy or draft NRS at COP21 held in December 2015 and to submit FRELS to UNFCCC. These targets also made the Cambodian side and REDD+ development partners strengthen their collaboration tie toward these same targets.

### 3-4 Factors Inhibiting Sustainability and Impact

#### (1) Factors Concerning Planning

- Complexity and uncertainty of REDD+: REDD+ has been a new political and technical agenda in an international society with complexity and uncertainty especially until UNFCCC COP21 in December 2015. For instance, there are no international standards for the technical methodology to collect and analyze data and information, which caused common difficulties for all the parties to prepare REDD+. Even though FA decided to adopt a specific methodology, FA has accepted different methodologies suggested by different REDD+ development partners at an operational level due to diplomatic concern, this caused delay and adjustment costs for the activities for Outcome 4.

#### (2) Factors Concerning the Implementation Process

- Decision making process: At the beginning of the Project, it took longer time for key Cambodian stakeholders in REDD+ to make policy decisions and share necessary information openly in Cambodian REDD+ concerned. Longer time was spent also in establishing the REDD+ management structure of the Cambodian side, which ended up considerable delay of Project implementation.

### 3-5 Conclusion

1. Paris Agreement of UNFCCC adopted in December 2015 clearly described the importance of sustainable forest management and promotion of REDD+ as a mitigation measure, while Royal Government of Cambodia (RGC) has put high priority on preparation of REDD+ as one of its NFP programs. Under the circumstances, the Project has been implemented in accordance with Cambodia's REDD+ process together with other interventions by many REDD+ development partners.
2. The Project made a significant contribution to Cambodia's REDD+ process by almost achieving the Project Purpose and the four Outcomes at high levels. As for the five evaluation criteria, the Relevance is evaluated as very high, the Effectiveness, the Efficiency and the Impacts are evaluated as relatively high, and the Sustainability is evaluated as moderate.
3. The capacities of FA and the related organization and the structure in RGC to promote the REDD+ process have been strengthened to some extent. The probability of Cambodia to access REDD+ finance was increased as a result of the Project. The payment is expected to contribute to sustainable forest management as long as a benefit from REDD+ is allocated for sustainable forest management.
4. However, capacity building on the Cambodian side still needs to be further strengthened for implementation as well as securing its budget. In order to achieve the Overall Goal, furthermore, more assistance by REDD+ development partners are definitely essential even if the Project Purpose is likely to be achieved.

### 3-6 Recommendations

To the key REDD+ Stakeholders:

1. To promote access to REDD+ finance for implementing REDD+ from both Public Fund of international organization and Private Fund of market mechanism to fill a gap of government budget. Continuous efforts by the Cambodian side for fund raising are expected not to lose the momentum of international trend and interests for REDD+ and carbon credit.
2. To enhance capacity for implementation at national and sub-national levels, the capacity of relevant

stakeholders for implementation needs to be further developed on the basis of a short and mid-term plan according to the practical implementation plan and prioritized activities.

3. To upgrade the capacity to implement national forest monitoring system, especially FRELs by production of 2016 land use/land cover map to ensure the realization of results-based payment. More staff should be allocated for MRV activities.
4. To secure necessary budget for government officers for REDD+ implementation. REDD+ development partners have been supporting allowance for staff of the Project stakeholders such as travel cost and daily allowance. Compensation by development partners is not expected to be sustainable. Therefore, FA and other implementing institutions should make efforts to increase the government budget for REDD+.
5. To accelerate establishment of new integrated institutional setup in forestry sector during the transition time of institutional reform and to adjust accordingly expected assignment of an advisor from JICA on REDD+ strategy from JFY 2016.

To JICA:

1. To extend the Project period of the Outcome 4, especially FRELs technically and financially to produce 2016 land use/land cover map and FRELs documents to ensure the realization of results-based payment.
2. To allocate an advisor to support implementation of a national REDD+ strategy.

### 3-7 Lessons Learned

1. The single policy instrument: Cambodia National REDD+ Roadmap set at earlier stage of the project, made multiple stakeholders on the Cambodian side as well as REDD+ development partners to harmonize their activities.
2. The single work plan for all relevant REDD+ development partners contributes to aligning each effort for the same goal among Project stakeholders and REDD+ programs, mainly CAM-REDD, UN-REDD Cambodia Program and FCPF. From the donor's view point, however, it is sometimes difficult to identify a concrete outcome from its own specific input given the complexity of input from multiple partners in the same activities at even PO level. Consideration and effort for the accountability and visibility must be discussed throughout the project implementation.



# 第1章 評価の概要

## 1-1 調査の背景

カンボジア王国（以下、「カンボジア」と記す）「REDD+<sup>1</sup>戦略政策実施支援プロジェクト（Project for Facilitating the Implementation of REDD+ Strategy and Policy : CAM-REDD）」（以下、「本プロジェクト」と記す）の終了時評価は、『新 JICA 事業評価ガイドライン』（第1版、2010年6月）に沿って、プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix : PDM）第7版（添付資料1のAnnex 2）に基づいて2016年2月13日から3月2日まで実施された。日本側とカンボジア側との合同評価調査団（以下、「調査団」と記す）により、終了時評価報告書が取りまとめられた。

## 1-2 プロジェクトの概要

本プロジェクトの概要は、プロジェクトの合同調整委員会（Joint Coordinating Committee : JCC）と位置づけられている、カンボジア国農林水産省（Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries : MAFF）森林局（Forestry Administration : FA）主催の気候変動及び REDD+委員会（Forestry Administration's Climate Change and REDD+ Committee : FACCC）において承認された PDM-7 に示されている。なお、この FACCC は、本プロジェクトが設立を支援した FA 主催の気候変動及び REDD+委員会でもある。本プロジェクトの要約を次表に示す。

表1 プロジェクトの要約

項目	内容
プロジェクト名	REDD+戦略政策実施支援プロジェクト（CAM-REDD）
協力期間	2011年6月1日～2016年5月31日（5年間）
プロジェクトサイト	カンボジア全土
ターゲットグループ	直接裨益者：REDD+タスクフォース及びカンボジア政府職員（省庁横断）
実施体制	直接ステークホルダー：農林水産省（MAFF）森林局（FA） <ul style="list-style-type: none"><li>プロジェクトダイレクター：FA 局長</li><li>プロジェクトダイレクター補：FA 次長</li><li>プロジェクトマネジャー：FA 野生生物・生物多様性部長</li><li>プロジェクト国家行政コーディネーター：FA 森林管理・国際協力部炭素クレジット・気候変動室室長代理</li><li>FA、環境省（MoE）、水産局（FiA）技術職員</li></ul>
上位目標	REDD+実施の経験に基づき、気候変動の緩和策として持続可能な

<sup>1</sup> 開発途上国における森林減少・劣化等による排出の削減等（Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in developing countries; and the role of conservation, sustainable management of forests and enhancement of forest carbon stocks in developing countries : REDD+）

	森林経営が推進される。
プロジェクト目標	REDD+の戦略と政策の実施が円滑に行われるように関係者（ステークホルダー）の能力が強化される。
成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. REDD+に係る準備作業を効果的に管理する体制、及びステークホルダー・エンゲージメントが国レベルで整備される。</li> <li>2. 国レベルの REDD+戦略が策定される。</li> <li>3. 準国レベル及び国レベルにて REDD+を管理する能力が向上する。</li> <li>4. 政府職員が森林炭素量の測定・報告・検証（MRV）及び参照排出レベル（RELs）の枠組み設計及びその実施に必要な能力を身につける。</li> </ol>

特筆すべきは、添付資料 1 の Annex 6 に示されている実施体制で、FA 職員が JICA の本プロジェクトメンバーとともに一つのユニットを構成していることである。このユニットは他の REDD+開発パートナーとともに、カンボジア王国政府 (Royal Government of Cambodia : RGC) が国家 REDD+プロセスを推進することを支援するように位置づけられている。なお、国家 REDD+プロセスは省庁横断的な取り組みであり、このユニットもそれに応じたメンバー構成になっている。

この実施体制は、カンボジアにおける REDD+の準備作業に関係する諸課題を網羅する国家 REDD+プロセスの中に位置づけられている。カンボジアの REDD+準備作業計画に対しては、さまざまな REDD+開発パートナーが参画しており、FA はこれらのパートナーに対して役割や業務の重複を避けるよう調整を主導している。タスクフォース・ワークプランの 4 分野の成果(アウトカム)については主要 REDD+開発パートナーの間で合意がなされ、本プロジェクトもこれらの成果を PDM（第 5 版から現行まで）に盛り込んでいる。

ワークプランにあるこれら四つの成果は次のとおりである。

成果 1：ロードマップの原則に基づく、REDD+準備作業プロセスの効果的な国家管理及びステークホルダーの参加（→制度構築）

成果 2：国家 REDD+戦略の策定及び実施体制（→戦略/政策）

成果 3：準国レベル及び国レベルにて REDD+を管理する能力の向上（→準国/国レベルの進展）

成果 4：モニタリングシステム及び参照レベル（RLs）/参照排出レベル（RELs）の枠組みの設計並びにその実施に必要な能力〔→測定・報告・検証（MRV）/REL/GHG<sup>2</sup>インベントリー〕

それぞれの支援枠組みの四つの成果における役割を表 2 に示す。

<sup>2</sup> 温室効果ガス

表2 国家 REDD+プロセスの四つの成果における主要な REDD+開発パートナーの役割

成果	主要な REDD+開発パートナー						
	UN-REDD (終了)	CAM-REDD	FCPF	FAO's TCP-NFI* (終了)	SFB/ LEAF**	日本大 使館	共有林や 保護林に おける将 来的 REDD プ ロジェク ト
成果1: 制度構築	√√	√	√√		√		
成果2: 戦略/政策	√√	√√	√√		√		
成果3: 準国/国 レベルの進展	√	√√	√√		√	√√	√√
成果4: MRV/REL/GHG インベントリー	√√	√√	√	√√	√	√√	√

√√: 主要な役割 √: 補助的役割 (出典: REDD+事務局長発表資料)

\* FAO TCP-NFI: 国連食糧農業機関国家森林インベントリー技術協力プログラム

\*\* SFB/LEAF: 森林及び生物多様性プロジェクト支援 (2016年6月終了予定)  
/アジアの森林における排出削減プログラム (2015年終了)

### 1-3 合同終了時評価の目的

本プロジェクトの終了時評価は、『新 JICA 事業評価ガイドライン 第1版』(2010年6月)に沿って、2016年2月13日から3月2日まで実施された。終了時評価の目的は、以下のようにまとめられる。

- (1) 本プロジェクトの達成度を計画(PDM 第7版)と比較し検証する。
- (2) 実施プロセスに影響した阻害要因や促進要因を同定する。
- (3) 本プロジェクトを評価5項目、すなわち妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性の観点から分析する。
- (4) 活動の進捗及び結果を現地において確認する。
- (5) プロジェクト終了時までにはプロジェクト目標を達成するために必要な行動や対策に係る提言を行うとともに、他のプロジェクトへ適用し得る教訓を取り出す。
- (6) 日本・カンボジア合同評価調査団による合同終了時評価報告書を作成し、FACCCにおいて報告し、両国側が協議議事録(M/M)に署名する。

#### 1-4 調査団構成

調査団は下記の団員からなる。

表3 調査団メンバー

##### a. 日本側

氏名	担当事項	所属
宍戸 健一	総括	JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ 審議役 兼 次長
見宮（清水） 美早	協力企画	JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ 自然環境第一チーム 企画役
田中 誠	評価分析	株式会社アイコンズ

##### b. カンボジア側

氏名	担当事項	所属
Mr. Bun Radar	団長	FA 森林管理・国際協力部副部長
Mr. So Than	副団長	FA 湾岸森林管理副主任行政調査官
Mr. Lim Bunna	評価	FA 行政計画・会計・財政部計画・統計・強化室副室長
Mr. Ouk Vibol	評価	FiA 水産資源保護部長

#### 1-5 評価手法とスケジュール

本終了時評価調査は以下の手順・方法により実施された。

- (1) 関係資料・書類を本プロジェクト関係者及び関係諸機関から収集する。
- (2) FA の主要関係者（添付資料1の Annex 1 及び添付資料2 参照）に面談を行う。
- (3) 本プロジェクトに関連する MoE 等の省庁、REDD+開発パートナーを訪問し、情報を収集する。
- (4) 収集されたデータ・情報を PDM-7（添付資料1の Annex 2）及び活動計画（PO）-7、添付資料1の Annex 3）に基づき分析する。
- (5) 本プロジェクトの達成度、実施プロセス、評価5項目を分析した結果を整理し、提言をまとめる。
- (6) 合同評価調査団内の会議において評価結果を協議し、評価結果を最終化する。
- (7) 合同評価結果を FACCC において関係者で共有し、本プロジェクトの教訓に関して合意する。

次表は、JICA が支援する協力プロジェクトの分析及び評価のための原則的な枠組みとしての5項目を述べたものである。JICA は、開発協力の評価において、プロジェクトのレビューや評価の価値判断の基準として開発援助委員会（Development Assistance Committee :



DAC) の項目を適用している。これらの項目は、1991年に経済協力開発機構 (Organization for Economic Cooperation and Development: OECD) の DAC において提案されたものである。

表 4 OECD-DAC 評価 5 項目

妥当性	妥当性は、プロジェクト目標及び上位目標が、RGC、日本の政策枠組み、受益者のニーズに照らして正当性があるか否かにより評価される。
有効性	有効性は、プロジェクト目標が協力期間終了までに達成される可能性、及び成果がプロジェクト目標の達成に貢献する度合いを分析することによって評価される。
効率性	効率性は、投入がタイミング的、質的及び量的にいかに成果に変換されるかを分析することによって評価される。
インパクト	インパクトは、プロジェクトの結果としてもたらされる、意図した・意図しない直接・間接の正負のあらゆる変化である。
持続性	持続性は、プロジェクトにより達成された効果がプロジェクト終了後に持続し、発展する度合いを分析することにより評価される。この分析は、組織、財務、技術、社会及び環境の視点からなる。

調査の詳細なスケジュールを添付資料 1 の Annex 4 に示す。

## 第2章 プロジェクトの実績

### 2-1 投入の実績

#### 2-1-1 日本側

##### (1) 専門家派遣

日本側は、長期専門家2名及び技術支援の専門家8名からなるチームを派遣した。前者はチーフアドバイザー、業務調整/セーフガードを担当し、後者は森林リモートセンシング、森林データベース、森林モニタリングの分野を担当した。詳細を添付資料1のAnnex 5に示す。

##### (2) 機材供与

日本側は、計約15万ドルの資機材を供与した。この資機材には、プリンター、カメラ、プロジェクター、GPS<sup>3</sup>、ボート等が含まれる(添付資料1のAnnex 7参照)。日本側は、REDD+関連事業の費用として108万378.90ドル、関連する国家森林計画(NFP)のための費用として71万8,864.20ドルをそれぞれ支出した(添付資料1のAnnex 8参照)。

##### (3) 研修員受入

カンボジア側ステークホルダー12名が、国家森林モニタリングシステム(NFMS)、森林資源リモートセンシング、コミュニティ参加による多様な森林保全、持続可能な森林経営(SFM)、環境教育技術等に関する本邦研修を受講した(添付資料1のAnnex 9参照)。

##### (4) その他

日本の環境プログラム無償「森林保全計画」(2010年3月18日政府間決定)により、森林の管理やモニタリングのための設備や機材が供与総額9億円で供与されるとともに、それらの使用法に関する研修が実施された。なお、本調査時点では、ほとんどの機材調達が完了していたが、一部の機材は終了評価実施中に調達手続きが行われている段階であった。この環境プログラム無償では、例えばセイマ保護林に対して、建物1棟、四輪駆動車1台、自動二輪車5台が供与されている。建設された建物は、FA及びREDD+開発パートナーがデモンストレーションを実施するための拠点として、また車両はその活動のため、それぞれ利用されていた。この環境プログラム無償と本プロジェクトとは当初から連携して実施されるよう計画されており、環境プログラム無償による機材調達は、PDMに外部条件として記載されている。

<sup>3</sup> 全地球測位システム (Global Positioning System : GPS)

## 2-1-2 カンボジア側

### (1) C/P 配置

カンボジア側は、当初は本プロジェクトの討議議事録（Record of Discussions : R/D）に記載されたとおりカウンターパート（Counterpart : C/P）と呼ばれていた。しかし、この用語は今回のプロジェクトの実態を反映していないため、2011年11月18日に開催された第1回 JCC 以降、カンボジア側は「ステークホルダー」と呼ばれることとなった。また、「1-2 プロジェクトの概要」で述べたように、JCC もまた「FA 主催の気候変動及び REDD+委員会（FACCC）」と改称された。

### (2) オフィススペース提供

カンボジア側は、FA 本局内に専門家のためのオフィススペースを提供した。ステークホルダーは添付資料 1 の Annex 6 に示されている。

## 2-2 活動の実績

現行の PDM 第7版（PDM-7）では、活動は19項目にまとめられている。これらの項目は現行の PO 第7版（PO-7）において、さらに80以上の細目に分化されている。概して、成果1及び成果3に係る活動はほぼ予定どおり進捗し、成果2は野生生物及び生物多様性法案の審議過程を理由として遅延し、成果4は主に RGC 内部の調整を理由として遅延した。本プロジェクトは、「国連森林減少・劣化に起因する温暖化ガスの排出とその抑制方策計画（United Nations Collaborative Programme on Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries : UN-REDD）<sup>4</sup>カンボジアプログラム」その他の REDD+ 開発パートナーが支援するプログラムとともに、カンボジアの REDD+準備を確立するための REDD+プロセスの一環とされている。

## 2-3 成果の実績と達成度

### 2-3-1 成果1の実績と、指標に対する達成度

**成果1：REDD+に係る準備作業を効果的に管理する体制、及びステークホルダー・エンゲージメントが国レベルで整備される。**

**成果の達成度：完全に達成**

指標	達成状況
1.1 国家タスクフォース、事務局、テクニカルチーム、コンサルテーショングループが設立され、機能する。	- 2012年から REDD+タスクフォース事務局（RTS）が稼動し始めた。2013年2月26日、農林水産相によって「カンボジア REDD+タスクフォース設立に関する決定」が公布され、タスクフォースが

<sup>4</sup> 2008年より国連開発計画（UNDP）、国連環境計画（UNEP）、国連食糧農業機関（FAO）が共同で実施している「途上国における森林減少・劣化による二酸化炭素排出の削減に関する取り組み」で、REDD+に関する活動を進めている。

	<p>正式に発足された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 本プロジェクトは RTS に対して、タスクフォースに属する四つのテクニカルチーム (TT) を設立するための業務指示書 (TOR) 案に関する助言を行った。四つの TT は、「利益分配」(活動 2.3)、「セーフガード」(活動 2.6)、「REDD+プロジェクト」(活動 3.1)、「MRV/REL」(活動 4.1) である。各 TT の TOR は第 1 回タスクフォース会議 (2013 年 9 月 11 日) において承認された。第 1 回 TT 会議は 2014 年 1 月 20 日に開催され、それ以降、四つの TT は稼動し続けている。</li> <li>- コンサルテーショングループ (CG) については、2013 年 8 月 29 日及び 30 日にメンバーが選出され、第 1 回 CG 会議は 2013 年 8 月 30 日に開催された。本プロジェクトはカンボジア側に対して、CG の TOR の草稿の内容やメンバー選出方法等について助言した。</li> <li>- タスクフォースは、本プロジェクトの実施に関する情報をウェブサイト<sup>5</sup>及び Facebook アカウントにおいて公表している。</li> <li>- 以上から、国家タスクフォース等が実施すべき活動を行って機能していることから、<u>この指標は達成された。</u></li> </ul>
--	---

指標 1.1 の達成度にかんがみれば、成果 1 は既に達成されている。

#### 2-3-2 成果 2 の実績と、指標に対する達成度

<b>成果 2 : 国レベルの REDD+戦略が策定される。</b>	
<b>成果の達成度 : ほぼ達成</b>	
指標	達成状況
2.1 国家 REDD+戦略案が草稿される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 2014 年から国家 REDD+戦略 (NRS) の案が草稿され、数回見直しが行われた。</li> <li>- この草稿は主に FA、FiA、MoE によってレビューされ、2015 年 11 月 25 日に承認された。</li> <li>- 2015 年 12 月、国連気候変動枠組み条約 (UNFCCC)</li> </ul>

<sup>5</sup> [www.cambodia-redd.org/category/supporting-redd-framework/cam-redd](http://www.cambodia-redd.org/category/supporting-redd-framework/cam-redd)



	<p>の第 21 回締約国会議（COP21）において NRS 案の概要が発表された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 以上から、<u>この指標は達成された。</u></li> </ul>
2.2 セーフガードの関連セクションが国家 REDD+戦略案に盛り込まれる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>- REDD+セーフガードに関連した既存の政策・法律・規制（PLRs）が分析され、この分析結果を基に、REDD+セーフガードの関連セクションが草稿された。このセクションは、NRS 第 6 版に「6.2.1. セーフガード情報システム（SIS）」として盛り込まれている。</li> <li>- NRS の最終案は「セーフガード情報システム（SIS）開発カレンダー2014～2026」を含む見込みである。</li> <li>- 以上から、<u>この指標は達成された。</u></li> </ul>
2.3 野生生物及び生物多様性法（仮称）案が閣僚評議会へ提出される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 野生生物及び生物多様性法（LWB）案は FA において議論されており、終了時評価時点で、法案の素案は作成されている。</li> <li>- 法案はこの議論を経て、MAFF により承認され、閣僚評議会に提出される予定である。そのための審議には、予期されたよりも長い時間を要する見込みである。</li> <li>- その後、法案は閣僚評議会において承認され、議会に提出される予定である。この流れは政治プロセスであるため、法案が議会によっていつ可決されるのかを予測することは困難である。</li> <li>- 以上から、<u>この指標は完全には達成されていない。</u></li> </ul>
2.4 州レベルの NFP の文書が少なくとも 7 州で承認される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 州レベルの NFP の文書は、パイリン州、コンポンチュナン州、コンポントム州、ストゥントレン州、ラタナキリ州、モンドルキリ州、クラチエ州、ケップ州、タケオ州、カンポット州、カンダル州、コンボンスプー州の 12 州の知事により承認された。</li> <li>- プノンペン都市圏においても州レベルの NFP の文書が作成され、承認待ちとなっている。</li> <li>- 以上から、<u>この指標は達成された。</u></li> </ul>
2.5 国家/州レベルの NFP が少なく	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 州レベルの NFP プログラムは、パイリン州、コン</li> </ul>

とも4州で、6プログラムを通して実施される。	<p>ポンチュナン州、ストウントレン州、コンポントム州の4州で実施された。</p> <p>- 以上から、<u>この指標は達成された。</u></p>
------------------------	--

指標 2.1 ないし指標 2.5 の達成度にかんがみれば、成果 2 はほぼ達成されている。 指標 2.3 は完全には達成されていないが、法案の素案自体は完成しており、閣僚評議会への提出は政治プロセスであって本プロジェクトではコントロールできないため、本プロジェクトの実績としてはほぼ達成されたといえる。

### 2-3-3 成果3の実績と、指標に対する達成度

<b>成果3：準国レベル及び国レベルにて REDD+を管理する能力が向上する。</b>	
<b>成果の達成度：完全に達成</b>	
指標	達成状況
3.1 排出削減が少なくとも一つのプロジェクトで確認できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 一つのデモンストレーションにおいて第三者機関により排出削減が認証された。具体的には、ベリファイド・カーボン・スタンダード（自主的なカーボンクレジット認証制度及び炭素算出のための基準）（VCS）<sup>6</sup>及び気候変動対策におけるコミュニティ及び生物多様性への配慮に関する企業・NGO 連合（CCBA）<sup>7</sup>によって承認された「共有林における森林減少・劣化に起因する排出の削減—カンボジア国オッドミアンチェイ」である。</li> <li>- これとは別に、セイマ保護林のデモンストレーションにおいても、第三者機関である CCBA により「セイマ保護林における森林減少・劣化に起因する排出の削減」として排出削減が実証され、認証待ちとなっている<sup>8</sup>。</li> <li>- 以上から、<u>この指標は達成された。</u></li> </ul>
3.2 試行的準国レベル <sup>9</sup> のアプローチが文書化される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>- TT の一つであるデモンストレーショングループ（REDD+プロジェクトチーム）が、REDD+活動の経験をまとめた文書を作成し、2014年5月27日に森林炭素パートナーシップ基金（FCPF）に提</li> </ul>

<sup>6</sup> [www.vcsprojectdatabase.org/#/project\\_details/904](http://www.vcsprojectdatabase.org/#/project_details/904)

<sup>7</sup> [www.climate-standards.org/2013/08/30/reduced-emissions-from-degradation-and-deforestation-in-community-forests-oddar-meanchey-cambodia/](http://www.climate-standards.org/2013/08/30/reduced-emissions-from-degradation-and-deforestation-in-community-forests-oddar-meanchey-cambodia/)

<sup>8</sup> [www.climate-standards.org/2013/09/12/reduced-emissions-from-deforestation-and-degradation-in-seima-protection-forest-2/](http://www.climate-standards.org/2013/09/12/reduced-emissions-from-deforestation-and-degradation-in-seima-protection-forest-2/)

<sup>9</sup> 行政単位規模あるいはランドスケープごとの対応。

	出した。 - 以上から、 <u>この指標は達成された。</u>
3.3 CAM-REDD で支援した全てのデモンストレーションサイトでの経験が編集され、関係者に共有される。	- 2014 年、いくつかの公式な会議において、「カンボジアにおける REDD+デモンストレーション活動」と題する文書が関係者に共有された。この文書は準国レベルのパイロットアプローチの経験を記載したものである。 - 以上から、 <u>この指標は達成された。</u>

指標 3.1 ないし指標 3.3 の達成度にかんがみれば、成果 3 は既に達成されている。

#### 2-3-4 成果 4 の実績と、指標に対する達成度

<b>成果 4：政府職員が森林炭素量の測定・報告・検証（MRV）及び参照排出レベル（RELs）の枠組み設計及びその実施に必要な能力を身につける。</b>	
<b>成果の達成度：達成は中程度</b>	
指標	達成状況
4.1 国家森林モニタリングシステム（NFMS）に関連したセクションが国家 REDD+戦略案の中に盛り込まれ、開始される。	- NFMS を構築する計画が、NRS 第 6 版に「6.2.2. 国家森林モニタリングシステム（NFMS）」として盛り込まれた。 - カンボジアの森林域の割合及び分布は、衛星土地モニタリングシステム（SLMS）の一部として、衛星画像に基づく土地利用図を作成することによりモニタリングされている。 - 以上から、 <u>この指標は達成された。</u>
4.2 初期の REL/RL が開発される。	- COP21 において、初期の REL(s)/RL(s)の計算方法及び改訂された REL/RL の図が発表された。終了時評価時点で、2014 年の地図化の結果が RGC による承認手続き中である。承認後、REL/RL の書類が MoE により UNFCCC 事務局に提出される予定である。 - 以上から、 <u>この指標は達成された。</u>
4.3 初期の森林炭素量計測案が IPCC <sup>10</sup> の Tier 1 <sup>11</sup> 以上のレベル	- REL(s)/RL(s)を計算するため、既存の文献から選択された排出係数並びに、2006 年、2010 年及び

<sup>10</sup> 気候変動に関する政府間パネル（Intergovernmental Panel on Climate Change：IPCC）

<sup>11</sup> IPCC ガイドラインにおいては、国別の温室効果ガス排出量算定において各国のデータの準備状況に応じて Tier 1～Tier 3 の方法が提案されている。

<p>で行われ、その報告用原案が認証のために作成される。</p>	<p>2014 年の地図から得られた活動度データ (AD) に基づいて、二酸化炭素排出量が計算された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 要すれば、指標に記載されている測量案が作成され、認証のための資料として準備されたため、<u>この指標は達成された。</u></li> </ul>
----------------------------------	---

PDM 第 7 版に基づく指標 4.1 ないし指標 4.3 の達成度にかんがみれば、成果 4 は既に達成されている。しかしながら、成果 4 の文言にある「実施に必要な能力」について、指標 4.1 ないし指標 4.3 はいずれも能力を直接測るものではないため、これらの指標の達成をもって直ちに成果 4 の達成とすることはできない。特に、成果に応じた支払い (result-based payment: RBP) を受けるために、森林参照排出レベル (Forest Reference Emission Level: FREL) を FA が独力で改善していくためには、人員配置及びスキルの面において更なる強化の必要がある。これらを加味すれば、成果 4 の達成は中程度である。

#### 2-4 プロジェクト目標の達成状況 (達成見込み)

<p>プロジェクト目標：REDD+の戦略と政策の実施が円滑に行われるように関係者（ステークホルダー）の能力が強化される。</p>	
<p>成果の達成度：ほぼ達成</p>	
<p>指標</p>	<p>達成状況</p>
<p>1. 必要な措置が国家 REDD+戦略の中に草稿される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 例えば、森林減少要因分析を踏まえた適切な土地利用を含む開発計画措置等、必要な措置は NRS 案に盛り込まれている。</li> <li>- 以上から、<u>この指標は達成された。</u></li> </ul>
<p>2. 国家 REDD+戦略を促進するための政策レベルの省庁間の調整や関係者（ステークホルダー）の協議が進められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- カンボジア国家 REDD+タスクフォース及び CG は、省庁間のコンサルテーション会議に参加している。参加者は、NRS 案に対する意見を表明し、その意見の一部は同案に反映された。</li> <li>- 以上から、<u>この指標は達成された。</u></li> </ul>

PDM 第 7 版に基づく指標 1 及び指標 2 の達成度にかんがみれば、プロジェクト目標は協力期間内にほぼ達成される見込みである。

しかしながら、プロジェクト目標の文言にある「能力」について、指標 1 及び指標 2 はいずれも、関係するステークホルダーの能力を直接測るものではないため、これらの指標の達成をもって直ちにプロジェクト目標の達成とすることはできない。成果 4 の達成状況で述べたように、REDD+の戦略及び政策の円滑な実施のためには、ステークホルダーの能力、特に REDD+を全国的に実施していくための技術的スキルがさらに強化される必要があ



る。

## 2-5 事業対象地

成果3における準国レベルのアプローチに係る対象地として、次の13のデモンストレーションサイトが選定された。

1. セイマ保護林・FPIC（モンドルキリ州）
2. ブンサイ・シエンパン（ラタナキリ州、ストゥントレン州）
3. 中央カルダモン保護林（プルサト州、コッコン州）
4. プレアビヒア保護林・プレFPIC（プレアビヒア州）
5. クレンプルンテップ野生生物保護区（プレアビヒア州）
6. 西シエンパン（ストゥントレン州）
7. オッドミアンチェイ共有林（オッドミアンチェイ州）
8. 南カルダモン保護林（コッコン州）
9. オヤダ保護林（ラタナキリ州）
10. モンドルキリ保護林（モンドルキリ州）
11. プレイロング（コンポントム州）
12. コンポンチュナン浸水林（コンポンチュナン州）
13. プレイヌップマングローブ林（プレアシハヌーク州）

これらの事業対象地を図1に示す。

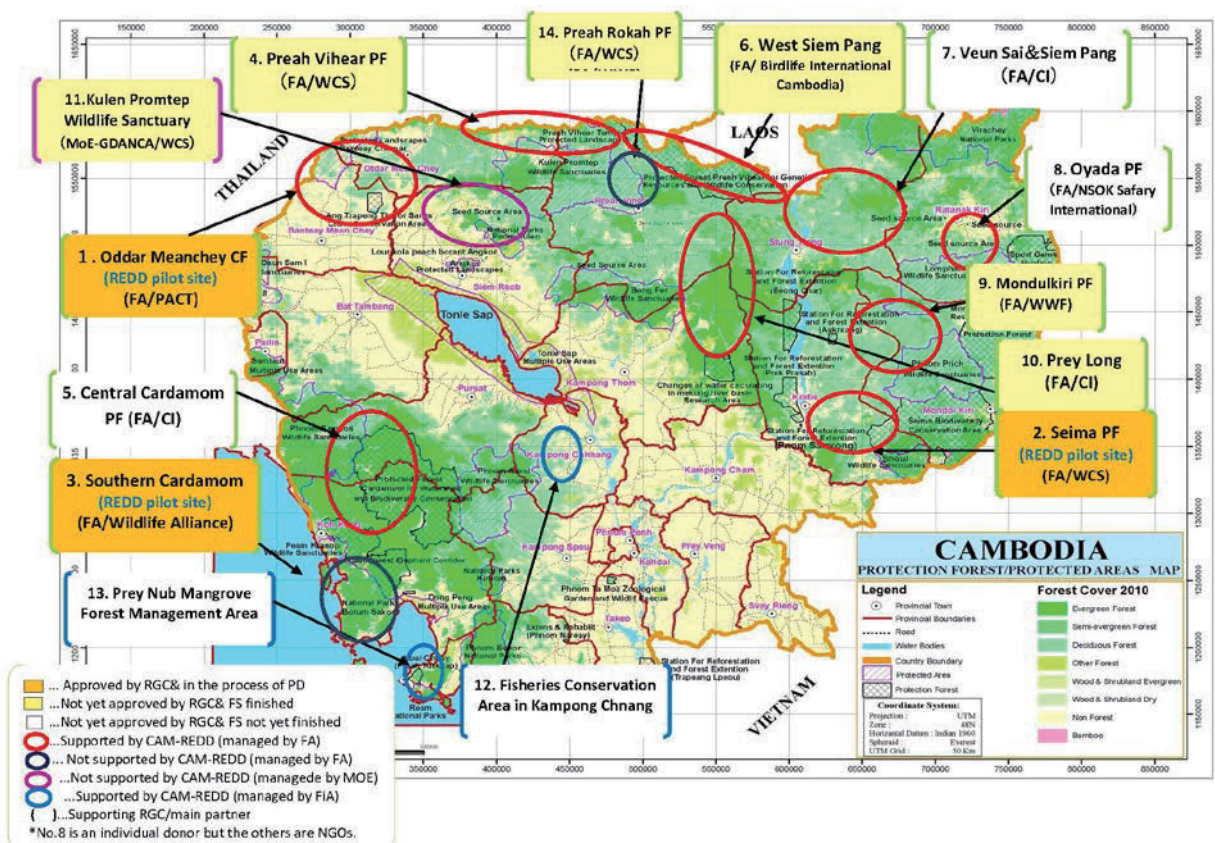


図1 REDD+デモンストレーション活動対象地

## 2-6 プロジェクト実施プロセスと枠組み

### 2-6-1 プロジェクト関係者間のコミュニケーションと連携

カンボジア側のステークホルダーはほとんどが日常業務で多忙であるにもかかわらず、JICA 専門家と非常に密にコミュニケーションを取っていた。マネジメントレベルのステークホルダーと JICA 専門家は、情報共有及び本プロジェクトの実施計画調整のため、月に2~3回の会合を実施しており、JICA 専門家とステークホルダーとの間に信頼関係が醸成された。

### 2-6-2 他の REDD+開発パートナーとのコミュニケーションと連携

協力期間中、RGCは多くの REDD+開発パートナーからの支援を受け入れた。特に本プロジェクトの初期は、これら REDD+開発パートナー間の調整が困難であり、調整のために時間や労力が消費された。しかし、REDD+タスクフォース事務局 (RTS) が次第に調整の役割を果たすようになり、活動の重複を避けるため、REDD+開発パートナーをカンボジア REDD+ロードマップに従うよう主導した。その結果、各パートナーの活動が調和の取れたものとなり、REDD+の枠組みの中で相乗効果が現れた。

カンボジア国家 REDD+タスクフォースの多年度計画は、CAM-REDD (本プロジェクト)、

UN-REDD カンボジアプログラム及びFCPF 準備作業プロジェクトのための基礎となっている。なお、このワークプランと本プロジェクトの PDM の成果及び活動は同一である。計画に基づく活動や目標に対するこのような共通理解は、活動や成果を有効かつ効果的なものとすることに貢献した。

### 2-6-3 REDD+に係る社会環境への配慮

本プロジェクトは、カンボジア国家 REDD+タスクフォースに属するコンサルティンググループに先住民族 (Indigenous People : IP) やジェンダー代表者といった多様なメンバーを加えるように助言した。IP の居住するコミュニティの多くは森林に大きく依存している。FA はプロジェクトの支援により、試験的に境界杭を打設して森林保護対象領域を示したが、この作業は、自由で事前に十分な情報を与えられた上での合意 (Free, Prior and Informed Consent : FPIC) の原則に基づくコンサルティングのプロセスを経てコミュニティの同意が取り付けられた。その結果、FA が実施する森林のパトロールにコミュニティが参加するケースも確認されている。FA は更に、蜂蜜、キノコ、樹脂その他の非木材産物 (Non-Timber Forest Products : NTFP) のような住民の合法的生計手段の確保にも配慮している。

## 2-7 効果発現に貢献した要因

### (1) オーナーシップ強化及び調整能力向上

カンボジア側のオーナーシップは協力期間を通じて強化されており、終了時評価時には安定した調整機能を果たしていた。カンボジア側は REDD+を自身の重要な問題であると理解、認識するようになってきており、また、関係する REDD+開発パートナーの多くはカンボジア側のイニシアティブや取り組みを尊重している。

### (2) 適切な REDD+開発パートナーの結集

カンボジア側は、REDD+が国際社会の関心事項であるとして、多くの REDD+開発パートナーからの資金を動員した。一方で、多くの REDD+開発パートナーの活動の重複、相反により、プロジェクトに負の影響を与えるリスクはあったが、カンボジア側はそのような事態を回避するとともに相乗効果を導くべく、REDD+開発パートナーの活動の調整に取り組んでいる。

具体的な相乗効果の成果として、NGO との連携によりデモンストレーションを実施した結果、オッドミアンチェイ共有林 (Community Forestry : CF) において、第三者機関により、排出削減が認証された。また、セイマ保護林 (protected forest : PF) においても排出削減が有効と認められたことは、特筆に値する。

### (3) UNFCCC によって設定された明確な目標

FA は 2015 年 12 月のフランス・パリで開催された UNFCCC-COP21 における REDD+

戦略案の発表、及び、FRELs の UNFCCC 提出の機会をとらえ、他の実施機関や本プロジェクトとともに、政府の制度に係る意思決定プロセスを加速した。これらの機会は、カンボジア側及び REDD+開発パートナーにとって、同じ目標を目指す協働関係の強化にもつながった。

## 2-8 問題点及び問題を惹起した要因

### (1) REDD+の複雑、かつ不確実な性格

REDD は、2007 年の UNFCCC-COP13 において、GHG の排出を削減する手段として初めて議論された。それ以来、条約の締約国は毎年 COP において REDD+の方法論に関して複雑な議論を展開してきており、REDD+は国際社会における新たな政治的かつ技術的な課題となっている。とりわけ 2015 年 12 月の UNFCCC-COP21 までは、多くの不確実性を含んでいた。

このような複雑かつ不確実な REDD+の性質は、本プロジェクトの実施にも影響した。例えば、データや情報を収集するための技術的方法論に係る国際的な基準が存在せず、そのことがすべての締約国にとって REDD+を準備するうえでの共通の課題となっていた。FA は特定の方法論を採用すると決定していたが、外交上の懸念から、実務レベルでは REDD+開発パートナーによって提案された異なる方法論を受け入れたことが確認されている。このことにより、成果 4 に係る技術移転の内容に変更が生じ、活動について遅延や調整コストが生じた。

### (2) 意思決定プロセス

前述したとおり、REDD+は複雑な体系であり、かつ、2005 年の UNFCCC-COP13 以来毎年の COP にて方法論が議論され更新されてきた。そのため、関係省庁その他の REDD+に関わる意思決定には、高度な政治的、技術的能力が要求されるとともに、REDD+に関する何らかの国際合意があれば、その内容を理解し自らの政策に反映させることも要求された。このような背景の下、カンボジア側の政策決定及び REDD+に関わる情報共有、及びカンボジア側の REDD+管理体制の確立に時間を要し、本プロジェクトの進捗の大幅な遅れにつながった。関係者の努力により遅れの大部分は解消されたものの、特に成果 2 及び成果 4 に係る部分は遅れを完全に取り戻すには至らなかった。

## 第3章 評価結果

### 3-1 妥当性

本プロジェクトの妥当性は極めて高いと評価される。

RGC は、「四辺形戦略」を通じて良い統治を実現すべく、国家戦略開発計画（National Strategic Development Plan：NSDP）2006～2010年版、2010～2014年版、2014～2018年版を策定した。その下位計画として2010年9月に策定された「国家森林計画（NFP）2010～2029」は九つの戦略目標を掲げ、その中で「森林資源は、特に農村部において、森林保全及び持続可能な森林経営、並びにすべての利害関係者の積極的な参加を通じて、公正なマクロ経済の成長及び貧困の緩和に貢献する。」と述べている。これらの戦略目標の一つである「気候変動への取り組み」を達成するため、REDD+はNFPの中で重要な項目に位置づけられている。

この計画に合わせて、「カンボジア国家 REDD+ロードマップ」が2010年に策定された。このロードマップの下で、FA、FiA、MoE は、国連開発計画（United Nations Development Programme：UNDP）、国連食糧農業機関（Food and Agriculture Organization of the United Nations：FAO）、JICA、UN-REDD カンボジアプログラム等の REDD+開発パートナーの支援を受け、REDD+プロセスを実施することとなっている。よって、本プロジェクトの目標はカンボジアの気候変動政策との整合性が高い。

カンボジアには、居住地の拡大やそれに伴う道路建設といった、森林セクター外部からの森林減少圧力が存在する。FA の森林被覆率評価によれば、カンボジアの森林被覆率は、2010年の10,363,789ha（国土面積の57.07%）から2014年の8,985,164ha（同49.48%）へと、協力期間の5年間で1,378,625haも減少している。かかる状況のなか、FA、MoE、FiA という異なる三つのステークホルダーの政府機関が連携して計画や制度設計を行い、森林セクターの枠を超えて森林減少対策に取り組むことは、森林セクター以外からの森林減少圧力に対抗する手段として適切・有効である。

国際レベルでは、2015年12月に開催されたUNFCCC-COP21にてパリ協定が締結された。パリ協定は、①すべての締約国の参加を通じたGHG排出削減、②GHG吸収源としての森林の保全（REDD+の推進）を述べている。カンボジアは、その森林面積の大きさから、国際社会において、REDD+による排出削減の貢献度が高い国の一つであると認識されている。

また、カンボジアはJICAがREDD+プロセスを支援する対象として最優先とする国の一つである。持続可能な森林経営を通じた気候変動対策は、JICAの自然環境保全に関する四つの基本分野の一つであり、JICAの援助政策はカンボジアの重要な開発課題に合致する。

### 3-2 有効性

本プロジェクトの有効性は比較的高いと評価される。



プロジェクト目標は協力期間内にほぼ達成される見込みであり、四つの成果も成果 2 の指標を除いて達成されている。なお、成果 2 の指標については、関連法案が閣僚評議会に提出される、というものである。法案の素案は作成されているが、先方政府の省庁再編もあり、政治的プロセスを通過する必要があるため、達成には時間を要する見込みである。その有効性は基本的には高いといえるが、成果 4 に関連する部分として、FA の能力は、自力で FREL を改善し国家規模で REDD+を実施していくにはいまだ不十分であり、そのことがプロジェクトの有効性に懸念が残る要因となっている。

カンボジアは、UNFCCC からの要請である REDD+の目標とその達成のための実施機関の能力とのギャップを埋めようと努力している。本プロジェクトは、REDD+ロードマップの下で、他の REDD+開発パートナーとの連携を考慮して、実施機関が必要としている能力及び具体的な改善策を特定し、各成果が設定されている。したがって各成果の達成は、プロジェクト目標である関係者（ステークホルダー）の能力向上及び REDD+準備作業プロセスの推進に効果的に貢献しており、成果とプロジェクト目標の関係性は明白である。

### 3-3 効率性

本プロジェクトの効率性は比較的高いと評価される。

本プロジェクトでは、日本の無償資金協力「森林保全計画」により供与された設備や機材が利用されている。無償資金協力により供与された建物や車両と共に、FA 職員によるこれらの効率活用のための旅費、日当、消耗品費を負担することにより、本プロジェクトの活動、特にデモンストレーション地域における諸活動の効率的かつ有効的な実施を促進した。

カンボジア REDD+ロードマップの下で RTS が主導し、REDD+開発パートナー間での調整が行われた。この調整には JICA 専門家とカンボジア側ステークホルダーが、多くの労力と時間を費やしたが、結果的に REDD+プログラムの重複を避け、効率的な活動の実施に貢献した。さらに、本プロジェクトと他の REDD+開発パートナーが活動細目を分担して実施したデモンストレーションについて、第三者機関により排出削減が認証されるといった、相乗効果が生じた。

他方、カンボジアの REDD+プロセスには多数の REDD+開発パートナーがかかわることから、調整コストが発生することは本プロジェクト開始当初から想定されていた。特に、本プロジェクト開始以降に参画してきた REDD+開発パートナーとの調整には、想定以上の調整コストを要したことがプロジェクトの効率性に影響を与えた。

### 3-4 インパクト

本プロジェクトのインパクトは中程度と評価される。

カンボジアの REDD+プロセスの第 1 段階である REDD+準備作業<sup>12</sup>は、本プロジェクト

---

<sup>12</sup> REDD+プロセスは、準備、実施、検証という三つの段階に分けられる。本プロジェクトは第 1 段階である REDD+準

及び他の REDD+開発パートナーの支援を受け、ほぼ完了している。カンボジア側は現在、REDD+プロセスの中で準備作業の段階から実施の段階へと転換しつつあり、本プロジェクトはこれらの段階に要求される能力の一部をある程度まで形成した。

プロジェクトの効果により、REDD+を実施するためのカンボジア側の組織能力は強化され、REDD+プロセスの第1段階である REDD+準備から第2段階である REDD+実施へと進むことができた。したがって、カンボジアが REDD+プロセスの先にある RBP をはじめとする経済的利益を受ける可能性が高まった。REDD+がもたらすこのような利益を、森林保全に関連する政策の実施のために投入していけば、本プロジェクトの上位目標にある持続可能な森林経営に貢献する可能性がある。

一方、全国レベルでの持続可能な森林経営に対する本プロジェクトのインパクトを特定することは困難である。終了時評価調査中、森林セクターに関する政府の組織構造を改編する計画が首相から発表された<sup>13</sup>。組織改編は森林保全行政を環境省の管轄に一本化することを重要項目の一つとしているが、新しい組織体制が定着するにはある程度の時間を要するため、この組織改編がプロジェクト効果の全国展開、さらに上位目標の達成にどの程度貢献するかを予測することは、終了時評価時点では困難である。なお、上位目標の指標は、森林減少及び/または森林劣化の速さが公に認知され、その割合を下げるために政策措置が広範に取られるとなっている。前者の速さの認知はこれまでの支援活動の一環として達成される見込みであるが、政策措置が広範にとられるか否かは、新しい組織体制下の実施能力及び予算によるところが大きい。

これらのほか、次のような正のインパクトもみられる。地域住民、IP、ジェンダー関係の代表者に、カンボジア国家 REDD+タスクフォースに属するコンサルテーショングループに参加してもらい、議論を通じてそれらの関係者と FA との間で合意を取り交わすことにより、REDD+プロセスに地域住民、IP やジェンダーの意向が反映され、環境社会配慮が内在化された。このような FPIC の参加型アプローチにより、住民の森林保全に対する意識の向上という正のインパクトがコミュニティに発現している。意識向上による具体的な活動としては、合意違反を未然に防ぐためのパトロールに住民が参加している事例がある。

これに対して、負のインパクトはみられない。

終了時評価時点において、上位目標が数年内に達成されるか否かを判断することは、次のような理由により困難であるものの、関係要因と状況をかながみて、中程度と判断する。

- プロジェクト目標は、REDD+プロセスの第1段階である REDD+準備プロセスに貢献するものであるのに対して、上位目標はほぼ未着手の第2段階である REDD+実施プロセスの経験に基づいたものであること。
- 上位目標は本プロジェクトの貢献のみならず、FA、関係する機関や他の REDD+開発パートナーの共同作業によって達成されるものであること。

---

備作業に貢献するものとして設計されている。

<sup>13</sup> 出典：環境省「モロドク・フン・セン・ビルディング」落成並びに「2015年環境ストック及び2016年への指針会議」開会式典におけるフン・セン首相の基調演説、2016年2月25日。

- PDM に外部条件として掲げられているように、上位目標の達成は安定的な資金源が確保できるか否かに左右されること。

しかし、プロジェクト目標の達成により REDD+プロセスの第 1 段階である REDD+準備作業がほぼ完了し、次の段階へと進むことができたことから、REDD+プロセスの先にある上位目標の達成に対してプロジェクト目標の達成がある程度貢献することは確実である。

### 3-5 持続性

本プロジェクトの持続性は、財務面、技術面に解決すべき課題が残されているため、中程度と評価される。

#### (1) 政策・制度面

カンボジアは、NFP において REDD+プロセスの推進を政策として宣言しており、少なくとも NFP の対象期間である 2029 年まではこの政策を維持すると期待される。よって、本プロジェクトの効果は政策・制度面において持続性は高い。

#### (2) 財政面

本プロジェクト終了後、REDD+プログラムの一部は、FCPF のようなプログラムの支援を受けつつ、RGC によって推進される予定である。しかし、国レベルの実施については、いくつかの REDD+開発パートナーから資金供出の申し出があるものの、いずれの REDD+開発パートナーからも総額として十分な予算を供出するとの確約はない。FA の予算は増加してきているが、パトロールのための日当や燃料費といった基本的な活動費用の一部はまだまだ賄うことができていない。また、REDD+資金を受け取る可能性は高まったものの、実際の資金受領は、REDD+の実施、排出削減の検証、炭素クレジットの売買というプロセスを経てからになるため、数年先以降になる見込みである。したがって、財政面の持続性は中程度である。

#### (3) 組織面

FA、FiA、MoE の協力関係は、これら三者が NRS の実施を担当し続ける限り維持されるものと期待され、組織面の持続性は基本的には高いといえる。しかし、REDD+プロセスを推進するための人的資源や組織能力は、REDD+プロセスをデモンストレーションのみならず全国の森林に展開していくためにはいまだ不十分であり、今後の人員配置や人材育成にかかっているといえる。

2016 年 2 月に首相から発表された森林セクターの組織改編に基づいて新しい組織体制を構築するには時間を要する。この組織改編は持続可能な森林経営に係る RGC の組織的機能を強化することを目指しているが、終了時評価の中でこの組織改編が組織面の持続性に及ぼすインパクトを予測することは困難である。上記状況を踏まえ、中程度といえる。

#### (4) 社会・文化・環境面

試験的ケースではあるが、多くのコミュニティが持続可能な森林経営に積極的に貢献し、FA とのコンサルテーションを経てパトロール活動に参加している。コミュニティにおけるこのような参加意識は、試験的ケース以外のコミュニティにおいても高まることが期待されるため、FA が参加型アプローチによってより多くのコミュニティを支援していけば、森林保全に対するコミュニティの理解を全国に広めていくことができると予想される。よって、社会・文化・環境面の持続性は高いといえる。

#### (5) 技術面

カンボジア側の技術的能力は、MRV 及び REL の枠組み設計や GHG インベントリーの作成に関する部分において更なる強化の必要があり、REDD+プロセス全体を推進するためにはいまだ十分ではないと言わざるを得ない。カンボジア側のステークホルダーは、準国レベル及び国レベルの REDD+戦略、行動計画、NFMS、実施段階に関する REDD+セーフガードを策定し実施するための自らの能力を強化する必要があると認識している。この認識は日本側も同意するところである。よって、技術面からみれば本プロジェクトの持続性は中程度である。

## 第4章 結論

調査団は、これまでに述べてきた調査結果及び評価より、次のように結論する。

RGC は自国の NFP のプログラムの一つとして REDD+準備作業に高い優先順位を付しており、2015 年 12 月に採択されたパリ協定は、持続可能な森林経営の重要性及び緩和策としての REDD+の推進を明記している。かかる状況の下で、本プロジェクトは、多くの REDD+開発パートナーによる支援とともに、カンボジアの REDD+プロセスに合わせて実施され、プロジェクト目標及び四つの成果を高いレベルでほぼ達成した。このことにより、カンボジアの REDD+プロセスに顕著な貢献をなした。

評価 5 項目については、妥当性は非常に高く、有効性、効率性、インパクトは比較的高く、持続性は中程度と評価される。

REDD+を推進する FA 及び関係機関の能力、並びに RGC 内の体制とも、ある程度強化されたといえる。本プロジェクトの結果、カンボジアが RBP として REDD+資金を受け取る可能性が高まった。REDD+がもたらすこのような収益が森林セクターに配分されれば、上位目標にある持続可能な森林経営に貢献すると期待される。

しかし、REDD+プロセスの次の段階である REDD+実施のためのカンボジア側の能力をさらに強化する必要があり、また、そのための予算を確保することも必要である。プロジェクト目標は達成される見込みであるが、REDD+開発パートナーによる更なる支援をなくしては、上位目標達成は難しいといえる。



## 第5章 提言

### 5-1 プロジェクトへの提言

#### (1) プロジェクトの成果取りまとめ及び対外発信

本プロジェクトはカンボジア側にさまざまな助言を行うとともに、文書作成や現場での活動を支援してきている。協力期間終了までに、これらの成果を取りまとめ、本プロジェクトのステークホルダー及びREDD+開発パートナーの参考となるように共有すべきである。なお、JICA が日本政府及び日本国民に対する説明責任を果たす観点からも、対外発信は非常に重要である。

### 5-2 REDD+ステークホルダーへの提言（主要 C/P である森林局及び環境省）

#### (1) REDD+を実施するための REDD+資金の利用促進

カンボジア側は、REDD+や炭素クレジットに係る国際的な潮流や関心の時宜を逸することなく、REDD+の実施に向けて必要となる財源として、国際機関の公的資金や市場原理に基づいた民間資金を獲得するための努力を継続すること。

#### (2) 国・準国レベルにおける実施能力の更なる強化

優先度の高い活動に応じた短中期の活動計画を策定の上、それに基づいて、実施を担当するステークホルダーの能力をさらに強化する必要がある。

#### (3) 国家森林モニタリングシステム、特に FRELs を実施するための人員配置

成果に基づく支払いを実現するため、2016年森林被覆図を作成する。また、MRVの活動には適切な数の人員を配置すべきである。

#### (4) REDD+の実施に必要な基本的予算の確保

これまで、旅費や日当といった基本的な事業経費も REDD+開発パートナーが支援している。REDD+開発パートナーによる補填は持続的とはいえず、FA その他の実施機関は、REDD+のための政府予算を増額する努力をすべきである。

#### (5) 組織改編に関し、森林セクターにおける新体制確立の加速化、また、それに伴った第2-3 四半期に派遣中の REDD+戦略に関する JICA からのアドバイザーの TOR 調整

### 5-3 JICA への提言

#### (1) 成果4に係る協力期間の延長

FRELに係る技術的及び財政的支援を行い、2016年森林被覆図及びFRELの文書の作成を支援し、成果に応じた支払いの実現に貢献すること。

#### (2) 国家 REDD+戦略の実施を支援するためのアドバイザーの配置

- 国家 REDD+戦略の実施を引き続き支援する。
- RGC、JICA、民間企業、NGO 及び国際機関といった他の REDD+関係機関からの

REDD+資金調達を推進する。

## 第6章 教訓

- (1) 単一の政策文書：カンボジア国家 REDD+ロードマップは、本プロジェクトの初期に策定され、カンボジア側の多数のステークホルダー及び REDD+開発パートナーの活動の調和に貢献した。特に多くの機関や関係者を巻き込む場合、このようなガイドライン的文書が、効果的かつ効率的な事業実施に重要な役割を果たす可能性が高い点を考慮することが肝要である。

なお、複数機関の効率的な協働という観点からは、FA のオーナーシップ向上も、プロジェクトの多くのステークホルダーや REDD+開発パートナーとの調整に大きく貢献したといえる。また、REDD+開発パートナーの多くが FA のイニシアティブを尊重していた点も、スムーズな調整において重要な要素である。REDD+という新しくかつ複雑なメカニズムに対して、このような明瞭なマネジメントの枠組みや被支援国機関のイニシアティブが有効に機能したといえる。

- (2) 関連する主要 REDD+開発パートナーのための単一のワークプランにより、プロジェクトのステークホルダー並びに、CAM-REDD（本プロジェクト）、UN-REDD カンボジアプログラム及び FCPF を中心とする REDD+開発パートナーが、同一の目標に向けて個々の取り組みを調整・連携させることができた。なお、同ワークプランと本プロジェクトの PDM の成果及び活動は同一である。先方のプログラムに連動した複数ドナーの案件形成において、関係者単一のワークプラン導入を検討することも一案である。

REDD+メカニズムの議論が UNFCCC 内で進展するなか、プロジェクトのステークホルダー及び REDD+開発パートナーは、国際的な潮流を見極めつつ、自らの立ち位置及び追求すべき目標を明確にしてきている。その都度、ワークプランを柔軟に調整してきた点も、実行可能かつ具体的なワークプランに沿った活動の実施につながっている。

しかし、PO レベルの同一活動細目に複数のパートナーが投入するという複雑さも生じており、ドナーの観点からは、各自の投入から生じる具体的な成果を特定することが困難な点が課題といえる。REDD+開発パートナーにとって、自らの貢献に関するアカウントビリティや可視性を確保することは重要である。協力期間を通じて、アカウントビリティ及び可視性に係る配慮及び取り組みについて、議論され必要な対応が取られることが望まれる。

## 添 付 資 料

- 添付資料 1 合同評価報告書 (Joint Terminal Evaluation Report)
- 添付資料 2 主要面談者リスト・面談メモ
- 添付資料 3 評価グリッド
- 添付資料 4 収集資料リスト

**Joint Terminal Evaluation Report**  
**on**  
**The Project for Facilitating the**  
**Implementation of REDD+ Strategy**  
**and Policy (CAM-REDD)**

Cambodia

2 March 2016

---

Mr. Kenichi SHISHIDO

Leader

Japanese Terminal Evaluation Team

Japan International Cooperation Agency

---

Mr. Bun Radar

Deputy Director of Department of Forest

Industry and International Cooperation

Forestry Administration

Kingdom of Cambodia





## TABLE OF CONTENTS

Abbreviation and Acronyms .....	iii
1. Overview of Joint Terminal Evaluation .....	1
1.1. Introduction.....	1
1.2. Project Outline .....	1
1.3. Purpose of Joint Terminal Evaluation .....	3
1.4. Member of Joint Terminal Evaluation Team.....	4
1.5. Evaluation Method and Schedule .....	4
2. Project Achievements.....	6
2.1. Achievements of Inputs .....	6
2.2. Achievement of Activities.....	7
2.3. Achievement of Outcomes.....	7
2.3.1. Achievement of Outcome 1 .....	7
2.3.2. Achievement of Outcome 2 .....	8
2.3.3. Achievement of Outcome 3 .....	10
2.3.4. Achievement of Outcome 4 .....	11
2.4. Achievement of Project Purpose.....	12
2.5. Target Area.....	13
2.6. Implementation Process and Framework .....	14
2.6.1. Communication and Coordination among JICA experts and Stakeholders .....	14
2.6.2. Communication and Coordination among REDD+ Development Partners.....	14
2.6.3. Social and Environmental Consideration under REDD+.....	15
2.7. Factors Positively Affected Results .....	15
2.8. Factors Negatively Affected Results .....	16
3. Evaluation Results .....	18
3.1. Relevance: Very High .....	18
3.2. Effectiveness: Relatively High.....	19
3.3. Efficiency: Relatively High .....	19
3.4. Impacts: Relatively High .....	20
3.5. Sustainability: Moderate .....	21
4. Conclusion .....	23
5. Recommendation .....	24
6. Lessons Learnt .....	26
Annex 1 List of interviewees	
Annex 2 Project Design Matrix (PDM ver.7)	

- Annex 3 Plan of Operation (PO)
- Annex 4 Schedule of Terminal Evaluation Team
- Annex 5 List of Japanese Experts
- Annex 6 List of Counterpart Staff
- Annex 7 List of Equipment Provided by the Japanese Side
- Annex 8 Project Cost provided by Japanese side
- Annex 9 List of Training in Japan

### Abbreviation and Acronyms

Abbreviation	English
AD	activity data
C/P	counterpart
CAM-REDD	Project for Facilitating the Implementation of REDD+ Strategy and Policy
CCBA	Climate, Community and Biodiversity Alliance
CF	community forest
CG	Consultation Group
COP	Conference of the Parties
DAC	Development Assistance Committee
DG	Director General
FA	Forestry Administration
FACCC	Forestry Administration's Climate Change and REDD+ Committee
FAO	Food and Agriculture Organization of the United Nations
FCPF	Forest Carbon Partnership Facility
FiA	Fisheries Administration
FPIC	free, prior and informed consent
FREL	Forest Reference Emission Level
GDANCP	General Department of Administration for Nature Conservation and Protection
GHG	greenhouse gas(es)
GIS	geographic information system
IP	indigenous people(s)
IPCC	Intergovernmental Panel on Climate Change
IRD	Institute of Forest and Wildlife Research and Development
JCC	Joint Coordinating Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
LEAF	Lowering Emissions in Asia's Forests
LWB	Law on Wildlife and Biodiversity
M/M	Minutes of Meeting
MAFF	Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
MDG	Millennium Development Goals
MoE	Ministry of Environment
MRV	measurement, reporting and verification
NCFPCC	National Community Forest Programme Coordination Committee
NFI	National Forest Inventory

NFMS	National Forest Monitoring System
NFP	National Forest Programme
NGO	non-governmental organization
NRS	National REDD+ Strategy
NSDP	National Strategic Development Plan
NTFP	non timber forest product
OECD	The Organisation for Economic Co-operation and Development
OTA	Office of Technical Advisor to Director General of Forestry Administration
PDM	Project Design Matrix
PF	protected forest
PLRs	policies, laws and regulations
PO	Plan of Operation
RBP	result-based payment
R/D	Record of Discussions
REDD+	Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in developing countries; and the role of conservation, sustainable management of forests and enhancement of forest carbon stocks in developing countries
REL	Reference Emission Level
RGC	Royal Government of Cambodia
RL	Reference Level
RTS	REDD+ Taskforce Secretariat
SFB	Supporting Forests and Biodiversity project
SFM	Sustainable Forest Management
SIS	Safeguard Information System
SLMS	Satellite Land Monitoring System
TA/DG-FA	Technical Advisor to Director General of Forestry Administration
TOR	Terms of Reference
TT	Technical Team
UNDP	United Nations Development Program
UNFCCC	United Nations Framework Convention on Climate Change
UN-REDD	The United Nations Collaborative Programme on Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries
USAID	United States Agency for International Development
VCS	Verified Carbon Standard
WCS	Wildlife Conservation Society

## 1. Overview of Joint Terminal Evaluation

### 1.1. Introduction

The Terminal Evaluation for “the Project for Facilitating the Implementation of REDD+ Strategy and Policy (CAM-REDD)” (hereinafter referred to as “the Project”) was conducted on the basis of the JICA Evaluation Guideline (1<sup>st</sup> Edition, June 2010) between 13<sup>th</sup> February and 2<sup>nd</sup> March 2016. The review was made along the Project Design Matrix (hereinafter referred to as “PDM”) version 7 (Annex 2). The Terminal Evaluation report has been prepared by the Japanese and Cambodian Joint Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Team”).

### 1.2. Project Outline

The project outline is indicated in PDM-7 approved by FA’s Climate Change and REDD+ Committee (hereinafter referred to as “FACCC”) as the Joint Coordinating Committee, which was formulated as FA’s Climate Change and REDD+ Committee in this project’s context and it was put into effect as of 28 October 2015. A summary of the Project is described in the following table:

Item	Description
Project Name	Project for Facilitating the Implementation of REDD+ Strategy and Policy (CAM-REDD)
Project Period	1 June 2011 – 31 May 2016, 5 years
Project Site	whole country
Target groups	Direct beneficiary – REDD+ Task Force and Cambodian Governmental Officials (inter-ministerial)
Implementation Structure	Direct stakeholders: Forestry Administration, Ministry of Agriculture Forestry and Fisheries (MAFF) <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ Project Director: Head of Forestry Administration (FA), Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries</li> <li>➤ Assistant to Project Director: Deputy Director-General of FA</li> <li>➤ Project Manager: Director of Department of Wildlife and Biodiversity, FA</li> <li>➤ Project National Administrative Coordinator: Acting Manager, Office of Carbon Credit and Climate Change, Department of Forest Industry and International Cooperation, FA</li> <li>➤ Technical Personnel of FA, Ministry of Environment (MoE), and FiA</li> </ul>



Item	Description
	(Fisheries Administration)
Overall Goal	Sustainable forest management as a mitigation measure against climate change is promoted based on the experiences of REDD+ implementation.
Project Purpose	Capacity of related stakeholders is strengthened for smooth implementation of REDD+ strategy and policy.
Outcomes	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Effective National Management of the REDD+ Readiness process and stakeholder engagement Development of the National REDD+ Strategy</li> <li>2. Improvement of capacity to manage REDD+ at the subnational/national levels.</li> <li>3. Design of a Monitoring System and RLs/RELS framework and capacity for implementation.</li> </ol>

Specifically mentioning, implementation structure as Annex 6 describes is constructed of a team of FA personnel together with the Office of Technical Advisor to Director General of FA (TA/DG-FA<sup>1</sup>) and JICA Technical Assistance Team on MRV/REL (JICA TA Team<sup>2</sup>). Together with other REDD+ development partners, it supports the Royal Government of Cambodia (RGC) to progress on national REDD+ process, which is an inter-ministerial effort.

This implementing structure stands in national REDD+ process which encompasses all the issues related to REDD+ Readiness in Cambodia. There were various REDD+ development partners coming in Cambodia's REDD+ readiness planning and FA led the discussion to align all of them to avoid duplicated roles. Four areas of Outcomes of the Taskforce Workplan were agreed among REDD+ development partners, and CAM-REDD applied these outcomes to its PDM (from version 5 to the present) as well.

The four outcomes of the Workplan are:

Outcome 1: Effective National Management of the REDD+ Readiness process and stakeholder engagement in accordance with the Roadmap principles (--> Institutional Arrangements)

Outcome 2: Development of the National REDD+ Strategy and Implementation Modalities (-->Strategies/Policies)

<sup>1</sup> TA/DG-FA consists of JICA experts and Cambodian officials, providing technical support when it is necessary in all four outcomes of CAM-REDD/national REDD+ process.

<sup>2</sup> The principal role of JICA TA Team is to provide technical support on MRV and REL (under the budget of Japanese side inputs for CAM-REDD).

Outcome 3: Improved capacity to manage REDD+ at project and subnational levels  
(-->Projects/Sub-National Development)

Outcome 4: Design of a Monitoring System and RLs/RELS framework and capacity for implementation (-->Measurement, Reporting, and Verification (MRV)/ GHG Inventory)

Roles of each supporting framework in the four outcomes are shown in the Figure 1.

**Figure 1: Roles of major REDD+ development partners on four areas of the national REDD+ process**

Outcome	Major REDD+ Development Partners						
	UN-REDD (completed)	CAM-REDD	FCPF	FAO's TCP-NFI*(completed)	SFB/LEAF**	Embassy of Japan	REDD Projects in Community/Protected Forests
Outcome 1: Institutional Arrangements	√√	√	√√		√		
Outcome 2: Strategies/Policies	√√	√√	√√		√		
Outcome 3: Projects/Sub-National Development	√	√√	√√		√	√√	√√
Outcome 4: MRV/REL/ GHG Inventory	√√	√√	√	√√	√	√√	√

√√: Principle role      √: Secondary role (source: presentation of the head of the Secretariat)

\* FAO TCP-NFI: Food and Agriculture Organization Technical Cooperation Programme on National Forest Inventory.

\*\* SFB/LEAF: Supporting Forests and Biodiversity project (to be completed in June 2016) / Lowering Emissions in Asia's Forests (completed in 2015)

### 1.3. Purpose of Joint Terminal Evaluation

The Terminal Evaluation for “the Project” was conducted based on the JICA Evaluation Guideline (1<sup>st</sup> Edition, June 2010) between 13 February and 2 March 2016. The specific purposes of the Terminal Evaluation outlined as below:

- (1) To verify the accomplishments of the Project compared to those planned (PDM ver.7);

- (2) To identify obstacles and/or facilitating factors that have affected the implementation process;
- (3) To analyze the Project in terms of the five evaluation criteria, namely Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact and Sustainability;
- (4) To monitor the progress and results of the activities on site;
- (5) To make recommendations for the necessary actions and measures in order to attain the Project Purpose by the end of the Project cooperation period, and lessons learnt applicable for other projects; and
- (6) To make a terminal evaluation report by Japanese and Cambodian joint evaluation team, attain endorsement from the FACCC, and sign Minutes of Meeting (M/M) by Cambodian and Japanese sides.

#### 1.4. Member of Joint Terminal Evaluation Team

The Team is composed of the following personnel:

a. Japanese Side

Name	In Charge	Position and Organization
Mr. Kenichi SHISHIDO	Team Leader	Deputy Director General, Global Environment Department, JICA
Ms. Misa KEMMIYA (Shimizu)	Cooperation Planning	Acting Director, Natural Environment Team 1, Forestry and Nature Conservation Group, Global Environment Department, JICA
Dr. Makoto TANAKA	Evaluation Analysis	Senior Consultant, ICONS Inc.

b. Cambodian Side

Name	In Charge	Position and Organization
Mr. Bun Radar	Team Leader	Deputy Director of Department of Forest Industry and International Cooperation, FA
Mr. So Than	Sub Leader	Deputy Chief of Gulf's Forestry Administration Inspectorate, FA
Mr. Lim Bunna	Member	Deputy Chief of Planning, Statistics and Consolidation Office, Department of Administration, Planning, Accounting and Finance, FA
Mr. Ouk Vibol	Member	Director of Department of Fisheries Conservation, FiA

#### 1.5. Evaluation Method and Schedule

The terminal evaluation was conducted in the following manner:

- (1) Collected relevant documents from the Project and concerned organizations;
- (2) Conducted key informant interviews (see Annex 1) from main stakeholders in FA
- (3) Visited to collect information at offices of relevant governmental agencies such as MoE as well as REDD+ development partners and collect information
- (4) Analyzed the collected information and data by referring to the PDM-7 (Annex 2) and the Plan of Operation (PO-7, Annex 3);
- (5) Compiled the result of the analysis in terms of the project achievements, implementation process and five evaluation criteria with recommendations;
- (6) Held a series of discussions at evaluation meetings to finalize the result of evaluation; and
- (7) Shared the result of evaluation with concerned personnel at FACCC and agreed on recommendations for the Project.

The following table is a description about the five criteria applied as principal framework for the analysis and assessment of JICA-supported cooperation projects. JICA applies the Development Assistance Committee (DAC) criteria for evaluating development assistance for value judgment of its project review/evaluation. The criteria were proposed in the DAC at the Organization for Economic Cooperation and Development (OECD) in 1991.

Relevance	Relevance is assessed by the validity of the project purpose and overall goal in connection with the policy framework of RGC and Japanese aid policy and the needs of beneficiaries.
Effectiveness	Effectiveness is assessed by analyzing the probability to accomplish the project purpose by the end of the project term and the extent to which outcomes contribute to the achievement of the project purpose.
Efficiency	Efficiency is assessed by analyzing productivity on how inputs are converted into outcomes in terms of timing, quality and quantity.
Impact	Impact is any intended/unintended, direct/indirect and positive/negative changes that have been brought about as a result of the project.
Sustainability	Sustainability is assessed by analyzing the extent to which the achievement of the project will be sustained or expanded after the project ends. The analysis is made from organizational, financial, technical, social and environmental viewpoints.

The detailed schedule of survey mission is shown in Annex 4.

## **2. Project Achievements**

### **2.1. Achievements of Inputs**

The Japanese side dispatched 2 long-term experts and a team of 8 technical experts. The former consist of Chief Advisor and Project Administrative Coordinator and the latter were engaged in Forest Remote Sensing, Forest Database and Forest Monitoring. The details are shown in Annex 5.

The Japanese side purchased equipment and machinery of about \$150,000 in total, which include computers, printers, cameras, projectors, GPS and boats, etc. (see Annex 7). The Japanese side bore \$1,080,378.90 as costs for the Project and \$718,864.20 for National Forest Programme (NFP) (see Annex 8). 12 stakeholders were trained in Japan in topics of National Forest Monitoring System (NFMS), remote sensing of forest resources, various forest conversations with community participation, ability for sustainable forest management (SFM), and environmental education technique (see Annex 9).

Japan's Grant Aid for the Forest Preservation Programme provided facilities and equipment for forest management and monitoring, as well as training of the equipment usage, some equipment is still under procurement. The total amount of the grant aid is 900 million yen. In Seima Protected Forest, for instance, one building, one 4WD car and five motorbikes were supplied by the grant aid. The building has been used as a base for FA and REDD+ development partners to implement a demonstration, and the vehicles have been utilized for their activities. This grant aid and the Project were planned to be implemented in synergy from the beginning. The provision of equipment by the grant aid is stated as one of the important assumptions in the PDMs.

The Cambodian side was initially called "Counterpart (C/P)" as designated in the Records of Discussion (R/D) of the Project. Since this term does not reflect actual situation, however, the Cambodian side has been called "Stakeholder" after the 1st Joint Coordinating Committee (JCC) meeting held on 18 November 2011. Then the JCC was also renamed as "FA's Climate Change and REDD+ Committee (FACCC)" as described in "1.2. Project Outline". The Cambodian side provided office spaces for the experts in FA Headquarters. The stakeholders are listed in Annex 6.



## 2.2. Achievement of Activities

The activities are summarized in 19 items in the current Project Design Matrix ver. 7 (PDM-7, see Annex 2). They are divided into more than 80 sub-items in the current Plan of Operation ver. 7 (PO-7, see Annex 3). In general, activities under Outcomes 1 and 3 are mostly on schedule, while Outcome 2 has been delayed due to consultation process regarding the draft Law on Wildlife and Biodiversity, Outcome 4 was also delayed mainly due to internal coordination within RGC. The Project has been considered as part of Cambodia's REDD+ process to establish REDD+ readiness, together with "the United Nations Collaborative Programme on Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries (UN-REDD) Cambodia Program" and other programs supported by other REDD+ development partners.

## 2.3. Achievement of Outcomes

### 2.3.1. Achievement of Outcome 1

<b>Outcome 1: "Effective National Management of the REDD+ Readiness process and stakeholder engagement"</b>	
<b>Degree of achievement by the end of the Project: Fully achieved</b>	
<b>Objectively Verifiable Indicators (for CAM-REDD)</b>	<b>Achievements</b>
1.1 National taskforce, its secretariat, technical teams and consultation groups are established and become functional.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- The REDD+ Taskforce Secretariat (RTS) started its operation from 2012. The Taskforce was inaugurated on 26 February 2013 by the promulgation of "Decision on Establishment of Cambodian REDD+ Taskforce" by the Minister of Agriculture, Forestry and Fisheries.</li> <li>- CAM-REDD advised the RTS on drafts of their terms of references (TORs) to establish four (4) Technical Teams (TT) that belong to the Taskforce: "Benefit Sharing" (Activity 2.3), "Safeguard" (Activity 2.6), "REDD+ Projects" (Activity 3.1) and "MRV/REL" (Activity 4.1). TOR for each TT was approved in the 1st Taskforce meeting (11 September 2013). The 1st TT meeting was held on 20th January 2014,</li> </ul>

	<p>and since then the four TTs have been under operation.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- As for the Consultation Group (CG), members were appointed on 29 and 30 August 2013. The first CG meeting was held on 30 August 2013. CAM-REDD advised the Cambodian side on the contents of the draft TOR of CG and how to select the members.</li> <li>- The Taskforce discloses information on the implementation of CAM-REDD on its website<sup>3</sup> and Facebook account.</li> <li>- From above, <i>this indicator was achieved.</i></li> </ul>
--	--

In consideration of the achievement of Indicator 1.1, *Outcome 1 has already been achieved.*

### 2.3.2. Achievement of Outcome 2

<b>Outcome 2: “Development of the National REDD+ Strategy”</b>	
<b>Degree of achievement by the end of the Project: Almost achieved</b>	
Objectively Verifiable Indicators (for CAM-REDD)	Achievements
2.1 A national REDD+ strategy is drafted.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- A national REDD+ strategy (NRS) has been drafted since 2014 and revised for several times.</li> <li>- This draft was reviewed mainly by FA, FiA and MoE and agreed on 25 November 2015.</li> <li>- The outline of the draft NRS was presented during the 21st Conference of the Parties (COP21) the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC) in December 2015.</li> <li>- From above, <i>this indicator was achieved.</i></li> </ul>
2.2 A relevant section on	- Existing policies, laws and regulations (PLRs)

<sup>3</sup> [www.cambodia-redd.org/category/supporting-redd-framework/cam-redd](http://www.cambodia-redd.org/category/supporting-redd-framework/cam-redd)

<p>safeguards is compiled in a draft national REDD+ strategy.</p>	<p>related to REDD+ safeguards have been analyzed. A relevant section on REDD+ safeguards has been drafted based on this analysis result. This section is included in NRS ver. 6 as “6.2.1. Safeguards Information System (SIS)”.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- The final draft of NRS may include the “Calendar of Safeguards Information Systems (SIS) Development 2014-2026”.</li> <li>- From above, <i>this indicator was achieved</i>.</li> </ul>
<p>2.3 Draft Law on Wildlife and Biodiversity is submitted to the Council of Ministers</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- The Law on Wildlife and Biodiversity (LWB) has been discussed in FA.</li> <li>- After passing the discussion, it will be approved by MAFF. Consultation process may take longer time than expected.</li> <li>- Then the draft law will be approved by the Council of Ministers, and submitted to the Parliament. Since this is a political process, it is difficult to predict when the law is approved by the Parliament.</li> <li>- From above, <i>this indicator is not completely achieved</i>.</li> </ul>
<p>2.4 Sub-national NFP documents are endorsed for at least 7 provinces</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Sub-national NFP documents were endorsed by the governors of 12 provinces: Pailin, Kampong Chhnang, Kampong Thom, Stung Treng, Ratanakiri, Mondulkiri, Kratie, Kep, Takeo, Kampot, Kandal and Kampong Spoeu.</li> <li>- A sub-national NFP document was prepared for Phnom Penh Municipality and is waiting for endorsement.</li> <li>- From above, <i>this indicator was achieved</i>.</li> </ul>
<p>2.5 National/sub-national NFP programmes are implemented</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Sub-national NFP programmes were implemented in four (4) provinces: Pailin,</li> </ul>

throughout 6 programmes and at least 4 provinces	<p>Kampong Chhnang, Stung Treng and Kampong Thom.</p> <p>- From above, <i>this indicator was achieved</i>.</p>
--	--

In consideration of the achievement of Indicators 2.1 to 2.5, *Outcome 2 has almost been achieved*.

### 2.3.3. Achievement of Outcome 3

<b>Outcome 3: “Improvement of capacity to manage REDD+ at the subnational/national levels.”</b>	
<b>Degree of achievement by the end of the Project: Fully achieved</b>	
Objectively Verifiable Indicators (for CAM-REDD)	Achievements
3.1 Emission reduction is confirmed at least in one project	<p>- Emission reduction was approved by the third party organizations in one (1) demonstration: “Reduced Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Community Forests – Oddar Meanchey, Cambodia” approved by Verified Carbon Standard (VCS)<sup>4</sup> and by CCBA<sup>5</sup>.</p> <p>- From above, <i>this indicator was achieved</i>.</p>
3.2 An initial pilot sub-national approach is documented.	<p>- The Demonstration Group as one of TG formulated a document that summarized the experiences in REDD+ activities and submitted to the Carbon Fund of the Forest Carbon Partnership Facility (FCPF) on 27 May 2014.</p> <p>- From above, <i>this indicator was achieved</i>.</p>
3.3 Experiences of all the demonstration sites supported by CAM-REDD are compiled	<p>- A document named “REDD+ Demonstration Activities in Cambodia” was shared to related members in several official meetings in 2014.</p>

<sup>4</sup> [www.vcsprojectdatabase.org/#/project\\_details/904](http://www.vcsprojectdatabase.org/#/project_details/904)

<sup>5</sup> [www.climate-standards.org/2013/08/30/reduced-emissions-from-degradation-and-deforestation-in-community-forests-oddar-meanchey-cambodia/](http://www.climate-standards.org/2013/08/30/reduced-emissions-from-degradation-and-deforestation-in-community-forests-oddar-meanchey-cambodia/)

and shared among stakeholders	<p>This document describes the experiences on pilot sub-national approach.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- From above, <i>this indicator was achieved.</i></li> </ul>
-------------------------------	--

In consideration of the achievement of Indicators 3.1 to 3.3, Outcome 3 has already been achieved.

#### 2.3.4. Achievement of Outcome 4

<b>Outcome 4: “Design of a Monitoring System and RLs/RELS framework and capacity for implementation.”</b>	
<b>Degree of achievement by the end of the Project: Moderately achieved</b>	
Objectively Verifiable Indicators (for CAM-REDD)	Achievements
4.1 A relevant section on national forest monitoring system is compiled in a draft national REDD+ strategy and operationalized.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- A plan to establish National Forest Monitoring System (NFMS) was described in NRS ver. 6 as “6.2.2. National Forest Monitoring System (NFMS)”.</li> <li>- The extent and distribution of forest areas in Cambodia have been monitored by developing maps based on satellite images, as part of the Satellite Land Monitoring System (SLMS).</li> <li>- From above, <i>this indicator was achieved.</i></li> </ul>
4.2 Initial REL(s)/RL(s) is developed.	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Method of initial REL(s)/RL(s) calculation and a provisional REL/RL figure was presented at COP21. As of evaluation time, result of 2014 mapping is in the process of approval by RGC. After the approval, the REL/RL document will be submitted to the UNFCCC secretariat by MoE.</li> <li>- From above, <i>this indicator was achieved.</i></li> </ul>
4.3 Initial forest carbon measurement is completed	<ul style="list-style-type: none"> <li>- In order to calculate REL(s)/RL(s), emission of carbon dioxide was calculated on the basis of</li> </ul>



above IPCC's Tier 1 level and its report is drafted for verification.	<p>emission factors that are selected from existing references and activity data (AD) that were obtained from maps in 2006, 2010 and 2014.</p> <p>- From above, <i><u>this indicator was achieved.</u></i></p>
---	--

In consideration of the achievement of Indicators 4.1 to 4.3, *Outcome 4 has already been achieved* based on PDM ver. 7.

However, as for the statement of Outcome 4 “capacity for implementation”, the capacity of FA on improvement of forest reference emission level (FRELs) by itself needs to be further strengthened especially to receive results-based payment (RBP) in terms of assignment of officers and their skills.

#### 2.4. Achievement of Project Purpose

<b>Project Purpose: “Capacity of related stakeholders is strengthened for smooth implementation of REDD+ strategy and policy.”</b>	
<b>Degree of achievement by the end of the Project: Almost achieved</b>	
Objectively Verifiable Indicators (for CAM-REDD)	Achievements
1. Necessary policies and measures are drafted in a national REDD+ strategy.	<p>- Necessary policies and measures are included in the draft National REDD+ strategy (NRS).</p> <p>- From above, <i><u>this indicator was achieved.</u></i></p>
2. Policy level inter-ministerial coordination and stakeholder consultation for promoting a national REDD+ strategy is enhanced.	<p>- Cambodia National REDD+ Taskforce and the Consultation Groups have participated in inter-ministerial consultation meetings. The participants expressed opinions on draft NRS. Some of the opinions were reflected to the draft.</p> <p>- From above, <i><u>this indicator was achieved.</u></i></p>

In consideration of the achievement of Indicators 1 and 2, *the Project Purpose is likely to be achieved* within the project period based on PDM version 7.

Although there are no such equivalent indicators to measure capacity of related

stakeholders, their capacity needs to be further strengthened for smooth implementation of REDD+ strategy and policy, especially to implement REDD+ nationwide in term of both assignment of officers and technical skills at national and sub-national levels.

## 2.5. Target Area

The following 13 demonstration sites were selected as target areas for sub-national approach in Outcome 3:

- Seima PF<sup>6</sup> and FPIC<sup>7</sup> (Mondulkiri Province);
- Veun Sai & Siem Pang (Ratanakiri and Stung Treng Provinces);
- Central Cardamom PF (Pursat and Koh Kong Provinces);
- Preah Vihear PF and Pre-FPIC (Preah Vihear Province);
- Kulen Prum Tep Wildlife Sanctuary (Preah Vihear Province);
- Western Siem Pang (Stung Treng Province);
- Oddar Meanchey CF<sup>8</sup> (Oddar Meanchey Province);
- Southen Cardamom PF (Koh Kong Province);
- Oyadav PF (Ratanakiri Province);
- Mondulkiri PF (Mondulkiri Province);
- Prey Long (Kampong Thom Province);
- Kampong Chhnang Flooded Forest (Kampong Chhnang Province); and
- Prey Nup Mangrove Forest (Preah Sihanouk).

The locations are shown in Figure 2.

---

<sup>6</sup> PF: protected forest

<sup>7</sup> FPIC: free, prior and informed consent

<sup>8</sup> CF: community forest

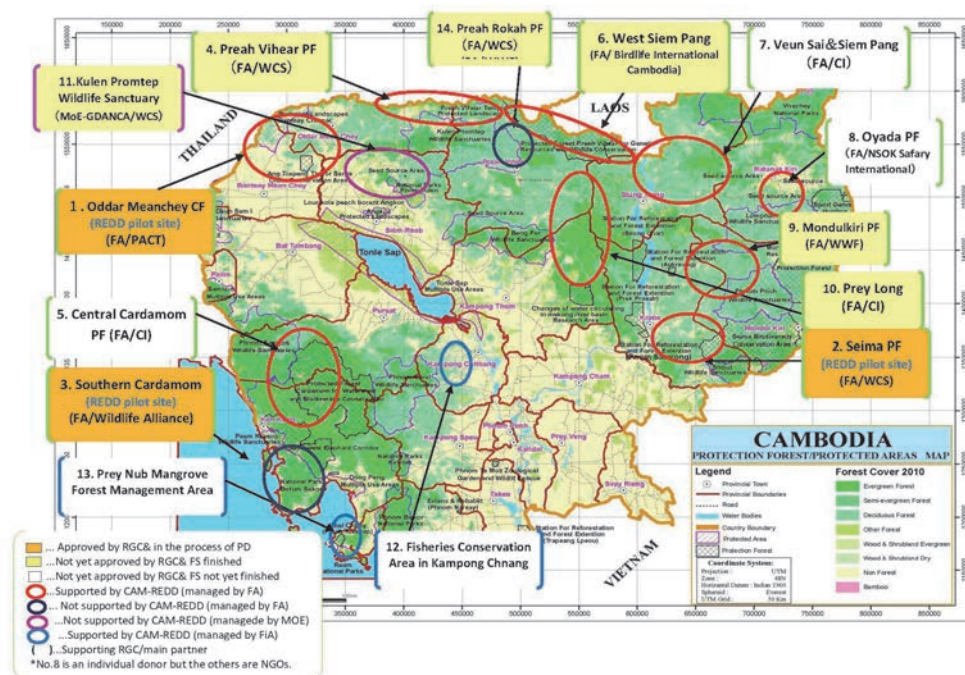


Figure 2. Location of REDD+ Demonstration Activities

## 2.6. Implementation Process and Framework

### 2.6.1. Communication and Coordination among JICA experts and Stakeholders

Although Cambodian stakeholders are mostly occupied with their daily tasks, they communicated with JICA experts very closely. The stakeholders at management level and the JICA experts held meetings twice or three times per month to share information and adjust the implementation plan of the Project. Relationship of trust has been observed between JICA experts and stakeholders.

### 2.6.2. Communication and Coordination among REDD+ Development Partners

During the project period, RGC has accepted supports from many REDD+ development partners. Difficulties of coordination were experienced especially at the earlier stage of the Project and transaction cost for coordination was not less in terms of time and resources spent. However, the REDD+ Taskforce Secretariat (RTS) has increasingly

played an important coordination role and guided development partners to follow Cambodia REDD+ Roadmap to avoid overlapping activities. Because of successful harmonization of activities of each partner, synergetic effects have been observed within REDD+ framework.

Multi-year work plan of Cambodia National REDD+ Taskforce is the basis for CAM-REDD, UN-REDD Cambodia Program and FCPF Readiness Project. This work plan and the Project PDM are identical. Such a common understanding of activities and targets based on the plan contributed to effective and efficient activities and outcomes.

### **2.6.3. Social and Environmental Consideration under REDD+**

The Project supported to formulate a consultation group under Cambodia National REDD+ Taskforce, which incorporated indigenous peoples (IP) and various gender representatives.

There are many local communities including IP, who are heavily depending on forests. The Project has supported FA to identify the designated areas by building demarcation poles in order to show its boundaries on a trial basis. Through consultation process based on the principal of free, prior and informed consent (FPIC), local communities engaged in FA to patrol around the forest area. If illegal activities such as clearing, logging, hunting and snare holding are found during the patrol, the patrol members report to FA.

FA also considers alternatives of their livelihood other than illegal activities such as honey, mushroom, resin and other non-timber forest products (NTFPs).

## **2.7. Factors Positively Affected Results**

### **(1) Strengthened ownership and coordination ability**

The ownership of the Cambodian side has been well established throughout the project period and led a steady coordination role. The Cambodian side has gradually understood and recognized REDD+ as its own important agenda while most of the related development partners respect the initiative and efforts on the Cambodian side.

### **(2) Mobilize relevant REDD+ development partners**

The Cambodian side mobilized fund from many REDD+ development partners given the timely topic of REDD+. Existence of many REDD+ development partners would be a factor that negatively affects the Project but the Cambodian side has been making efforts in producing synergetic effects from inputs of various REDD+ development partners.

It is well noted that emission reduction has been verified in the REDD+ demonstration in Oddar Meanchey CF and has been validated in the demonstration in Seima PF by third parties.

### (3) Clear target set by UNFCCC

FA, together with the other implementing organizations and the Project, accelerated a decision making process among government institutions by utilizing a window of opportunity to present its draft REDD+ strategy or draft NRS at COP21 held in Paris, France in December 2015 and to submit FRELs to UNFCCC. These targets also made the Cambodian side and REDD+ development partners strengthen their collaboration tie toward these same targets.

## **2.8. Factors Negatively Affected Results**

### (1) Complexity and uncertainty of REDD+

REDD+ has been a new political and technical agenda in an international society with complexity and uncertainty especially until UNFCCC COP21 in December 2015.

REDD+ was first discussed in COP11 in 2005 as a measure to reduce the emission of greenhouse gases (GHG). Since then, the parties to the convention have discussed the methodology of REDD+ in COP every year. However, for instance, there are no international standards for the technical methodology to collect and analyze data and information, which caused common difficulties for all the parties to prepare REDD+. Even though FA decided to adopt a specific methodology, FA has accepted different methodologies suggested by different REDD+ development partners at an operational level due to diplomatic concern, this caused delay and adjustment costs for the activities for Outcome 4.

### (2) Decision making process

At the beginning of the Project, it took longer time for key Cambodian stakeholders in

REDD+ to make policy decisions and share necessary information openly in Cambodian REDD+ concerned. Longer time was spent also in establishing the REDD+ management structure of the Cambodian side, which ended up considerable delay of Project implementation.

As stated above about the complexity of REDD+, decision making requires high levels of political and technical capacities among related ministries, agencies and other decision makers as long as REDD+ is concerned.



### **3. Evaluation Results**

#### **3.1. Relevance: Very High**

The relevance of the Project is evaluated as very high.

RGC stated in National Strategic Development Plan (NSDP) 2006-2010, 2010-2014 and 2014-2018, to realize good governance through its “Rectangular Strategy”. “National Forest Programme 2010-2029” (NFP), formulated in September 2010, states “The forest resources provide optimum contribution to equitable macro-economic growth and poverty alleviation particularly in the rural areas through conservation and sustainable forest management, with active participation of all stakeholders” through nine (9) strategic objectives. To achieve one of these objectives “Addressing Climate Change,” REDD+ is positioned as a major component in NFP.

Aligning with the programme, “Cambodia National REDD+ Roadmap” was formulated in 2010. Under this roadmap, FA, FiA and MoE are to implement REDD+ process with assistance from REDD+ development partners including the United Nations Development Program (UNDP), the Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO), JICA and UN-REDD Cambodia Program. Thus the Project is quite relevant to Cambodia’s policy.

Based on the forest cover assessment by Forestry Administration, the forest cover of Cambodia decreased by about 1,378,625ha from 10,363,789ha (57.07% of the whole country area) in year 2010 to 8,985,164ha (49.48%) in year 2014 even during five years of the Project period. There exist pressures of deforestation from outside the forestry sector. It is meaningful that three government organizations make a plan/design and implement countermeasures against deforestation.

At the international level, Paris Agreement was adopted in COP21/UNFCCC, December 2015, which described i) GHG emission reduction thorough participation of all countries, ii) conservation of forest as a sink (promotion if REDD+). Cambodia has been recognized one of the countries with great potential to contribute to emission reduction by REDD+ in the international society.

Cambodia is one of the highly prioritized countries for JICA to assist a REDD+ process. A measure against climate change through sustainable forest management is one of JICA’s four main fields in nature conservation. Thus JICA assistance policy matches

with an important development subject of Cambodia.

### **3.2. Effectiveness: Relatively High**

The effectiveness of the Project is evaluated as relatively high.

Cambodia was trying to fill gap between the goal of REDD+ as requirements from UNFCCC and its capacities. Since this Project was designed through identification of gaps and harmonization with the activities by other REDD+ development partners, and has been coordinated under Cambodia REDD+ Roadmap, each outcome contributed to fill the gap effectively and further to achieve the Project Purpose. The process to achieve the Outcomes and the Project Purpose has contributed to the promotion of REDD+ readiness activities in Cambodia, thereafter, constituted Cambodia's whole REDD+ process with synergized effects by related REDD+ development partners.

However, the capacities of FA still remain insufficient to improve FRELs by itself and to implement REDD+ nationwide.

### **3.3. Efficiency: Relatively High**

Facilities and equipment provided by Japan's Grant Aid for the Forest Preservation Programme have been utilized in the Project. These inputs have contributed to efficient and effective activities guided by the Project especially in the forest areas of Cambodia. The Project covered travel cost, allowance and consumable cost for FA so that FA staff members utilize the equipment and facilities more efficiently.

Several Japanese private companies and NGOs have been engaging in forestry in Cambodia. The Project facilitated these activities, for instance, coordinated with FA and shared information concerned.

Through coordination among many REDD+ development partners, inputs by JICA and other REDD+ development partners led to synergetic effects to a certain degree. However, the further coordination is still expected to ensure appropriately assignment of related officers for prioritized activities from REDD+ development partners.

On the other hand, both JICA experts and the Cambodian side spared considerable time and resources for the coordination among development partners as a fact. This task was mainly undertaken by RTS under the guidance by Cambodia REDD+ Roadmap.

Although this coordination load affected even ordinal tasks of FA officers concerned, such an effort contributed to the whole REDD+ program to avoid overlapped activities.

No other inefficiency is observed in relation to the inputs, activities and the Outcomes. Thus, the efficiency of the Project is evaluated as relatively high.

### **3.4. Impacts: Relatively High**

The impacts of the Project are evaluated as relatively high.

At the first phase, readiness, of Cambodia's REDD+ process is almost completed with the assistance of the Project and other interventions by REDD+ development partners. The Cambodian side is now transforming from the readiness phase to the implementation phase. The Project built part of capacities required for these phases to a certain degree.

Due to the Project effects, institutional capacity on the Cambodian side was enhanced to implement REDD+, therefore, the probability of Cambodia to receive economic inceptions including results-based payment (RBP) became higher. The payment could contribute to sustainable forest management, which is closely related to the Overall Goal of the Project, as long as incentive is allocated for forest conservation.

On the other hand, it is difficult to identify impacts of the Project on sustainable forest management nationwide. During this Terminal Evaluation, a plan to reform the governmental structure concerning forestry sector was announced by the Prime Minister<sup>9</sup>. Since it will take some time to settle down in a new institutional setup, it is difficult to predict whether the Overall Goal will be achieved within several years.

Several points are observed to contribute to the Impacts:

- FA, FiA and MoE have cooperated each other to formulate the multi-year work plan for the whole REDD+ and collaborated its implementation. This cooperative relationship among them was strengthened especially after the current Minister of Environment was appointed in 2013, and expected to continue in the long term.
- Social and environmental consideration was internalized in the process of REDD+ by the inclusion of IP and gender-related representatives into Consultation Group

---

<sup>9</sup> Source: Key Note Address of the Prime Minister in the Inauguration of "Morodok Techo Hun Sen Building", Ministry of Environment and the Opening Ceremony of the Conference on Environment Stock Taking 2015 and Directions for 2016, 25 February 2016.

under Cambodia National REDD+ Taskforce. The trial process has shown a positive impact among local communities by demarcating designated areas in a participatory approach with local communities and FPIC.

On the contrary, no negative impacts are observed.

Even at the time of Terminal Evaluation, it is difficult to judge whether the Overall Goal is achieved within several years, because the Overall Goal will not be achieved only with contribution by the Project but with engagement by FA, related Agencies and other REDD+ development partners. However, the achievement of the Project Purpose surely contributes the achievement of the Overall Goal to some extent.

### **3.5. Sustainability: Moderate**

#### (1) Policy and institutional aspects

Cambodia is expected to maintain its policies to promote REDD+ at least to 2029 as declared in NFP. Thus the Project effects are sustainable in policy and institutional aspects.

#### (2) Financial aspects

After the completion of the Project, some parts of REDD+ program will be promoted by RGC with assistance of programs such as FCPF. However, for the implementation at the national level, sufficient budget has not been committed by any REDD+ development partner yet. Budget of FA has been increasing; however, it still cannot cover even some of basic activity cost such as allowance and fuel for patrol. Therefore, financial sustainability is not high.

#### (3) Organizational aspects

It is expected that cooperative relationship among FA, FiA and MoE is kept as far as they continue to work on NRS implementation. However, human resources and institutional capacity to promote the REDD+ process are still insufficient.

It will take time to build a new structure setup upon the announced forestry sector reform. Although this reform aims to strengthen an institutional function of RGC for sustainable forest management, it is difficult to predict an impact of the reform during the evaluation.

#### (4) Society, culture and environmental aspects

Though trial cases, many local communities positively contribute to sustainable forest management and participating in the related activities such as patrol through consultation with FA. This change in local communities is sustainable as long as FA continues to assist more communities and successfully enhanced their understanding for forest conservation.

#### (5) Technical aspects

Technical capacities of the Cambodian side have not yet sufficed to promote the whole REDD+ process. The Cambodian stakeholders recognize that their capacity needs to be strengthened in preparing and implementing the sub-national and national REDD+ strategy, the action plan, the National Forest Monitoring System (NFMS), the REDD+ safeguards related to the implementation phase. Especially mentioning, the number of officers related to Outcome 4 needs to be increased. Thus the sustainability of the Project is moderate from the technical aspects. However, this will be improved if the related stakeholders in FA deepen their knowledge and skills as time pass by.

In total, the sustainability of the Project is evaluated as moderate.

#### 4. Conclusion

Based on the above findings and evaluation, the Team concludes as follows.

Paris Agreement of UNFCCC adopted in December 2015 clearly described the importance of sustainable forest management and promotion of REDD+ as a mitigation measure, while RGC has put high priority on preparation of REDD+ as one of its NFP programs. Under the circumstances, the Project has been implemented in accordance with Cambodia's REDD+ process together with other interventions by many REDD+ development partners.

The Project made a significant contribution to Cambodia's REDD+ process by almost achieving the Project Purpose and the four Outcomes at high levels. As for the five evaluation criteria, the Relevance is evaluated as very high, the Effectiveness, the Efficiency and the Impacts are evaluated as relatively high, and the Sustainability is evaluated as moderate.

The capacities of FA and the related organization and the structure in RGC to promote the REDD+ process have been strengthened to some extent. The probability of Cambodia to access REDD+ finance was increased as a result of the Project. The payment is expected to contribute to sustainable forest management as long as a benefit from REDD+ is allocated for sustainable forest management.

However, capacity building on the Cambodian side still needs to be further strengthened for implementation as well as securing its budget. In order to achieve the Overall Goal, furthermore, more assistance by REDD+ development partners are definitely essential even if the Project Purpose is likely to be achieved.



## 5. Recommendation

To the Project:

- (1) **To compile and disseminate the achievements of the Project** should be done by the end of the Project period. The Project supported various materials, documents and more to note even field activities, which should be summarized and shared among the Project stakeholders and REDD+ development partners for their reference. In addition, it is likewise very important for JICA to perform accountability to the government of Japan as well as Japanese citizens.

To the key REDD+ stakeholders:

- (1) **To promote access to REDD+ finance for implementing REDD+** from both Public Fund of international organization and Private Fund of market mechanism to fill a gap of government budget. Continuous efforts by the Cambodian side for fund raising are expected not to lose the momentum of international trend and interests for REDD+ and carbon credit.
- (2) **To enhance capacity for implementation at national and sub-national levels,** the capacity of relevant stakeholders for implementation needs to be further developed on the basis of a short- and mid-term plan according to the practical implementation plan and prioritized activities.
- (3) **To upgrade the capacity to implement national forest monitoring system, especially FRELS** by production of 2016 land use/cover map to ensure the realization of results-based payment. More staff should be allocated for MRV activities.
- (4) **To secure necessary budget for government officers for REDD+ implementation.** REDD+ development partners have been supporting allowance for staff of the Project stakeholders such as travel cost and daily allowance. Compensation by development partners is not expected to be sustainable. Therefore, FA and other implementing institutions should make efforts to increase the government budget for REDD+.
- (5) **To accelerate establishment of new integrated institutional setup in forestry sector** during the transition time of institutional reform and **to adjust accordingly expected assignment of an advisor from JICA** on REDD+ strategy from JFY

2016, which will be officially approved by the Japanese Government given the change.

To JICA:

- (1) **To extend the Project period of Outcome 4**, especially FRELs technically and financially to produce 2016 land use/cover map and FRELs documents to ensure the realization of results-based payment.
- (2) **To allocate an advisor to support implementation of a national REDD+ strategy**
  - Support the implementation of a national REDD+ strategy.
  - Promote REDD+ finance, etc.: from RGC, JICA and other stakeholders such as private companies, NGOs and international entities.

## 6. Lessons Learnt

1. **The single policy instrument: Cambodia National REDD+ Roadmap**, set at earlier stage of the project, made multiple stakeholders on the Cambodian side as well as REDD+ development partners to harmonize their activities. Such a guiding document plays an important role for all to contribute to implementing REDD+ effectively and efficiently, especially given multiple institutions and actors involved.

Enhanced ownership of FA was crucial to coordinate with many Project stakeholders and REDD+ development partners while most of the development partners respect FA's initiative. For new and complex REDD+ mechanisms, such clear management framework functioned effectively.

2. **The single work plan for all relevant REDD+ development partners** contributes to aligning each effort for the same goal among Project stakeholders and REDD+ programs, mainly CAM-REDD, UN-REDD Cambodia Program and FCPF. Said work plan and CAM-REDD PDM are identical. While the progress of discussions on REDD+ mechanisms is ongoing in the UNFCCC, Project stakeholders and REDD+ development partners agreed to adjust their plan flexibly to ensure their standing point and goals to pursue in the international and local context.

From the donor's view point, however, it is sometimes difficult to identify a concrete outcome from its own specific input given the complexity of input from multiple partners in the same activities at even PO level. It is important for developing partners to ensure accountability and visibility regarding their own contributions. Consideration and effort for the accountability and visibility must be discussed throughout the project implementation.

## Annex 1 List of interviewees

## Project stakeholders

Name	Position
H.E. Dr. Chheng Kimsun	Project Director Delegate of the Royal Government, Head of Forestry Administration
H.E. Chea Sam Ang	Assistant to Project Director, Taskforce / FACCC Chairman Deputy Director-General of FA
Dr. Keo Omalis	Project Manager Director of Wildlife and Biodiversity Department, FA
Dr. Khorn Saret	Project National Administrative Coordinator Deputy Director of Forest and Community Forestry, FA
Mr. Long Ratanakoma	Technical Team member (Benefit Sharing) Deputy Director of Forest and Forestry Community Department, FA
Mr. Chhum Delux	Technical Team member (Safeguards) Deputy manager of Carbon Credit and Climate Change Office, FA
Mr. Leng Chivin	Technical Team member (MRV/REL) Manager of Watershed Management and Forest Cover Assessment Office, FA
Ms. Sar Sophira	Technical Team member (MRV/REL) Deputy Manager of Watershed Management and Forest Cover Assessment Office, FA
Dr. Sokh Heng	Director of Institute of Forest-Wildlife Research and Development
Dr. So Thea	Deputy Director of Institute of Forest-Wildlife Research and Development
Mr. Bun Tun	Institute of Forest-Wildlife Research and Development
Mr. Ouk Vibol	Director of Fisheries Conservation Department, FiA
H.E. Dr. Paris Chuop	Deputy Secretary General and National REDD+ Focal Point

## FA Prey Long

Name	Position
Mr. Teb Nheata	Chief of Kampong Thom FA Cantonment
Mr. Reung Sophat	Vice Chief of Kampong Thom FA Cantonment
Mr. Soth Mary	Chief of Kampong Thmar FA Division
Mr. Sav Vanny	Vice Chief of Sandan FA Division
Mr. Mok Narin	Vice Chief of Sandan FA Division
Ms. Luy Ratana	Vice Chief of Wildlife Habitat and Eco-tourism Office
Mr. Phal Sary	Officer of Kampong Svay FA Triage
Mr. Chan Monyneath	Chief of Sandan FA Triage
Mr. Ho Kimcheng	Chief of Tomring FA Triage
Mr. To Sothea	Vice Chief of Kraya FA Triage
Mr. Sing Seanglay	Vice Chief of Tomring FA Triage

## JICA Experts

Name	Position in the Project
Mr. Hiroshi Nakata	Chief Advisor
Ms. Naomi Matsue	Project Administrative Coordinator / Co-benefit
Mr. Shigeru Ono	Team Leader, JICA Technical Assistance Team

## Project Staff

Name	Position in the Project
Ms. Ches Sopheap	Officer Manager
Mr. Y Chaly	Technical Assistant

## Other REDD+ development partners

Name	Position
------	----------

Ms. Setsuko Yamazaki	Country Director, UNDP Cambodia
Dr. Moeko Saito-Jensen	Policy Specialist, Climate Change and Sustainable Development, UNDP Cambodia
Mr. Anupam Bhatia	UN-REDD / FCPF Technical Specialist
Mr. Sovanna Nhem	National Program Advisor of FCPF
Mr. Mathieu Van Rijn	FAO expert
Dr. Ross Sinclair	Country Program Director, WCS Cambodia Program
Mr. Jeff Silverman	REDD+ Technical Advisor, WCS Cambodia Program
Mr. Matt Nuttall	REDD+ Technical Advisor, WCS Cambodia Program
Mr. Donal Yeang	WCS Cambodia Program

JICA Cambodia Office

Name	Position
Mr. Itsu Adachi	Chief Representative, JICA Cambodia Office
Mr. Takashi Ito	Senior Representative, JICA Cambodia Office
Mr. Togo Uchida	Project Formulation Advisor, JICA Cambodia Office

## Annex 2 Project Design Matrix (PDM)

Project Title: Project for Facilitating the Implementation of REDD+ Strategy and Policy (“CAM-REDD”)

Project Period: June 2011 to May 2016 (5 years)

Project Area: Whole Cambodia

Target Group: Direct beneficiary – REDD+ Task Force and Cambodian Governmental Officials (inter-ministerial)

Prepared on 07 October 2015 (Ver. 7)

NARRATIVE SUMMARY	OBJECTIVELY VERIFIABLE INDICATORS (for CAM-REDD)	MEANS OF VERIFICATION
<b>Overall Goal</b> Sustainable forest management as a mitigation measure against climate change is promoted based on the experiences of REDD+ implementation.	Rate of deforestation and/or forest degradation is officially recognized <sup>10</sup> and policies and measures are largely taken to reduce it.	Internationally submitted reports/ Other Reports/ Maps/Datasets
<b>Project Purpose</b> Capacity of related stakeholders is strengthened for smooth implementation of REDD+ strategy and policy.	i) Necessary policies and measures are drafted in a national REDD+ strategy. ii) Policy level inter-ministerial coordination and stakeholder consultation for promoting a national REDD+ strategy is enhanced.	* Governmental Documents * Interviews from stakeholders
<b>Outcomes<sup>11</sup></b> 1. Effective National Management of the REDD+ Readiness process and stakeholder engagement	i) National taskforce, its secretariat, technical teams and consultation groups are established and become functional.	* Prakas <sup>12</sup> by Ministers / *Reports/Minutes of (Taskforce /advisory group/consultation events/trainings, etc.)
2. Development of the National REDD+ Strategy	i) A national REDD+ strategy is drafted. ii) A relevant section on safeguards is compiled in a draft national REDD+ strategy. iii) Draft law on Wildlife and Biodiversity is submitted to the Council of Ministers iv) Sub-national NFP documents are endorsed for at least 7 provinces v) National/sub-national NFP programmes are implemented throughout 6 programmes and at least 4 provinces	* Prakas by Ministers Reports/Documents/Minutes of (Taskforce /advisory group/consultation events/training etc.)
3. Improvement of capacity to manage REDD+ at the subnational/national levels.	i) Emission reduction is confirmed at least in one project	* Reports

<sup>10</sup> Expected endorsement of land-use cover map of 2014 by Royal Government of Cambodia is around 2017, and subsequently the rate of deforestation

<sup>11</sup> “Outcome” is defined as “the expected products and status to be achieved by conducting Activities”. The term has the same meaning as “OUTPUT”

<sup>12</sup> “Praka” is defined as declaration by a minister.



	<ul style="list-style-type: none"> <li>ii) An initial pilot sub-national approach is documented.</li> <li>iii) Experiences of all the demonstration sites supported by CAM-REDD are compiled and shared among stakeholders</li> </ul>		
4. Design of a Monitoring System and RLs/RELS framework and capacity for implementation.	<ul style="list-style-type: none"> <li>i) A relevant section on national forest monitoring system is compiled in a draft national REDD+ strategy and operationalized.</li> <li>ii) Initial REL(s)/RL(s) is developed.</li> <li>iii) Initial forest carbon measurement is completed above IPCC's Tier 1 level and its report is drafted for verification.</li> </ul>	* Reports / Maps / Datasets	
<b>ACTIVITIES</b>	<b>INPUTS</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>1.1 Establish National REDD+ Readiness Coordination Mechanism</li> <li>1.2 Support National REDD+ Readiness Process</li> <li>1.3 Engage Stakeholders in the REDD+ Readiness Process</li> <li>1.4 Provide Stakeholders with Information on REDD+ and the National REDD+ Readiness Process</li> <li>2.1 Develop National REDD+ Strategy</li> <li>2.2 Evaluate Multiple Benefits</li> <li>2.3 Establish REDD+ Fund Mechanisms and Revenue Sharing</li> <li>2.4 Develop Policy and Legal Framework for the National REDD+</li> <li>2.5 Conceptualise Interim REDD+ Emission Reduction Registry and Accounting</li> <li>2.6 Develop Safeguards and Monitoring of Multiple-Benefits</li> <li>2.7 Conduct Research and Survey Related to REDD+</li> <li>3.1 Implement and Review Demonstration Activities</li> <li>3.2 Develop Subnational/National Approach to REDD+ in the Field</li> <li>4.1 Establish National MRV/REL</li> </ul>	<p><b>Japanese Side</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) Allocation of Experts <ul style="list-style-type: none"> <li>- Chief Advisor</li> <li>- Project Administrative Coordinator</li> <li>- Experts in the relevant fields (decided based on mutual agreement and within budget limitations)</li> <li>(1) RS/GIS</li> <li>(2) Forest Monitoring</li> <li>(3) Others</li> </ul> </li> <li>2) Provision of equipment/facilities</li> <li>3) Training in Japan/Third Country Training</li> <li>4) Others</li> </ul>	<p><b>Cambodian Side</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1) Stakeholders <ul style="list-style-type: none"> <li>- Project Director (Chief of FA, MAFF)</li> <li>- Project Manager (Director of Dept. of Wildlife and Biodiversity, FA, MAFF)</li> <li>- Project National Administrative Coordinator (Acting Chief, Office of Carbon Credit and Climate Change, FA, MAFF)</li> <li>- Project Administrative Personnel <ul style="list-style-type: none"> <li>- Administrative Staffs/ Secretaries /Typists/Clerks/Drivers/Security Guards/Other supporting Staffs if necessary</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2) Buildings and Facilities <ul style="list-style-type: none"> <li>- Office space for the Project</li> <li>- Space for related facilities</li> <li>- Buildings and rooms, facilities, equipment and materials</li> </ul> </li> </ul> <p>(Project Office in FA, MAFF and the Project Sites/Meeting rooms/Materials and Equipment provided through the Grand Aid by GOJ, Facilities and utilities, and other facilities if necessary on mutual agreement basis)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Provision of the equipment by the grant aid does not get greatly delayed.</li> <li>* Stakeholders (FA/MoE/FiA) continue to work for the Project.</li> </ul> <hr/> <p><b>Preconditions</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* Collaboration with other development partners (development partners/NGOs) is secured.</li> </ul>

4.2 Develop National Forest Monitoring System Plan			
4.3 Design the Satellite Land Monitoring System to provide Activity data for REDD+ related activities			
4.4 Design a National Forest Inventory to Develop Emission and Removal Factors for REDD+ Related Activities			
4.5 Develop Cambodia RLS/RELS Framework			
4.6 Develop a REDD+ Related GHG Reporting System			



Annex 3 Plan of Operation (PO)

Prepared on 07 October 2015 (Ver. 7)

Plan of Operation (PO-7) rev As of 07 October 2015	Planned schedule— Actual progress—	Year Month	1st year												2nd year												3rd year												4th year												5th year												Major REDD+ Development Partners												
			2011												2012												2013												2014												2015													2016											
			J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J	J		J	J										
<b>1. Effective National Management of the REDD+ Readiness Process and Stakeholder Engagement</b>																																																																											
<b>1.1</b>	<b>Establish National REDD+ Readiness Coordination Mechanism</b>																																																																										
1.1.1	Establish and operate Taskforce	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, CAM-REDD, FCPF												
1.1.2	Hold regular Taskforce meetings – every second month	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
1.1.3	Organise training of Taskforce	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
1.1.4	Establish internal mechanism in each Ministry/ Administration as necessary	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												CAM-REDD												
<b>1.2</b>	<b>Support National REDD+ Readiness process</b>																																																																										
1.2.0	Build capacity of key persons of Secretariat	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
1.2.1	Establish and operate Secretariat	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
1.2.2	Conduct finance and procurement training for secretariat - additional resources to be provided by REDD+ development partners (UN-REDD, FCPF, CAM-REDD, etc.)	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
1.2.3	Hold regular meetings of decision making bodies of the REDD+ development partners	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD, NFI, FAO/ICP												
1.2.4	Explore UNFCCC, UN-REDD, FCPF, CBD and other relevant meetings by Secretariat and Technical Teams	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
1.2.5	Conduct training and provide advice on REDD+ to Secretariat and Technical Teams	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD, NFI, FAO/ICP												
<b>1.3</b>	<b>Engage Stakeholders in the REDD+ Readiness process</b>																																																																										
1.3.1	Identify REDD+ relevant stakeholders.	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
1.3.2	Hold awareness-raising events or workshop on REDD+ to the stakeholders	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
1.3.3	Identify civil society (CS) and IP representatives for national REDD+ bodies (*)	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
1.3.4	Support to set up CF, CFI and CPA networks. (*)	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, CAM-REDD												
1.3.5	Support groups of CS, IP, CF, CFI and CPA to engage on specific technical areas	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
<b>1.4</b>	<b>Provide Stakeholders with Information on REDD+ and the National REDD+ Readiness Process</b>																																																																										
1.4.1	Establish and maintain website of Cambodia REDD+	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
1.4.2	Develop a consultation and participation plan	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
1.4.3	Develop awareness raising materials, tools and outreach	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
1.4.4	Develop capacity building and awareness raising process	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
1.4.5	Hold regular meetings of the consultation group	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
(*) IP: Indigenous Peoples, CF: Community Forestry, CFI: Community Fisheries, CPA: Community Protected Areas																																																																											
<b>2. Development of the National REDD+ Strategy</b>																																																																											
<b>2.1</b>	<b>Develop a national REDD+ Strategy</b>																																																																										
2.1.1	Develop capacity-building and training to ministries	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												CAM-REDD, UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
2.1.2	Support the implementation and revision of the NFP.	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												CAM-REDD, UN-REDD, FCPF												
2.1.3	Develop National Protected Areas Strategic management Plan	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												FCPF, UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
2.1.4	Investigate how the REDD+ can support management of flooded forests and mangrove areas managed by FIA under the Strategic Planning Framework on Fisheries	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												FCPF, UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
2.1.5	Design a national strategy to address drivers from outside the forestry sector	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												CAM-REDD, FCPF, CAM-REDD												
2.1.6	Develop regional collaboration with bordering countries on law enforcement and to reduce leakage	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												CAM-REDD & ITTO joint grant and UN-REDD, FCPF												
2.1.7	Develop a national REDD+ strategy.	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												CAM-REDD, FCPF, UN-REDD, CAM-REDD												
<b>2.2</b>	<b>Evaluate Multiple Benefits</b>																																																																										
2.2.1	Make valuation of the multiple benefits of standing forests under the management strategies (PAs, CFs, etc.)	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, CAM-REDD												
2.2.2	Scope and evaluate a national REDD+ strategy in relation to costs and benefits considering, inter alia, carbon density, co-benefits, jurisdiction, opportunity costs, resource management issues, etc.	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
2.2.3	Understand local costs and benefits of REDD+	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												UN-REDD, FCPF, CAM-REDD												
2.2.4	Monitor multiple benefits, other impacts and governance	Planned Actual	[Gantt chart showing activity from Jan 2011 to Dec 2015]																																																												CAM-REDD, UN-REDD												



4. Design of a Monitoring System and REL Framework and Capacity for Implementation									
Task ID	Task Description	Planned	Actual	Start	End	Start	End	Dependencies	Notes
4.1	<b>Establish National MRV/REL</b>								
4.1.0	Build capacity of key persons of National MRV/REL Technical Team	Planned	Actual						CAM-REDD, UN-REDD, CAM-REDD, NFI-FAO/TCP, FCFF
4.1.1	Establish and operate MRV/REL Technical Team	Planned	Actual						UN-REDD, CAM-REDD, NFI-FAO/TCP, FCFF
4.1.2	Build appropriate national capacity	Planned	Actual						CAM-REDD, UN-REDD, CAM-REDD, NFI-FAO/TCP, FCFF
4.2	<b>Develop National Forest Monitoring System Plan</b>								
4.2.1	Review and analyse quality of data required in REDD+	Planned	Actual						CAM-REDD, UN-REDD, CAM-REDD, NFI-FAO/TCP, FCFF
4.2.2	Determine national forest definitions, land-use classes, carbon pools and reference period to be used	Planned	Actual						UN-REDD, CAM-REDD, NFI-FAO/TCP, FCFF
4.2.3	Determine appropriate forest monitoring system to be used	Planned	Actual						CAM-REDD, UN-REDD, CAM-REDD, REDD+, FCFF
4.2.4	Develop NFMS Web platform	Planned	Actual						UN-REDD
4.3	<b>Design the Satellite Land Monitoring System to provide Activity data for REDD+ related activities</b>								
4.3.1	Review and analysis of quality of satellite data required in REDD+	Planned	Actual						UN-REDD, CAM-REDD, NFI-FAO/TCP, FFFRI
4.3.2	Build capacity on the use of satellite images and other data for the Satellite Land Monitoring system	Planned	Actual						CAM-REDD, UN-REDD, CAM-REDD, NFI-FAO/TCP, CAM-REDD, UN-REDD, CAM-REDD, NFI-FAO/TCP
4.3.3	Analyse past and current forest cover and land use change	Planned	Actual						UN-REDD, CAM-REDD, REDD+, NFI-FAO/TCP
4.4	<b>Design a National Forest Inventory to Develop Emission and Removal Factors for REDD+ Related Activities</b>								
4.4.1	Design National Forestry Inventory	Planned	Actual						UN-REDD, CAM-REDD, NFI-FAO/TCP
4.4.2	Develop central database of all information on forest monitoring, and MRV (including allometric equations, soil models, carbon stock database for tree species identification)	Planned	Actual						UN-REDD, CAM-REDD, NFI-FAO/TCP
4.4.3	Estimate emission factors due to degradation	Planned	Actual						UN-REDD, FCFF
4.4.4	Make QA & QC, archiving system and undertake maintenance	Planned	Actual						UN-REDD, FCFF
4.4.5	Develop WEB GIS platform	Planned	Actual						UN-REDD
4.5	<b>Develop Cambodia RLs/RELS Framework</b>								
4.5.1	Implement quantitative assessment of drivers of forest degradation	Planned	Actual						UN-REDD, FCFF
4.5.2	Review and finalize land use, forest policy and governance report	Planned	Actual						UN-REDD
4.5.3	Collate data on drivers of deforestation	Planned	Actual						UN-REDD, FCFF, FFFRI
4.5.4	Assess national circumstances	Planned	Actual						UN-REDD
4.5.5	Assess international displacement risks and measures	Planned	Actual						UN-REDD
4.5.6	Make preliminary design of the national REL framework	Planned	Actual						UN-REDD
4.5.7	Quantify historical activity data	Planned	Actual						CAM-REDD, UN-REDD, CAM-REDD
4.5.8	Quantify historical emission and removal factors	Planned	Actual						CAM-REDD, UN-REDD, CAM-REDD
4.5.9	Undertake modelling analyses of future trends	Planned	Actual						UN-REDD, CAM-REDD
4.5.10	Develop relevant RELs	Planned	Actual						UN-REDD, CAM-REDD, FCFF
4.6	<b>Develop a REDD+ Related GHG Reporting System</b>								
4.6.1	Combine activity and forest carbon stock data	Planned	Actual						CAM-REDD, UN-REDD, CAM-REDD, FCFF
4.6.2	Assess uncertainty of the data interpreted	Planned	Actual						UN-REDD, CAM-REDD
4.6.3	Make QA & QC, archiving system and undertake maintenance	Planned	Actual						UN-REDD, CAM-REDD





## Annex 4 Schedule of Terminal Evaluation Team

Date	Activities
Feb 12 (Fri)	[Dr. Tanaka] 10:45 Departure from Tokyo / Haneda (TG683) 15:50 Arrival at Bangkok
Feb 13 (Sat)	07:50 Departure from Bangkok (TG580) 09:00 Arrival at Phnom Penh 09:30 Leave for Seima Protected Forest 15:30 Briefing from FA and WCS 16:30 Monitor equipment, facilities, etc.
Feb 14 (Sun)	09:00 Interview community representatives, FA officers, rangers, WCS staff 12:00 Leave Seima Protected Forest 17:30 Arrival at Phnom Penh
Feb 15 (Mon)	08:30-11:15 Interview with OTA of FA (Mr. Nakata & Ms. Matsue) 11:20-12:00 Interview FA Mr. Chivin Leng and Mrs. Sophira Sar (MRV/RL) 12:00-13:00 Interview FA Dr. Omaliss Keo 14:30-15:10 Briefing to Cambodian Evaluation members @ FA 15:10-16:00 Interview FA Mr. Delux Chhun (NRS & Safeguards) 16:00-17:00 Interview FA H.E. Chea Sam Ang (Taskforce/FACCC Chairman) @his office of FA
Feb 16 (Tue)	10:00-11:00 Interview FA Dr. Khorn Saret (Secretariat of Taskforce & FACCC) @FA 14:30-16:30 Interview FA Dr. So Thea, (Dr. Sokh Heng) @ Phnom Penh Thmey
Feb 17 (Wed)	10:00-11:00 Interview UNDP Mr. Anupam Bhatia (UN-REDD/FCPF Technical Specialist) @ FA 11:00-12:00 Interview FAO Mr. Mathieu Van Rijn (expert) @ FA 14:00-15:00 Interview UNDP Mr. Sovanna Nhem (National Project Advisor of FCPF) @ FA 16:00-17:00 Interview FA Mr. Ratanakoma Long (CF&benefit sharing) @ FA
Feb 18 (Thu)	08:00-10:00 Interview JICA Cambodia 10:30-11:30: Interview FiA Mr. Vibol Ouk (Director of Department of Fisheries Conservation) @FiA office 14:00-15:00 Interview WCS Dr. Ross Sinclair (Director)@WCS office
Feb 19 (Fri)	Analyze and Compile data and information
Feb 20 (Sat)	Analyze and Compile data and information
Feb 21 (Sun)	Analyze and Compile data and information
Feb 22 (Mon)	<i>AM Share first draft of minutes to other mission members</i> <i>Compile documents</i>
Feb 23 (Tue)	<i>-Revise the above documents</i> <i>(-Interview time if necessary)</i>
Feb 24 (Wed)	[Mr. Shishido and Ms. Kemmiya] Departure from Tokyo / Haneda Arrival at Bangkok
Feb 25 (Thu)	[Mr. Shishido and Ms. Kemmiya] 07:45 Departure from Bangkok (TG580) 09:00 Arrival at Phnom Penh 10:00-11:00 Internal meeting 11:00-12:30 Discussion with evaluation team (consultant and Cambodia members) 14:00-16:00 Introduction and Discussion over Minutes of final evaluation with FA & CAM-REDD 16:00-16:30 <i>Courtesy to DG of FA @ his office of FA (time is confirmed later)</i> 16:30-18:00 Discussion over Minutes of final evaluation (2) Dinner with JICA Cambodia Office
Feb 26 (Fri)	08:30-12:00 Discussion over Minutes with FA (cont.) 14:00-16:00 Discussion over extension of project (outcome 4 related) with FA 16:00-18:00 Discussion over extension of project (outcome 4 related) with FA & Mr. Mathieu Van Rijn (FAO)
Feb 27 (Sat)	08:00: Depart from PHN by 4WD car 11:30: Arrival in Kampong Thom Town 11:45: Check-in hotel 12:00: Lunch 14:00: Presentation on Prey Long at FA-Cantonment 15:00: Presentation on current status of forest management in Kg. Thom and JICA support by FA-Cantonment 18:30: Dinner
Feb 28 (Sun)	07:30: Depart from Kg. Thom to - Patrolling station supported by CAM-REDD ( around the station, we can see demarcation pole and deforestation) 12:00: Lunch at the station

	13:00: Visit forest (tree seed source area) 14:00: Depart for Phnom Penh 18:00: Arrival in Phnom Penh
Feb 29 (Mon)	08:30-10:00 Meeting with FAO Mr. Alexandre Huynh (new director), Mr. Etienne Careme & Mr. Mathieu Van Rijn @FAO Office 11:00-12:00 Meeting with UNDP Ms. Setsuko Yamazaki, Anupam Bhatia & Ms. Moeko Saito Jensen @UNDP office 12:00-13:30 Lunch meeting with MoE H.E. Chuop Paris @Dashi Restaurant 14:00-15:00 Meeting with CP of FA over project extension (section in charge) 15:00-17:00 Meeting with FA for final draft of Minutes for evaluation
Mar 1 (Tue)	09:00-10:00 Meeting with H.E. Dr. Paris Chuop, MoE 12:00-13:30 Lunch meeting with Ms. Kimura (Phnom editor) @Terraza 13:30-14:30 Report to JICA Cambodia 14:00-18:00 Finalization of two minutes in evaluation team
Mar 2 (Wed)	10:00-12:00 FACCC & Signing on Minutes for final evaluation and extension 16:00- Report to Ambassador @EoJ 20:35 Departure from Phnom Penh (TG585) 21:40 Arrival at Bangkok 23:15 Departure from Bangkok (TG682)
Mar 3 (Thu)	06:55 Arrival at Tokyo / Haneda

Annex 5 List of Japanese Experts

	Field	Name	Assignment Period	Responsible Outputs and/or Activities of PDM
1	Chief Advisor	Hiroshi Nakata	Jun 01, 2011 to May 31, 2016	Outcome 1 to 3 (all except Matsue's)
2	Project Administrative Coordinator/ Co-benefit	Naomi Matsue	Oct 26, 2011 to May 31, 2016	Outcome 1 & 2 (mainly activity 1,3,1,4, 2.2, 2.4, 2.5, 2.6)
3	<p>&lt;1<sup>st</sup> and 2<sup>nd</sup> Period&gt; Team leader &amp; Forest remote sensing/GIS</p> <p>&lt;3<sup>rd</sup> Period&gt; Team Leader/REDD+ Strategy</p>	Shigeru Ono	<p>&lt;1st Period&gt; <u>In Cambodia (9.87)</u> Nov 14, 2011 – Feb 28, 2012 May 23, 2012 – Aug 31, 2012 Dec 6, 2012 – Mar 3, 2013 <u>In Japan (1.5)</u> Nov 19, 2011 – Nov 13, 2011 Sep 1, 2012 – Sep 19, 2012 Nov 1, 2012 – Nov 21, 2012</p> <p>&lt;2nd period&gt; <u>In Cambodia (11.27)</u> May 16 2013 – May 30, 2013 Jul 4, 2013 – Jul 31, 2013 Sep 2, 2013 – Oct 1, 2013 Nov 7, 2013 – Nov 26, 2013 Jan 8, 2014 – Mar 15, 2014 Apr 19, 2014 – May 12, 2014 Jun 2, 2014 – Jun 8, 2014 Jun 29, 2014 – Aug 9, 2014 Sep 28, 2014 – Nov 1, 2014 Nov 26, 2014 – Dec 25, 2014 Jan 14, 2015 – Feb 22, 2015</p> <p><u>In Japan (1.6)</u> Jun 16, 2013 – Jun 25, 2013 Mar 19, 2014 – Mar 21, 2014 May 31, 2014 – Jun 2, 2014 Sept 1, 2014 – Sept 3, 2014 Nov 24, 2014 – Nov 25, 2014</p>	<p>&lt;PDM Activities&gt; Outcome 2 &amp; 4 2.1.7 Develop a national REDD+ strategy</p> <p>3.1.2.6 Work of validation/verification</p> <p>4.1.0 Build capacity of key persons of National MRV/REL Technical Team</p> <p>4.1.2 Build appropriate national capacity</p> <p>4.2 Develop National Forest Monitoring System Plan</p> <p>4.3 Design the satellite land monitoring system to provide activity data for REDD+ related activities</p> <p>4.5 Develop Cambodia RLs/RELS Framework</p>

			<p>Dec 28, 2014, Dec 31, 2014  Jan 1, 2015-Jan 5, 2015  Mar 2, 2015-Mar 3, 2015</p> <p>&lt;3rd Period&gt;  <u>In Cambodia (4.67)</u>  Apr 29, 2015-Jun 7, 2015  Jun 27, 2015-Aug 15, 2015  Sept 21, 2015-Oct 11, 2015  Oct 27, 2015-Nov 14, 2015  Feb 24, 2016-Mar 7, 2016</p> <p><u>In Japan (0.60)</u>  Jun 24, 2015-Jun 26, 2015  Aug 19, 2015-Aug 21, 2015  Oct 14, 2015-Oct 16, 2015  Dec 4, 2015-Dec 6, 2015</p>	
	<p>&lt;1<sup>st</sup> and 2<sup>nd</sup> Period&gt;  4 Deputy team leader/  Forest resources inventory1</p>	Takashi SOMEYA	<p>&lt;1st Period&gt;  <u>In Cambodia (4.0)</u>  Nov 22, 2011 – Dec 21, 2011  Mar 29, 2012 – Apr 12, 2012  Jun 24, 2012 – Jul 23, 2012  Dec 5, 2012 – Jan 3, 2013  Feb 17, 2013 – Mar 3, 2013</p> <p><u>In Japan (0.8)</u>  Sept 30, 2012- Oct 23, 2012</p> <p>&lt;2nd Period&gt;  <u>In Cambodia (0.23)</u>  Jul 14, 2013 – Jul 20, 2013</p> <p><u>In Japan (0.2)</u>  Dec 2, 2014-Dec 3, 2014  Jan 5, 2015-Jan 6, 2015</p>	<p>&lt;PDM Activities&gt;  Outcome 4  3-2 Conduct forest inventory training  3-4 Assist developing MRV system  4.1.0 Build capacity of key persons of national MRV/REL technical team  4.4.1 Design national forest inventory</p>
	<p>5 &lt;1<sup>st</sup> Period&gt;  Forest resources inventory2</p>	Takeshi YAMASE	<p>&lt;1<sup>st</sup> Period&gt;  <u>In Cambodia (7.5)</u></p>	<p>&lt;PDM Activities&gt;  Outcome 4</p>

			<p>Dec 18, 2011 – Mar 1, 2012                  Aug 26, 2012 – Nov 10, 2012                  Dec 25, 2012 – Mar 7, 2013</p> <p><u>In Japan (0.47)</u>                  Nov 12, 2012 – Nov 25, 2012</p> <p>&lt;2nd Period&gt;                  Replaced by Mr.Sakai</p>	<p>4.1.0 Build capacity of key persons of national MRV/REL technical team</p> <p>4.4.1 Design national forest inventory</p> <p>4.5.8 Quantify historical emission and removal factors</p>
6	<p>&lt;2<sup>nd</sup> Period&gt;                  Forest resources inventory</p> <p>&lt;3<sup>rd</sup> Period&gt;                  NFMS</p>	<p>Isao SAKAI                  (Replacement of Mr. Yamase)</p>	<p>&lt;2nd Period&gt;  <u>In Cambodia (10.33)</u>                  Set 2, 2013 – Oct 1, 2013                  Oct 28, 2013 – Nov 17, 2013                  Dec 11, 2013 –Mar 15, 2014                  Apr 19, 2014-May 12, 2014                  Jun 15, 2014-Jul 12, 2014                  Aug 24, 2014-Sept 21, 2014                  Nov 8, 2014-Dec 1, 2014                  Jan 6, 2015-Mar 5, 2015</p> <p><u>In Japan (0.45)</u>                  Mar 19, 2014-Mar 21, 2014                  Jun 2, 2014-Jun 3, 2014                  Aug 2, 2014-Aug 3, 2014                  Dec 22, 2014-Dec 23, 2014</p> <p>&lt;3rd Period&gt;  <u>In Cambodia (4.80)</u>                  Apr 29, 2015-Jul 1, 2015                  Jul 25, 2015-Sep 26, 2015                  Oct 31, 2015-Nov 15, 2015</p> <p><u>In Japan (0.15)</u>                  Jul 23, 2015-Jul 24, 2015                  Oct 28, 2015-Oct 28, 2015</p>	<p>&lt;PDM Activities&gt;                  Outcome 2&amp; 4                  2.1.7 Develop a national REDD+ strategy</p> <p>4.1.0 Build capacity of key persons of national MRV/REL technical team</p> <p>4.2 Develop National Forest Monitoring System Plan</p> <p>4.4.1 Design national forest inventory</p> <p>4.6.1 Combine activity and forest carbon stock data</p>
7	<p>&lt;1<sup>st</sup> Period&gt;                  Forest Database</p>	<p>Yoshitaka GOMI</p>	<p>&lt;1st Period&gt;  <u>In Cambodia (1.2)</u></p>	<p>&lt;PDM Activities&gt;                  Outcome 4</p>

			Nov 14, 2012 – Dec 19, 2012	4.4.2 Develop central database of all information on forest monitoring, and MRV
8	<p>&lt;2<sup>nd</sup> Period&gt; Forest Database</p> <p>&lt;3<sup>rd</sup> Period&gt; Land use/cover assessment)</p>	Toru FURUYA	<p>&lt;2nd Period&gt; <u>In Cambodia (1.5)</u> Sept 28, 2014-Nov 1, 2014 Jan 28, 2015-Feb 6, 2015</p> <p><u>In Japan (1.0)</u> Dec 16, 2014-Dec 17, 2014 Jan 5, 2015-Jan 15, 2015 Feb 25, 2015-Feb 28, 2015 Mar 2, 2015-Mar 4, 2015</p> <p>&lt;3rd Period&gt; <u>In Cambodia (1.07)</u> Jul 25, 2015-Aug 12, 2015 Aug 30, 2015-Sep 11, 2015</p> <p><u>In Japan (1.2 )</u> Apr 27, 2015-May 18, 2015 Jul 22, 2015-Jul 23, 2015</p>	<p>&lt;PDM Activities&gt; Outcome 4 4.2.2 Determine national forest definitions, land-use classes, carbon pools and reference period to be used</p> <p>4.4.2 Develop central database of all information on forest monitoring and MRV</p> <p>4.3 Design the satellite land monitoring system to provide activity data for REDD+ related activities</p>
9	REL/NFMS2	Toru INADA	<p>&lt;3rd Period&gt; <u>In Cambodia (2.27)</u> Apr 30, 2015-May 29, 2015 Jun 23, 2015-Jul 12, 2015 Sep 2, 2015-Sep 19, 2015</p> <p><u>In Japan (0.20)</u> Jun 18, 2015-Jun 19, 2015 Oct 28, 2015-Oct 29, 2015</p>	<p>&lt;PDM Activities&gt; Outcome 4 4.4.1 Design national forest inventory 4.5.6 Make preliminary design of the national REL framework 4.5.7 Quantify historical activity data 4.5.8 Quantify historical emission and removal factors 4.5.10 Develop relevant REL 4.6.1 Combine activity and forest carbon data</p>
10	Forest Remote sensing (Automatic classification) (eCognition)	Miki ASAI	<p>&lt;2nd Period&gt; <u>In Cambodia (0.83)</u> Sep 8, 2013 – Sep 15, 2013 Nov 17, 2013 – Nov 23, 2013 Jul 3, 2014-Jul 12, 2014</p> <p><u>In Japan (2.5)</u></p>	<p>&lt;PDM Activities&gt; Outcome 4 4.3.2 Build capacity on the use of satellite images and other data for the satellite land monitoring system</p> <p>4.3.3 analyze past and current forest cover and land use change</p>



			Dec 16, 2014-Dec 20, 2-014 Jan 5, 2015-jan 24, 2015 Feb 3, 2015-Feb 28, 2015  <3rd Period> <u>In Japan (1.1)</u> Apr 27, 2015-May 18, 2015	
--	--	--	--	--



**Annex 6 List of Counterpart Staff**

Managers

Name	Position in the Project	Position in the Organization	Assignment Period
H.E. Dr. Chheng Kimsun	Project Director	Delegate of the Royal Government, Head of Forestry Administration	May 2011 to present
H.E. Chea Sam Ang	Assistant to Project Director	Deputy Director-General of Forestry Administration	May 2011 to present
Dr. Keo Omaliss	Project Manager	Director of Wildlife and Biodiversity Department	Nov. 2011 to present
Mr. Meas Makara	Project Manager	Director of Forest and Community Forestry Department	May 2011 to Nov. 2011
Dr. Khorn Saret	Project National Administrative Coordinator	Deputy Director of Forest and Community Forestry	Nov. 2014 to present
Mr. Khun Vathana	Project National Administrative Coordinator	Acting Manager, Office of Carbon Credit and Climate Change	Nov. 2011 to Nov. 2014

Technical Personnel of Forest Administration

Name	Area of Responsibility	Position in the Organization	Assignment Period
Mr. Long Ratanakoma	Benefit Sharing	Deputy Director of Forest and Forestry Community Department	May 2011 to present
Mr. Chhun Delux	Safeguards	Deputy manager of Carbon Credit and Climate Change Office	Jun. 2013 to present
Mr. Lao Sethapal	Safeguards	Deputy Director of Legislation and Law Enforcement	Jun. 2013 to present
Mr. Phan Kamnap	Safeguards	Manager of Forestry Community Office	May 2011 to May 2013
Mr. Hort Sothea	Demonstration	Manager of Administration Planning and International Treaty Office	Jun. 2013 to present
Mr. Meak Vuthy	Demonstration Selma Protected Forest	Chief of Office of legislation and conflict management	Aug. 2014 to present
Mr. Men Soriyun	Demonstration Selma Protected Forest	Deputy Director of Wildlife and Biodiversity Department	May 2011 to Jul. 2014
Mr. Tan Setha	Demonstration Preah Vihear Protected Forest	Deputy manager of Wildlife Protection and Biodiversity Office	May 2011 to present
Mr. Peov Somanak	Demonstration Central Cardamom Protected Forest	Manager of Wildlife and Biodiversity Office	May 2011 to present
Mr. Kry Masphal	Demonstration Western Siem Pang Proposed Protected Forest	Deputy manager of Wildlife Protection and Biodiversity Office	May 2011 to present

Mr. Chea Nget	Demonstration Veun Sai-Siem Pang Proposed Protected Forest	Officer	May 2011 to present
Mr. Leng Chivin	MRV/REL	Manager of Watershed Management and Forest Cover Assessment Office	May 2011 to present
Ms. Sar Sophira	MRV/REL	Deputy manager of Watershed Management and Forest Cover Assessment Office	May 2011 to present
Mr. Seab Kimsrim	MRV/REL	Officer	Sep. 2013 to Mar. 2015

FACCC Members

Name	Area of Responsibility	Position in the Organization	Assignment Period
Mr. Phan Kamnap		Manager of Forestry Community Office	Jun. 2013 to present
Mr. Soun Sovann		Deputy Director of Legislation and Law Enforcement	
Mr. Samreth Vanna		Deputy Director of Forest and Community Forestry	May 2011 to present
Mr. Hor Limchhun		Deputy Director of Forest Industry and International Cooperation	
Mr. Hong Kimhaen		Deputy Director of Plantation and Private Forest Development	May 2011 to present
Dr. So Thea		Deputy Director of Institute of Forest-Wildlife Research and Development	
Mr. Hun Eang		Manager of Industry and Timber-NTFP Use office	May 2011 to present
Mr. Phan Kamnap		Manager of Community Forestry Office	
Dr. Kao Dana		Acting Manager of Forest Affairs Office	May 2011 to present
Mr. Haem Saravuth		Deputy Director of Forestry and Community Forestry	
Mr. Lim Bunna		Deputy Manager of Planning Office	May 2011 to present
Mrs. Srey Kong Phallyka		Deputy Manager of Administrative and International Treaty	
Ms. Hort Ainun		Official of Dept. of Forest Industry and International Cooperation	May 2011 to present
Chiefs of FA Inspectorate		4 FA Inspectorates	

Technical Personnel of Fisheries Administration

Name	Area of Responsibility	Position in the Organization	Assignment Period
Mr. Ouk Vibol		Director of Fisheries Conservation Department	
Mr. Bun Racy		Officer	

Technical Personnel of GDANCP, MoE

Name	Area of Responsibility	Position in the Organization	Assignment Period
H.E. Chuop Paris		Deputy General Secretariat of the National Council for Sustainable Development	
Mr. Uy Kamal		Deputy Director of Climate Change Department	
Mr. Kim Nong		Deputy Director-General of Administration for Nature Conservation and Protection	

Project Staff

Name	Position in the Organization	Assignment Period
Ms. Ches Sopheap	Officer Manager	May 2011 to present
Mr. Y Chaly	Technical Assistant	Sep. 2014 to present
Mr. Seab Kimsrim	Technical Assistant	Jan. 2011 to Aug. 2013
Mr. Pak Sngoun Pisey	Technical Assistant to REDD+ Taskforce Secretariat	Jan. 2011 to Aug. 2013
Ms. Leang Choronay	IT Assistant	Dec. 2012 to May 2013
Ms. Cheam Dalina	Biodiversity Assistant	Dec. 2012 to May 2013
Mr. Chouth Titsophea	Technical Assistant to REDD+ in Protected Forests	Oct. 2013 to Mar. 2015
Ms. Seng Nalin	IT Assistant	Jun. 2013 to Mar. 2014



**Annex 7 List of Equipment Provided by the Japanese Side**

(As of 31 December 2015)

Item	Specification	Qn	Unit Price	Total Price	"Model number/ Management number"	Location	Responsible Person	Responsible Organization	International or local procurement	Date of Purchase	# of available ecpt	# of disposed ecpt	Date of Monitoring	Monitoring Implementor
Laptop Computer	DELL Inspiron N4030	1	\$1,138.00	\$1,138.00	10-3-000650	OTA	Technical Advisor	OTA	Local	10-Nov-10	Handed-over to FA			
Laptop Computer	DELL Latitude E6420	1	\$990.00	\$990.00	11-3-003010	OTA	Technical Advisor	OTA	Local	25-Oct-11				
Laptop Computer	Sony VPCEB36GM	1	\$1,100.00	\$1,100.00	11-3-000125	OTA	Technical Advisor	OTA	Local	26-Oct-11	Handed-over to FA			
Laptop Computer	MacBook Pro 133	1	\$1,539.00	\$1,539.00	12-3-001408	OTA	Technical Advisor	OTA	Local	4-Mar-13				
Printer	Brother MFC-9840CDW	1	\$1,305.00	\$1,305.00	10-3-000684	OTA	Technical Advisor	OTA	Local	19-Nov-10				
Camera	Canon EOS600D	1	\$1,072.00	\$1,072.00	11-3-003008	OTA	Technical Advisor	OTA	Local	18-Nov-11				
GPS	Garmin 60CSx	2	\$620.00	\$1,240.00	"11-3-003007 and 11-3-003049"	OTA	Technical Advisor	OTA	Local	26-Apr-11				
Safety Box		1	\$270.00	\$270.00	13-3-001761	OTA	Project Administrative Coordinator	OTA	Local	11-Apr-13				
Bookshelf	Inox	1	\$270.00	\$270.00	14-3-000348	OTA	Project Administrative Coordinator	OTA	Local	21-Apr-14				
Laptop Computer	Dell Latitude 3440	1	\$1,010.00	\$1,010.00	14-3-000746	OTA	Project Administrative Coordinator	OTA	Local	12-Sep-14				
Laptop Computer	Dell Audi 4	1	NA	NA	13-3-000089	OTA	Project Administrative Coordinator	OTA	Local	18-Nov-14				
Printer	Canon MF4720	1	\$238.00	\$238.00	NA	OTA	Project Administrative Coordinator	OTA	Local	11-Sep-14				
Camera	Nikon D90	1	\$1,230.00	\$1,230.00	10-3-001678	Seima PF	Project Manager	FA	Local	9-Feb-11				
Printer	Laserjet HP-P2015N	1	\$380.00	\$380.00		Seima PF	Project Manager	FA	Local	30-May-11				
Signboard		3	\$310.00	\$930.00		Seima PF	Project Manager	FA	Local	28-Feb-11				
Ligtning protector		2	\$163.50	\$327.00		Veun Sai	Project Manager	FA	Local	17-Jun-11	2	0	15-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Sign board	" 331 (small 300, medium 30, and big for gate 1)"	1	\$590.00	\$590.00		Veun Sai	Project Manager	FA	Local	18-Jul-11	80%	20%	15-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Water container		1	\$210.00	\$210.00		Veun Sai	Project Manager	FA	Local	13-Feb-12	0	1	15-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Printer	Apson TX600FW	1	\$290.00	\$290.00		Veun Sai	Project Manager	FA	Local	16-Nov-11	0	1	15-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Pumping machine	HS2-375	1	\$265.00	\$265.00		Veun Sai	Project Manager	FA	Local	2-Dec-11	0	1	15-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Dynamo	GM-5kw	1	\$295.00	\$295.00		Veun Sai	Project Manager	FA	Local	2-Dec-11	1	0	15-Jun-15	Ms. Naomi and



Generator	RT120	1	\$1,550.00	\$1,550.00	11-3-003013	Veun Sai	Project Manager	FA	Local	22-Feb-12	1	0	15-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Cabinet	DK3060	2	\$247.00	\$494.00		Veun Sai	Project Manager	FA	Local	31-Jan-12	2	0	15-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Desk	S304SG	2	\$210.00	\$420.00		Veun Sai	Project Manager	FA	Local	31-Jan-12	2	0	15-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Processed Tractor		1	\$8,500.00	\$8,500.00	"11-3-003014 11-3-003015 11-3-003016 11-3-003017 11-3-003018"	Veun Sai	Project Manager	FA	Local	22-Feb-12	1	0	15-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Secured Lockup		1	\$1,000.00	\$1,000.00		Veun Sai	Project Manager	FA	Local	20-Jun-14	1	0	15-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Camera	Canon 550D	1	\$1,050.00	\$1,050.00	10-3-001675	CCPF	Project Manager	FA	Local	21-Jan-13				
Printer	Brother MFC-5890CN Fax	1	\$277.00	\$277.00		CCPF	Project Manager	FA	Local	24-Feb-11				
Portable Printer	Canon IP100	2	\$321.00	\$642.00		CCPF	Project Manager	FA	Local	28-Feb-11				
Water container	7000L	3	\$455.00	\$1,365.00		CCPF	Project Manager	FA	Local	13-Dec-11				
Cabinet	G27	1	\$165.00	\$165.00		CCPF	Project Manager	FA	Local	21-Feb-11				
Voice recorder	"Sony ICD-UZ512F SN: 4601753"	1	\$120.00	\$120.00		CCPF	Project Manager	FA	Local	28-Feb-12				
Computer	Dell Optiplex 990MT	1	\$1,140.00	\$1,140.00	11-3-003019	CCPF	Project Manager	FA	Local	5-Mar-12				
LCD Projector	Sony VPL-EX120	1	\$770.00	\$770.00	11-3-003020	CCPF	Project Manager	FA	Local	9-Mar-12				
Generator	Yokohama 15M	1	\$340.00	\$340.00		Seim Pang	Project Manager	FA	Local	1-Mar-11	0	1	16-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Printer	Brother DCP-145C	1	\$210.00	\$210.00		Seim Pang	Project Manager	FA	Local	22-Feb-11	0	1	16-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Generator	Kubota	1	\$1,260.00	\$1,260.00	13-3-000475	Seim Pang	Project Manager	FA	Local	23-Aug-13	1	0	16-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Innovated tractor	Bokota 12cc	1	\$2,080.00	\$2,080.00	13-3-001280	Seim Pang	Project Manager	FA	Local	3-Mar-14	1	0	16-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Wooden cart		1	\$250.00	\$250.00		Seim Pang	Project Manager	FA	Local	17-Mar-14	1	0	16-Jun-15	Ms. Naomi and Ms. Sopheap
Voice Recorder	Sony UX512F	4	\$120.00	\$480.00		PVPF	Project Manager	FA	Local	30-Jan-12				
Generator	Honda 7000D	1	\$920.00	\$920.00	11-3-003956	PVPF	Project Manager	FA	Local	20-Feb-12				
Computer laptop	Sony Vaio VPC-CA15FG	1	\$1,100.00	\$1,100.00	11-3-003011	PVPF	Project Manager	FA	Local	26-Oct-11	0	1	Broken - Disposal	

Video Camera	Sony HDR-XR550E	1	\$1,180.00	\$1,180.00	10-3-002101	REDD+ taskforce	Dr. Keo Omaliss	FA	Local	20-Jan-11				
Camera	"Nikon D90 SN: 2286646"	1	\$1,105.00	\$1,105.00	10-3-001674	REDD+ taskforce	Dr. Keo Omaliss	FA	Local	21-Jan-11				
Printer	Brother	1	¥67,267.00	¥67,267.00	10-3-001096	REDD+ taskforce	Dr. Keo Omaliss	FA	Local	22-Feb-11				
Printer	HP-E910	1	\$400.00	\$400.00		REDD+ taskforce	Dr. Keo Omaliss	FA	Local	31-Jan-12				
Database system unit	Acer	1	\$499.00	\$499.00		REDD+ taskforce	Dr. Keo Omaliss	FA	Local	31-Jan-11				
Voice recorder	Sony ICD-UX513F-N	1	\$175.00	\$175.00		REDD+ taskforce	Dr. Keo Omaliss	FA	Local	24-Feb-11				
External Hardisk	Transcend 1TB	1	\$160.00	\$160.00		REDD+ taskforce	Dr. Keo Omaliss	FA	Local	10-Feb-12				
Computer Laptop	Sony VPCSB36FG	1	\$1,320.00	\$1,320.00	11-3-003958	REDD+ taskforce	Dr. Keo Omaliss	FA	Local	20-Jan-12				
Computer Laptop	DELL Inspiron N4110	2	\$725.00	\$1,450.00	12-3-000315	REDD+ taskforce	Dr. Keo Omaliss	FA	Local	13-Jun-12				
Computer Desktop	DELL Precision T7500	1	\$2,310.00	\$2,310.00	12-3-002239	FA	Mr. Tech	FA	Local	20-Aug-12				
Printer	HP Designjet 510 series	1	¥3,418.00	¥3,418.00	10-3-001155	GIS office	Mr. Leng Chivin	FA	Local	1-Mar-11				
Copier	Toshiba MDLE-181	1	¥1,440.00	¥1,440.00	11-3-000126	GIS office	Mr. Leng Chivin	FA	Local	4-Apr-11				
Camera		3	\$259.00	\$777.00		Oyadav PF	Project Manager	FA	Local	2-Mar-12				
GPS		3	\$550.00	\$1,650.00		Oyadav PF	Project Manager	FA	Local	21-Feb-12				
Solar panel		1	\$555.00	\$555.00		Oyadav PF	Project Manager	FA	Local	14-Mar-12				
Generator		1	\$920.00	\$920.00	11-3-003957	Oyadav PF	Project Manager	FA	Local	22-Feb-12				
GPS Garmin62s	21F153164	2				Oddar Meanchey FAC	Chief of FAC	FA	Local	21-Feb-12				
Camera CanonSX40HS	328032000634	1				Oddar Meanchey FAC	Chief of FAC	FA	Local	5-Mar-12				
External Hard Disk Transcend 1T	"490807-1136 490807-1144 490807-1141 490807-1132"	4				Oddar Meanchey FAC	Chief of FAC	FA	Local	10-Feb-12				
Printer HP7500A	MY1BD3100P	1				Oddar Meanchey FAC	Chief of FAC	FA	Local	31-Jan-12				
Solar Panel	200W	1	\$820.00	\$820.00	13-3-000722	Preah Vihear FAC	Chief of FAC	FA	Local	6-Nov-13				
Solar Panel	Solar system	1	\$1,200.00	\$1,200.00	11-3-003012	Preah Vihear FAC	Chief of FAC	FA	Local	18-Nov-11				
Two-way radio (Repeater)	Motorola	1	\$8,845.00	\$8,845.00	11-3-003009	Prey Long	Kampong Thom FAC	FA	Local					
GPS Garmin 62s	21F308508, 21F308504	2	\$490.00	\$980.00		Prey Long	Kampong Thom FAC	FA	Local	14-Jun-13				
Camera Sony TX20	5235410, 5235612	2	\$235.00	\$470.00		Prey Long	Kampong Thom FAC	FA	Local	17-Jun-13				
Water pumping machine	Multi-stage pump c/w motor 100D 16x8(30Kw)	1	\$3,500.00	\$3,500.00	13-3-000107	Tamao Wildlife Rescue Center	Takeo FAC	FA	Local	8-Apr-13				
Video Camera	Canon 70H	1	\$650.00	\$650.00	10-3-001676	FWTC	Director of FWTC	FA	Local	11-Feb-11				

Refrigerator	LG-HS-Q126B300	1	\$520.00	\$520.00		FWTC	Director of FWTC	FA	Local	11-Feb-11				
Air-conditioner	"Akira DS-R368/EB1"	1	\$650.00	\$650.00	10-3-001677	FWTC	Director of FWTC	FA	Local	11-Feb-11				
Boats	Fiber	2	\$1,135.00	\$2,270.00	"13-3-001282 and 13-3-001283"	Mondulkiri	Project Manager	FA	Local	7-Mar-14				
Boat	Fiber	1	\$2,950.00	\$2,950.00	13-3-001281	Kampong Chhnang Flooded Forest	Project Manager	FIA	Local	10-Feb-14				
Boat	Fiber	1	\$2,950.00	\$2,950.00	13-3-001287	Kampong Chhnang Fishery Community	Community	FIA	Local	7-Mar-14				

\*\*\*Note:  Bought by JICA-Cambodia, Bought by JICA-HQ

Annex 8 Project Cost provided by Japanese side

Unit: USD  
As of 31 December 2015

Category: NFP							
Program	2010 (Aug.-Dec.)	2011 (Jan.-Dec.)	2012 (Jan.-Dec.)	2013 (Jan.-Dec.)	2014 (Jan.-Dec.)	2015 (Jan.-Dec.)	Sub-total
<b>Office Management</b>	5,303.00	42,177.00	41,494.13	45,485.35	33,547.70	35,160.06	203,167.24
<b>Overall Process</b>							328,507.38
-National process	0.00	0.00	1,200.00	0.00	0.00		1,200.00
-Sub-national	0.00	8,941.40	70,458.48	73,858.21	83,554.32	15,848.54	252,660.95
Pailin workplan implementation (Demarcation, Nursery and memorial garden)	0.00	0.00	0.00	16,372.10	0.00		16,372.10
Kampong Thom workplan implementation							
-Demarcation				32,095.08	-305.25		31,789.83
-Tree nursery					9,665.00		9,665.00
Kampong Chhnang workplan implementation (Awareness Raising)					6,190.50		6,190.50
Stung Treng workplan implementation							
-Tree nursery						7,495.00	7,495.00
-CF Demarcation						3,134.00	3,134.00
<b>Program1: Forest Demarcation, Classification and Registration</b>							14,168.03
1.1. Forest demarcation, forest classification							
Kampong Thom	0.00	0.00	9,905.83	0.00	0.00		9,905.83
Awareness Raising on Manual Permanent Forest Demarcation Procedure Workshop	0.00	0.00	0.00	4,262.20	0.00		4,262.20
<b>1.2. National function-based forest classification</b>							
Program2: Conservation and Development of Forest Resource and Biodiversity							20,059.62
2.1. Forest management action plan							
2.2. Development and management of production forests							
2.3. Monitoring, assessment and reporting for SFM							
2.4. Conservation of wildlife and biodiversity					746.69		
-Phnom Ta Mao Wildlife Rescue Center	0.00	990.00	3,650.00	6,626.40	0.00		11,266.40
-Ecotourism	0.00	237.03	0.00	0.00	0.00		237.03
2.5. Conservation and development of genetic resources and seed sources							

2.6. Tree planting and development of forest plantations						33.75	33.75
Agroforestry in Lao	0.00	0.00	5,400.00	0.00	0.00		5,400.00
Watersheed management in Pailin	0.00	0.00	0.00	4,953.00	-1,830.56		3,122.44
2.7. Development of forest product and market promotion							
2.8. Wood technology development and forest product processing							
2.9. Forest certification system							
<b>Program3: Forest Law Enforcement and Governance</b>							4,359.00
3.1. Legal and administrative reform	0.00	0.00	0.00	4,359.00	0.00		4,359.00
3.2. Law enforcement and forest crime monitoring and reporting							
<b>Program4: Community Forestry Program</b>							10,992.85
4.1. Community forestry identification and formalisation							
4.2. Community, Institutional and livelihoods development							
4.3. Community forestry development support	0.00	0.00	0.00	0.00			0.00
NCFPCC	0.00	1,100.00	0.00	0.00	747.25	7,494.00	9,341.25
Publication of CF statistic in Cambodia	0.00	0.00	500.00	500.00	0.00	651.60	1,651.60
<b>Program5: Capacity and Research Development</b>							134,863.39
-Capacity building							
Training in FWTC	0.00	23,362.27	8,500.00	0.00	0.00		31,862.27
CBNA	0.00	0.00	700.00	665.00	3,965.98	13,690.25	19,021.23
-Extension and public awareness raising	0.00	12,499.25	3,000.00	0.00	0.00		15,499.25
-Royal Aborday	0.00	3,000.00	3,000.00	3,000.00	0.00		9,000.00
"-Research and capacity building development:							
Wood specimens and leaves collection							
Identify potential permanent research forests							
Research publication"	0.00	13,330.52	10,301.25	4,359.00	4,864.62		32,855.39
-Research Strategy and Webpage of IRD	0.00	0.00	0.00	0.00	5,310.00		5,310.00
-Seed source project in Kbal Chhay Watershed Protection Area	0.00	0.00	0.00	8,517.75	12,797.50		21,315.25
<b>Program6: Sustainable Forest Financing</b>							
Category: REDD+ (the Project)							
Program	2010 (Aug.-Dec.)	2011 (Jan.-Dec.)	2012 (Jan.-Dec.)	2013 (Jan.-Dec.)	2014 (Jan.-Dec.)	2015 (Jan.-Dec.)	Sub-total
<b>Outcome 1: Institutional arrangement</b>							<b>103,704.94</b>
- International trips	5,081.46	35,449.30	45,703.68	2,733.18	0.00	9,303.92	98,271.54
- Taskforce secretariat	0.00	0.00	1,600.00	0.00	1,946.60	600.00	4,146.60
- FiA involvement	0.00	0.00	0.00	1,286.80	0.00		1,286.80

<b>Outcome 2: Policy and Strategy</b>							<b>31,203.08</b>
- Wildlife and Biodiversity Law	0.00	0.00	6,952.78	4,320.00	0.00		11,272.78
- Biodiversity database	0.00	606.00	4,100.00	3,257.00	650.00		8,613.00
- Carbon stock enhancement	0.00	6,056.00	5,261.30	0.00	0.00		11,317.30
<b>Outcome 3: Project/Sub-national</b>							<b>756,321.31</b>
- Seima PF and FPIC	0.00	19,812.63	73,125.00	29,042.90	0.00		121,980.53
- Veun Sai & Siem Pang	0.00	7,715.39	27,050.64	10,306.11	16,036.89	11,743.55	72,852.58
- Central Cardamom PF	0.00	12,833.50	13,530.00	3,500.00	11,343.37	22,951.01	64,157.88
- Preah Vihear PF and Pre-FPIC	0.00	52,374.87	70,920.09	30,464.25	26,193.91	1,219.81	181,172.93
- Kulen Prum Tep Wildlife Sanctuary	0.00	0.00	30,067.00	0.00	0.00		30,067.00
- Western Siem Pang	0.00	1,235.00	2,329.00	3,570.00	2,330.00	644.00	10,108.00
- Oddar Meanchey CF	0.00	8,205.00	11,785.00	0.00	1,263.30		21,253.30
- Southen Cardamom PF	0.00	4,250.00	0.00	0.00	0.00		4,250.00
- Oyadav Protected Forest	0.00	0.00	21,285.07	3,299.40	0.00		24,584.47
- Mondulkiri Protected Forest	0.00	0.00	0.00	0.00	2,270.00		2,270.00
- Prey Long	0.00	0.00	0.00	66,382.40	80,589.13	55,362.88	202,334.41
- Kampong Chhnang Flooded Forest	0.00	0.00	0.00	0.00	12,109.00		12,109.00
- Prey Nub Mangrove Forest	0.00	0.00	0.00	0.00	9,176.21	5.00	9,181.21
- Other sites	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00
<b>Outcome 4: MRV</b>							<b>189,149.57</b>
- NFI Training					531.07		531.07
- Basic education for FA	0.00	72,149.00	106,050.00	0.00			178,199.00
- Basic education for FiA	0.00	0.00	0.00	10,419.50			10,419.50
<b>Total of REDD+</b>	<b>5,081.46</b>	<b>220,686.69</b>	<b>419,759.56</b>	<b>168,581.54</b>	<b>164,439.48</b>	<b>101,830.17</b>	<b>1,080,378.90</b>
<b>Total of NFP and Office Management</b>	<b>5,303.00</b>	<b>105,637.47</b>	<b>158,109.69</b>	<b>205,053.09</b>	<b>159,253.75</b>	<b>83,507.20</b>	<b>716,864.20</b>
<b>Grand Total</b>	<b>10,384.46</b>	<b>326,324.16</b>	<b>577,869.25</b>	<b>373,634.63</b>	<b>323,693.23</b>	<b>185,337.37</b>	<b>1,797,243.10</b>





**Annex 9 List of Training in Japan**

	Name	Position/Organization at the time of training	Training Period	Title of Training Course
1.	Mr. Lim Bunna	Deputy Manager Planning, Statistics and Total Office Forestry Administration	27 Sep. 2011 – 17 Nov. 2011	Capacity Building for National Forest Monitoring System to Promote REDD
2.	Mrs. Sar Sophya	Deputy Manager Watershed Management and Forest Cover Assessment Office Forestry Administration	13 May 2012 – 7 Jul. 2012	Capacity Building for National Forest Monitoring System to Promote REDD
3.	Mr. Chanthet Thannarak	Deputy Chief of Administration, International Cooperation and ASEAN Forestry Administration	13 May 2012 – 7 Jul. 2012	Capacity Building for National Forest Monitoring System to Promote REDD
4.	Ms. Koh Sotheavy	Demarcation, Registration and Forest Land Use Office	6 May. 2013 – 21 Jun. 2013	Remote Sensing of Forest Resources (A) Basic
5.	Mr. Menh Khidorang	Watershed Management and Forest Cover Assessment Office Forestry Administration	6 May 2013 – 21 Jun. 2013	Remote Sensing of Forest Resources (A) Basic
6.	Ms. Nay Sikhoeun	Demarcation, Registration and Forest Land Use Office Forestry Administration	12 May 2013 – 6 Jul. 2013	Capacity Building for National Forest Monitoring System to Promote REDD
7.	Mr. Ork Sithsambo	Demarcation, Registration and Forest Land Use Office Forestry Administration	12 May 2013 – 6 Jul. 2013	Capacity Building for National Forest Monitoring System to Promote REDD
8.	Mr. Prep Sam	Chief of Agro-Forestry Office Forestry Administration	18 Sep. 2013 – 6 Nov. 2013	Remote Sensing of Forest Resources
9.	Mr. Neab Keng	Department of Forestry and Community Forestry, FA	12 Aug. 2014 – 14 Nov. 2014	Various Forest Conversations with Community Participation
10.	Mr. Song Panha	Trapeang Prasat FA Triage, FA	24 Aug. 2014 – 8 Nov. 2014	Proceeding Ability for Sustainable Forest Management
11.	Mr. Pak Sngoun Pisey	Department of Wildlife and Biodiversity, FA	23 Sep. 2014 – 25 Oct. 2014	Improvement of Environmental Education Technique for Biodiversity Conservation
12.	Mr. Net Norin	Department of Forestry and Community Forestry, FA	7 Jun. 2015 – 1 Aug. 2015	Capacity Building for National Forest Monitoring System to Promote REDD+ and Sustainable Forest Management



## 主要面談者リスト

## プロジェクト・ステークホルダー

氏名	所属
H.E. Dr. Chheng Kimsun	プロジェクトダイレクター 政府代表委員・森林局長
H.E. Chea Sam Ang	プロジェクトダイレクター補、タスクフォース・FACCC 議長 FA 次長
Dr. Keo Omalis	プロジェクトマネジャー FA 野生生物・生物多様性部長
Dr. Khorn Saret	プロジェクト国家行政コーディネーター FA 森林・コミュニティ森林管理部副部長
Mr. Long Ratanakoma	テクニカルチームメンバー（利益分配） FA 森林・コミュニティ森林管理部副部長
Mr. Chhun Delux	テクニカルチームメンバー（セーフガード） FA 炭素クレジット・気候変動室副室長
Mr. Leng Chivin	テクニカルチームメンバー（MRV/REL） FA 流域管理・森林被覆率評価室長
Ms. Sar Sophira	テクニカルチームメンバー（MRV/REL） FA 流域管理・森林被覆率評価室副室長
Dr. Sokh Heng	FA 森林・野生生物開発研究所長
Dr. So Thea	FA 森林・野生生物開発研究所副所長
Mr. Bun Tun	FA 森林・野生生物開発研究所
Mr. Ouk Vibol	FiA 水産資源保護部長
H.E. Dr. Paris Chuop	環境省審議官兼国家 REDD+フォーカルポイント

## FA プレイロング

氏名	所属
Mr. Teb Nheata	コンポントム FA カントンメント署長
Mr. Reung Sophat	コンポントム FA カントンメント副署長
Mr. Soth Mary	コンポントマル FA 管区長
Mr. Sav Vanny	サンダン FA 管区副区長
Mr. Mok Narin	サンダン FA 管区副区長
Ms. Luy Ratana	野生生物生息地域・エコツーリズム事務所副所長

Mr. Phal Sary	コンボンスヴェイ FA トリアージ所長
Mr. Chan Monyneath	サンダン FA トリアージ所長
Mr. Ho Kimcheng	トムリン FA トリアージ所長
Mr. To Sothea	クラヤ FA トリアージ副所長
Mr. Sing Seangly	トムリン FA トリアージ副所長

#### JICA 専門家

氏名	プロジェクトにおける地位
中田 博	チーフアドバイザー
松江 真美	業務調整/コベネフィット
小野 茂	JICA 技術アドバイザーチーム総括

#### プロジェクトスタッフ

氏名	プロジェクトにおける地位
Ms. Ches Sopheap	オフィスマネジャー
Mr. Y Chaly	技術アシスタント

#### 他の REDD+開発パートナー

氏名	所属
Ms. Setsuko Yamazaki	UNDP カンボジア事務所長
Dr. Moeko Saito-Jensen	UNDP カンボジア事務所気候変動・持続可能な開発政策専門家
Mr. Anupam Bhatia	UN-REDD / FCPF 技術専門家
Mr. Sovanna Nhem	FCPF 国家プログラムアドバイザー
Mr. Mathieu Van Rijn	FAO 専門家
Dr. Ross Sinclair	WCS カンボジアプログラム国別プログラムダイレクター
Mr. Jeff Silverman	WCS カンボジアプログラム REDD+技術アドバイザー
Mr. Matt Nuttall	WCS カンボジアプログラム REDD+技術アドバイザー
Mr. Donal Yeang	WCS カンボジアプログラム

#### JICA カンボジア事務所

氏名	所属
安達 一	JICA カンボジア事務所 所長
伊藤 隆司	JICA カンボジア事務所 次長
内田 東吾	JICA カンボジア事務所 企画調査員

## 面談メモ(1)

相手方	CI ジャパン
日 時	2016年2月4日(木)16:01~17:05
場 所	CI ジャパン
面会者	(先方) 浦口あや、CI ジャパン (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>—今回のように複数の開発パートナーが参画する大きな枠組みの中で行動することは、CI ではよくあることか？ (浦口) 大きな枠組みの中で行動することが多い。小さなプロジェクトを2年だけ実施するというようなことはない。大きな枠組みの中で行動するには、資金面での安定性、ドナー間のコーディネーションが重要になる。中央カルダモン保護林 (CCPF) ではこれらがうまくいっている。ガバナンスがしっかりしていたので、最初の段階で時間をかけずに進められた。一方、プレイロングはまだ REDD になっていない。CCPF における FA の能力をプレイロングに活かすことができればいい。資金も心配であり、いろいろな資金を組み合わせなければならない。</p> <p>—NGO ということで、資金面での苦労は？ (浦口) 資金の確保にはいつも苦労している。NGO とはそういうものだと思う。ドナー、相手国政府、企業、NGO が組み合わせると大きな成果を上げることができる。CI がカンボジアで展開している森林保護活動 (CCPF、ブンサイ、プレイロング) のうち、CCPF ではダイキン工業の CSR との連携関係、ブンサイでは FA との信頼関係をそれぞれ構築できた。カンボジア政府のガバナンスはまだ弱く、法の実効性やマネジメントに問題が残っている。その中でコミュニティの生計向上にも取り組まなければ、森林保護活動は成功しないだろう。CCPF では住民との間に保全契約を締結し、樹木を伐採しない約束を取り付ける一方で代替収入源を紹介した。これには FA の連携があった。</p> <p>—具体的な代替収入源は？ (浦口) CCPF では、クメール・ルージュ時代に水田が放棄され焼畑、密漁、違法伐採が行われていた。そこに重機、農機、水牛を供与し水田を復活させた。エコツーリズムも実施した。樹脂やカルダモン果実を生産するよう助言した。教育水準を向上させるため、教師の給料を補填している。違法行為対策として、パトロールにコミュニティから参加してもらっている。例えば、住民が密猟のための罠を発見すれば現金と交換している。違法行為を発見すれば FA に通報するようにしている。</p> <p>—通報手段は？ (浦口) 直接知らないが、携帯電話だと思う。プレイロングで見たところでは、広いところへ出れば携帯の電波が通じる。一部、GPS も使えるようにしている。通報を受けた FA は、バイクや牛車に乗るか徒歩で現地へ来る。違法伐採木材の押収は大変である。</p> <p>—住民に対してパトロールに参加するよう呼びかけたのか？ (浦口) パトロールへの参加は保全契約に含まれている。保全契約の内容は住民と議論して決めている。契約は1年ごとに更新される。これまでのところ契約に反対した住民はいない。</p>

<p>—住民は読み書きできるか？  (浦口) 読める人、読めない人、書けない人がいる。バイク購入の契約書にサインを書けない人がいた。</p> <p>—契約内容が誤解されたことはないか？  (浦口) 保全契約はコミュニン単位で締結しており、コミュニンチーフが代表してサインしている。契約内容は住民と語り合っていて決めている。コミュニンとは、日本の村に相当する単位である。</p> <p>—違法伐採から収入源を転換したところ、収入減になったケースはあるか？  (浦口) それはわからないが、少なくとも契約が切れたことはない。九州大学のカンボジア人学生がCCPFの保全契約の経済効果を研究していた。</p> <p>—保護活動の対象となる森林は広いので、完全に見ることができないのでは？  (浦口) プレイロングでは代替収入源として樹脂があり、国内で販売するほか、ベトナム等に輸出もしている。ここは森林を守ろうという住民の意識が高い。以前からいろいろな非木材産物を生計手段としていて、森林依存度が高い。CCPFではこれと別の樹脂が採取できる。</p> <p>—隣国からの越境伐採はあるか？  (浦口) わからない。ただ、違法伐採された木材は最終的に中国へ送られている。</p> <p>—隣国との関係緊張の影響はあるか？  (浦口) CIが関わっているものに限れば直接の影響はない。プレアビヒアではWCSのメンバーが殺害される事件が発生した。CIの現地メンバーは影響を感じているかもしれない。CIカンボジアが各地域に担当者を置いている。CIジャパンは政府との橋渡しを担当している。</p> <p>—クメール語が通じない住民はいるか？  (浦口) プレイロングにはクイ族(Kuy)がいるが、彼らを含む住民全員がクメール語を解する。CCPFには別の先住民族がいるが、通訳が必要だという話は聞いていない。</p> <p>—先方の人事に影響されることはあるか？  (浦口) 地元採用のレンジャーの給料が不足しているので、CIから補填している。中央から派遣されてくる地方FAのトップについても、CIから補助金を出している。</p> <p>—公務員の生活は成り立っているか？  (浦口) 恐らく成り立っていると思う。FA派遣の専属職員から不満を聞いたことはない。</p> <p>—このような補助金はいつか停止しなければならないと思われる。その見通しは？  (浦口) CIとしても補助金をいつまでも続けるわけにはいかないが、税金が増えないのでまだ停止できない。政府がオーナーシップを持てるよう支援している。CCPFでは半年前にトラストファンドを設立し、その利子を給料に充当している。カーボンクレジットの収入を保護林に配分するREDDの枠組みはこの要請にぴったりである。</p> <p>—REDDの収入はひも付きか？  (浦口) それは繊細な問題である。透明性が常に要求される。プレイロングの収入はプレイロングのために使うと決まっている。そうすることでインセンティブを働かせている。</p> <p>—REDDのクレジットは、かつてのCDMのクレジットのような投機の対象になって価格が乱高下しないか？  (浦口) それはわからない。ただ、安定バイヤーを探す努力は続けている。ペ</p>
--

	<p>ルーで CI が関与した REDD は Disney に買い取ってもらった。CDM の評価報告書 (AR) では、クレジットは期限付きであった。</p> <p>—NGO から企業に対して、森林保護活動参加のメリットを説明したか？  (浦口) CSR として実施するものは、持続性や規模に限りがある。ビジネス連携が必要である。CI は REDD に積極的に取り組んでいるが、ゴム、パーム、コーヒーが主で、林業や製紙業とのやり取りがない。大きなインパクトのあるビジネスに関わってほしいと思っている。</p> <p>—浦口様は企業 (三菱総研) での経験が役に立ったか？  (浦口) 商社は動きが速いので、それに歩調を合わせるようにしていた。資金がどのように回るのか想像がついたのは、企業の経験ゆえかもしれない。</p> <p>—CI の意思決定は速いか？  (浦口) 時間をかけるべきところにはかけている。CI 全体の規模は大きい関係部署の規模は小さい。ドナーはニーズの掛け算で動くので、どうしても動きが遅くなる。</p> <p>—カンボジア政府の意思決定は速いか？  (浦口) 違法行為を首相命令で直ちに止めさせたことがあった。首相が直接関与するものは、良くも悪くも動きが速い (悪くも、というのは内容が不透明なものもある)。末端だと、担当者交代、副業を持っているといった要因があるため、定員の中で実際に動ける人が少なく、仕事ができる人に業務が集中する。そのため、組織としての動きが遅い。</p> <p>—カンボジア政府のガバナンスについては？  (浦口) 鍵になる人が物事をしっかり把握している。時間はかかるが方向性の誤りは少ない。</p> <p>—省庁縦割りの弊害はあるか？  (浦口) ある。これは日本も同じである。カンボジアでは環境省とそれ以外の省庁の関係が良くないと聞いている。農水省と環境省とが隣接する保護林をそれぞれ管理していても、互いに協力しない。</p> <p>—CAM-REDD 終了後、日本人不在となる期間の懸念は？  (浦口) 中田さん、松江さんがいなくなるのは痛手になる。JCM スキーム内で初めて業務調整をしてもらった。カンボジア人スタッフ (女性) は優秀だが、それだけではキャパシティが十分であるとは言えない。</p>
--	---



面談メモ(2)

相手方	JICA 短期専門家
日 時	2016年2月9日(火)16:00~17:10
場 所	アイコンズ会議室
面会者	(先方) 小野茂、短期専門家 (アジア航測) (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>—本プロジェクト開始以来、基本方針に変更はないか？ (小野) ない。</p> <p>—中間レビュー時点で、4つの成果のうち3つはほぼ達成となっている。その後の進展は？ (小野) Taskforce、Technical Team (4つ)、Secretariat という組織を2013年に作り上げた。成果4については、COP21があったことで急激に進んだ。NFMSができた。FRELについてはFAが実施し、UNへの提出はまだだが既にMAFF内の了承を得た。GHGのRELの計算もできた。SISのstrategy (これはワルシャワフレームワーク以後なので後付けになる) も書けた。</p> <p>—COPはいつも紛糾し、REDDの基本方針も揺れ動いた。それに振り回されたのでは？ (小野) その影響はある。COPの行方に流される。REDDの枠組みではtransparencyを求められるのが難しい。そもそも世界中にREDDの専門家が存在するのか疑問である。NGOはまだ経験途中であるし、GHG削減量はモニタリングしないとわからず結果がまだ得られていない。REDDの枠組みは決まったものではなく、解釈の幅がある。FAOを通じたUN-REDDの活動では自前の解釈をしていた。</p> <p>—そのような複雑な枠組みの中、REDDに取り組むインセンティブとして、森を守ること、クレジットを得ること、他国との競争意識が考えられる。他には？ (小野) カンボジアの森林率は低下したといえどもまだ60%弱ある。REDDの枠組みがなかなか決まらず、進展があったのがワルシャワ以後なので、クレジットの収入、GCFからの資金拠出がまだない。インドネシアはそれに痺れを切らしてしまった。FAも政府の他部署からいつ収入があるのかとつつかれている。独自のプロジェクトを立ち上げようともしている。</p> <p>—REDDに参加している複数の開発パートナー同士の調整は難しいか？ (小野) 難しいが、各々の目指すところに差はないと思う。しかし、UN-REDDに関わる国際機関と、JICAのような国の機関とでは事業の進め方がやや異なる。JICAはJCMを目指しているようだ。他にFA独自のプロジェクトもあってUSAIDが肩入れしている。</p> <p>—プロジェクトの姿は、COPの情勢に合わせて変えてきたのか？ (小野) そのように変えてきた。2011年プロジェクト開始時点ではREDDの枠組みが不明であった。それが明らかになってくるにつれて指標を更新していった。joint coordinationである。</p> <p>—プログラムレベルでの調整は？ (小野) 関係主体がモザイク状に入り組んでいて難しかった。JICAではFRELの計算を実施し、フレームワークはFAOが担当した。研修については、FAOのものと同重複しないよう実施してきた。</p>

<p>—研修の要否判断や、講師や受講者の手配は迅速にできたか？  (小野) JICA は書類作成を重視している。手配は FA に外注した。スケジュール調整は大変だが、タイミングを逸しないよう心がけた。ワークショップはキャパシティ向上に直結しないので重視しなかった。キャパシティを向上させた者が辞めることもあり苦労した。研修の不足分は supplemental paper や補講で対応した。</p>
<p>—受講者のキャパシティは向上したといえるか？  (小野) 十分向上したと思う。国によっては受講の certificate を要求されることがあるが、カンボジアではその要求はあまりなかった。JICA と、UN-REDD、その窓口たる FAO との関係は密だったが、USAID、国際 NGO、韓国、中国も支援に名乗りを上げてきて、カンボジア側がそれに応じるので、関係者が JICA の研修からそちらへ流れる、JICA の立場から見て必要ない知識を関係者が得てくる、といった弊害があった。交通整理をする人がいなかった。当方は USAID 等に対して、失礼のない範囲で事情を話して調整した。</p>
<p>—米国大統領選挙を経て、USAID の出方が変わると思われるか？  (小野) それはわからない。USAID は、データの改良のような技術的な面と、カンボジアの特定地域を対象としたプロジェクトを立ち上げて米国企業を参画させることを考えているようである。USAID の動きは読み切れない。USAID はズカズカと直言するのでカンボジア側に嫌われていて、FA もカチンと来たことがある。</p>
<p>—開発パートナー同士の調整は本プロジェクトの阻害要因か？  (小野) そこは敏感である。複数の開発パートナーが参加する場合、transaction cost が発生することは仕方がない。時間や手間がかかる、タイミングを逃すというマイナス面はある。一方で、それぞれの得意なものを集めればいいものができる。例えば FAO は仕組み作りが得意であり、FAO から多くの input をもらった。今回は国際機関の口出しが多くて辟易した。</p>
<p>—UN-REDD や FAO との関係は良好とっていいか？  (小野) FAO は UN-REDD の実施部隊になっている。これとは別に FAO 本部からも協力を得た。</p>
<p>—誰が交通整理していたのか？  (小野) 交通整理は、一義的には FA の責務だが、現場レベルでは中田専門家が政策専門家として担っていた。大枠レベルでは JICA 本部と FAO 本部との間で調整が行われていた。それでデマケができ、consolidated work plan ができた。</p>
<p>—カンボジア側のオーナーシップが確立されていると思われる。この貢献要因は？  (小野) COP21 という締切があったのがよかった。FA に対して、REDD に自分が責任を取るよう繰り返し伝えた。それで FA は真剣にならざるを得なくなった。REL や strategy については、4 つの Technical Team が作成して Taskforce に上げた後、MAFF 大臣許可を得る必要がある。その際に説明責任が生じるので、説明の必要に迫られて目が開いたようだ。</p>
<p>—プロジェクト開始時点で、カンボジア側のオーナーシップを確立するための工夫はあったか？  (小野) 開始時点では当方も事情がよく分かっていないので、特に工夫はしなかった。ただ、カンボジア側の上層部は「雇われ外国人」を使っているという意識であったのに対して、下のレベルは JICA に頼る意識が強かったので、「これができなくて困るのは貴方だ」という言葉がけを繰り返したことがオーナーシップの確立につながった。もう 1 つ、地図や森林のデータといった</p>

必要な情報をカンボジア側が隠して出さないという問題があったが、「REDDの内容をUNに報告する際に transparency が必要になるのだ」ということを繰り返し説いて克服した。地図や森林のデータは、目的外に使用しないという秘密保持契約のような約束を交わしたうえで、開示してもらった。

—オーナーシップの確立は教訓として残せると思われる。その確立されたオーナーシップの下で、カンボジア側が自力で活動を続けていける見通しは？

(小野) 本プロジェクトが2016年5月に終了した後もFCPFが2017年6月まで続いている。これはUNDPがdelivery agentとして実施し、FAOに外注している(管理費を取っている)。その目的はphased approachに沿ったステップアップである。森林に関係するCO<sub>2</sub>排出量増加には伐採と森林劣化があり、今のところ対処できるのは前者だけで、後者は経済的な技術で抑えることができていない。

—FCPF後はどうか？

(小野) 自力で実施すべき課題がいくつかある。地図作りはあと少しのサポートがあれば可能になる。FRELの計算もほどなく可能になろう。GHGについてはUSAIDが環境省を支援して隔年更新報告書(BUR)を作成させており、3年後までには何とかかなりそうである。あと欠けているキャパシティは計画能力で、REDDに限らず一般に予算計画及びモニタリングが十分にできていない。これはFAの幹部も感じている。

—カンボジア側が自立してやっていけるようになるまでに、あと数年かかるということか？

(小野) そうである。中央レベルでは専門家が入れば日常会話を通じてキャパシティを向上させられるが、地方教育はそうはいかない。現状では既に中央政府が地方に対して指導者研修(TOT)のようなことを実施しているが、それ以外はドナーが巡回するだけであり、キャパシティ向上の機会が十分でない。資金面では、REDDのクレジットの収入を当てにしているが、前述したようにREDDの枠組みが確定していないため現金収入がまだない。そのため、担保がなく、resort base paymentでない。当面のキャッシュが必要である。

—途上国の常として、キャパシティを向上させた職員が人事異動、副業、安い給与といった原因で不在になったり辞めたりしていないか？

(小野) その問題はカンボジアも例外ではない。実際、公務員の給料は安く、副業を持つ人は多い。副業で多いのは、大学で教える仕事や、UN専門家として雇われるものである。100人に教えたとして実際にキャパシティを向上させて使えるようになる人の割合、いわば「歩留まり」は高くない。

—その他の懸念材料は？

(小野) JICA側とFAOとの関係は良好だが、FAOには「やってあげる」という姿勢が見られ、JICA側(小野、中田、松江)は「それは違うだろう」と思っている。

## 面談メモ(3)

相手方	WCS Cambodia Program
日 時	2016年2月13日(土)16:07~17:10
場 所	Seima USAID
面会者	(先方) Mr. Matt Nuttall, Technical Advisor, WCS Cambodia Program (先方) Mr. Donal Yeang, WCS Cambodia Program (当方) 田中誠 (専門家) 松江真美 (MN)
受領資料	SPF_overview - Feb16.pdf (プレゼンのレジュメ)
手交資料	なし
議事次第	USAID によるプレゼンテーション、質疑応答
主な事項	<p>(MN) USAID によるプレゼンテーション</p> <p>USAID は 2002 年から Seima において FA や野生動物保護協会 (WCS) と協働している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Seima Protected Forest の概要：南東に常緑樹林、高地には草原がある。トラ等のネコ科動物、ゾウ、バンテン (banteng)、ガウア (gaur)、エルドジカ (Eld's deer) や霊長類 (primates)、南アンナン固有種が住む。</li> <li>• マネジメントについて：1990 年代は伐採を許容していた。2002 年から 2009 年まで Seima Biodiversity Conservation Area を指定し、2009 年以降は Seima Protection Forest を指定した。Seima の場合、森林に対する脅威として特徴的なものに、国内外からの移民による開墾がある。カンボジアにいる 200 を超える少数民族への配慮も必要である。WCS の Seima における活動は、大きく law enforcement、community work、biological research に分けられる。</li> <li>• 主な成果：森林減少を食い止めた。野生動物の個体数には、増加したものとしなかったものがあるが、大きく減少したものはない。</li> <li>• 将来の展望：人口、道路アクセス、森林への需要が増大する中、究極の目標として、野生動物の個体数を増やし、生息地を改善することを目指している。</li> </ul>

面談メモ(4)

相手方	Seima Community
日 時	2016年2月14日(日)9:21~10:32
場 所	Seima Community
面会者	(先方) 村人3人(男性、女性A、女性B) (英語⇄クメール語通訳) Mr. Donal Yeang, WCS Cambodia Program (クメール語⇄現地語通訳) WCS 関係者1名(男性) (関係者) WCS 関係者1名(男性) (当方) 田中誠 (専門家) 松江真美
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>— (終了時評価の説明)</p> <p>— 2011年にCAM-REDDが開始された際、どのような影響があるか説明を受けたか? (女性A) コミュニティの側から会議に出席して、CAM-REDDについて説明してもらった。</p> <p>— (松江) プロジェクトが実施されたことで何が変わったか? (男性) 意識が啓発された。</p> <p>— プロジェクトの内容が当初の説明と食い違う事態はあったか? (男性) 言葉が通じないのが難しかったが、WCSに現地語ができる人がいたのでコミュニケーションは取れていた。</p> <p>— プロジェクト開始後、生計手段を変えたか? (男性) 少し変わった。樹木伐採、動物捕獲を完全に止めた(以前からほとんどやっていた模様)。新たにツアーガイドを務めるようになった。</p> <p>— 啓発された意識を次世代に伝えていく計画や期待は? (男性) 次世代に直接話していく。</p> <p>— その話はどこですか? 学校、家庭、コミュニティ集会所か? (男性) 家庭やコミュニティ集会において直接話していく。学校ではない。</p> <p>— 森林保護のメリットや、伐採のデメリットをどう説明するのか? (女性A) 森がなくなれば、我々の生計手段である樹脂や蜂蜜がなくなってしまうということを教えていく。</p> <p>— エコツーリズムの客に何を学び、何を持ち帰ってほしいか? (男性) (女性A) 我々には森林保護以外に生計手段がある(したがって森林を伐採しなくとも我々は生計を立てられる)ことを理解してほしい。ローカルな食文化(蟻料理等)の存在を覚えてほしい。fair returnもほしい。</p> <p>— (松江) Seimaの20村で情報共有しているか? (男性) まだ情報共有の途上である。 (女性) WCSの支援を受け、authorizationを進めているところである。</p> <p>— 仮に開発パートナーやNGOのインターベンションがなかったとすれば、エコツーリズムの運営はどうなるか? (男性) 技術的能力が不足したであろう。予約受付、ホスピタリティ、ツアーのアレンジ等々、すべて不可能であったであろう。</p> <p>— 意識啓発の結果、森林保護以外に環境に影響する行動、例えばゴミ捨てや汚水排出といった行動に変化はあったか? (女性A) ゴミを集積するようになった。以前はビニール袋が出回っていなか</p>

	<p>ったが、出回るようになったのでゴミを集積するようにした。収集ではなく各自が集積所に持ち寄っている。そもそもゴミ収集の公的サービスはない(集積されたゴミの行方は御存じない模様)。</p> <p>— (松江) コミュニティの住民がパトロール中に違法伐採を発見した場合はどうするのか？</p> <p>(女性 A) 外部から来て違法伐採していく人がいる。その背後には外部の人がいると思う。発見すれば FA に通報している。</p> <p>— (松江) FA は信用できるか？機能しているか？</p> <p>(女性 A) 違法伐採を通報すれば FA は来る。</p> <p>— 違法な動物捕獲のための罠を発見すればどうするのか？</p> <p>(男性) (女性 A) FA に通報して回収してもらう。</p> <p>— 森林保護のために、開発パートナーや NGO から教えられたこと以外のコミュニティ独自のアイデアはあるか？</p> <p>(男性) (女性 A) ある。違法伐採は多い。</p> <p>— (松江) 2年前に自分が見た大木が切られていたようだが？</p> <p>(女性 A) その木は老化したので所有者が切ると決めた。</p> <p>— (松江) 他にも切り開かれた土地があったが？</p> <p>(女性 A) 保護地域の指定を外れた土地かもしれない。すぐにはわからない。</p>
<p>その他</p>	<p>保護林視察</p> <p>(DY) FA が地元住民と合意の上で保護林の区域を指定し、境界上に杭を打っている。この合意のもとでは、住民は保護区域への立ち入りを制限される。杭で境界を示すのみならず、溝を掘って立ち入りできなくしている。溝を掘る費用は USAID の助成を受けている。</p> <p>Seima のステーション敷地内にある押収物</p> <p>(FA) 違法伐採者や密猟者から四輪車、二輪車、チェーンソー、罠を押収し、ステーション敷地内に一時的に保管してある。違法伐採木材は年 200~300m<sup>3</sup> の違法伐採木材を押収している。押収された木材は裁判の証拠として保全し、裁判が終了すれば売却している。売却益は FA の収入になる。</p> <p>(DY) FA のステーションは Law Enforcement、Observation、Community の 3 部門に分かれ、互いに協力して活動している。</p>



面談メモ(5)

相手方	JICA 長期専門家
日 時	2016年2月15日(月)8:58~10:17
場 所	FA-OTA
面会者	(先方) 中田博、長期専門家 (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>—プロジェクトの達成状況は？ (中田) 4つの <b>Outcome</b> のうち、<b>Outcome 2</b> の <b>Indicator 2.3</b> の法案のみ未達成である。ただドラフトはできた。それ以外はすべて達成である。</p> <p>—国内のパイロット 13カ所について (中田) <b>Outcomes 1, 2, 4</b> は全土を対象としている。<b>Outcome 3</b> は保護林を対象としている。</p> <p>—プロジェクトの結果、カンボジア側のキャパシティは向上したか？ (中田) 牽引する立場の人材は育成されたが、もう少し層を厚くしていかなければならない。資金面では <b>UNFCCC</b> の森林投資プログラム (<b>FIP</b>) から 300~400億円を受けられるので心配ないが、組織力は十分とは言えない。やはりカンボジアのような内陸開発途上国 (<b>LLDC</b>) には荷が重い。<b>Output 4</b> の計測は可能になったが、まだまだ精度を上げていく必要がある。留学帰り世代が組織の中核を占めるようになってきたので、その世代に期待したい。事前調査の時点でロードマップが策定された。<b>REDD</b> の歳入をもって持続性を確保しようという方針は <b>JICA</b> の論理に合わないので却下した。個別派遣専門家から移行した。5年という期間でどこまでやれるかはわからなかった。カンボジアの <b>REDD</b> を支援するために多くの開発パートナーや <b>NGO</b> が参加する巨大な枠組みがある中で、従来の技プロとして参加するか新たなスキームを作るかで地域部と意見が対立したが、押し切って現在の姿になった。ただ、<b>Outcome</b> の指標を <b>verifiable</b> なものにするところはきちんとやった。</p> <p>—プロジェクト開始の 2011 年の時点で、<b>REDD</b> の姿はどうだったか？ (中田) <b>REDD</b> の定義はなかった。<b>REDD</b> の大枠は決まっていたが詳細は決まっていなかった。ただ <b>REDD</b> の輪郭は見えていて、どのようになりそうだというイメージはあった。</p> <p>—<b>REDD</b> の姿が決まっていく過程に合わせられるよう、プロジェクトを柔軟に設計したのか？ (中田) セーフガードがガイドラインになった。ワルシャワ (2013年 <b>COP19</b>) において <b>SIS</b> が決まった。パリ (2015年 <b>COP21</b>) を経て残り期間が半年になった。</p> <p>—カンボジア政府はそのような情勢に対応しきれていたか？ (中田) カンボジア政府はよくついてきた。ここ 2年は <b>JICA</b> の方が難しかった。</p> <p>—<b>REDD</b> 支援の関係主体のうち、最も密接に関わったのは？ (中田) まず「開発パートナー」というのはプログラムを指すことに注意されたい。最も密接に関わったのは <b>UN-REDD</b> だった。これは終了して <b>FCPF</b> に受け継がれた。<b>Outcome 3</b> のみ <b>WCS</b> 等の <b>NGO</b> とも関わりを持った。<b>Output 4</b> では <b>FAO</b> と関わった。今後は <b>FIP</b> が中心プログラムになる。</p> <p>—カンボジア政府が <b>REDD</b> に取り組むインセンティブは何か？ (中田) <b>FA</b> のミッションは「持続可能な森林経営」である。<b>FA</b> にとっては <b>REDD</b></p>

<p>より NFP の方が重要である。NFP の 6 つの Programme のうち Programme 6 (Sustainable Forest Financing) で、2021 年以降 GHG 削減量に対する成果払いを述べている。削減量はクレジットとは異なる。他に VCS に沿った JCM も考えている。</p> <p>—REDD に取り組んでいる他国に負けたくないという意識はあるか？ (中田) カンボジアは LLDC なので、そのような意識があるとすればラオスに対してであろう。それよりも、他国に後れを取りたくないと考えているようである。</p> <p>—自国の森林を守るミッション、REDD のクレジットからの収入、他国に対する意識の 3 つ以外にインセンティブはあるか？ (中田) 国家としてはその 3 つだけである。先行したインドネシアを見ると、1998 年のアジア通貨危機の際にスハルト政権が無秩序な分権化を進めたので、森林が無茶苦茶になってしまった。</p> <p>—地方分権は森林保護や REDD にとって阻害要因になるのか？ (中田) インドネシアでは、分権に関する憲法的なルールがないのに全国に 400 以上もの県を設置した結果、このような無茶な事態が発生した。統計や基本政策を全国で共通化した後に地方分権を進めなければ、阻害要因になりうる。</p> <p>—REDD 支援の巨大な枠組みの中で、誰が旗振り役を務めたのか？ (中田) REDD の中では Taskforce 及びその事務局である。Outcome 3 については MAFF の Wildlife and Biodiversity Department が中心だった。これと、MoE の Natural Protection Department、MAFF の Fisheries Conservation Department の 3 つの部から部長が参加した。この中で MoE はやや弱い。MoE はプロジェクト計画の第 2 期から加わっている。</p> <p>—MoE は仲間外れということか？ (中田) それはない。それよりも世代の問題だと思う。前大臣は古い世代だったが、新しい世代である現大臣に交代してから積極的になった。</p> <p>—首相はずっと続投しているが？ (中田) 2013 年 8 月の選挙で状況が変わった。</p> <p>—Taskforce の立ち上げが遅れた原因は？ (中田) 開始当時、MoE がかき回していた。2013 年 6 月に東京で低炭素の会議があって、MoE 大臣が更迭された。MoE の中に派閥があって、気候変動対策を重視する者と自然保護を重視する者に分かれている。</p> <p>—カンボジアの森林保護に入っている NGO は順当に活動しているようだが？ (中田) 大雑把に言うと、NGO にも PACT や WWF のような社会系と WCS や CI のような環境系があって、前者はかなりいい加減、後者はまともでまじめに取り組んでいる。WCS や CI にはカンボジア法人がある。CI の現担当は浦口氏、その前は西川氏、その前は山口氏だった。WCS の現担当はニュージーランド出身の Ross 氏、その前の Tom Klements 氏は問題をよく知っている人だった。このようなまともさの違いは日本企業にもある。</p> <p>—研修を通じた技術移転はどうだったか？ (中田) 技術移転を行ったのは Outcome 4 だけである。</p> <p>—小野専門家から、中国、韓国、USAID が別々に研修を実施したという話を聞いたが？ (中田) これらは違う方法論を持ち込もうとした。方法論はカンボジアの事情に合わせて統一すべきであった。例えば、森林炭素量はサンプリング調査によって推定される樹木の体積をもとに算出されるどころ、サンプリング方法が統一できていない。樹木の体積の算出に必要な衛星データとして、カンボジアは Landsat のデータを使用し、森林炭素量をそこから計算している。こ</p>
--



これは京都議定書7条4項(注)に書かれている。このような方法論を一本化する努力は続いているが、各国で異なる。技術委員会が評価している途上である。

(注) 京都議定書7条4項：この議定書の締約国の会合としての役割を果たす締約国会議は、締約国会議が採択した附属書Iに掲げる締約国による自国の情報の作成のための指針を考慮して、第一回会合において、この条の規定によって必要とされる情報の作成のための指針を採択し、その後定期的に検討する。また、この議定書の締約国の会合としての役割を果たす締約国会議は、一回目の約束期間に先立ち、割当量の計算方法を決定する。

—GHG削減量計算のルールとして、削減量の推定は保守的に行うことになっている。

(中田) これは Outcome 3 の指標にある。VCS に従って Seima における削減量を計算した際、verifier から保守的に計算せよと指示を受けた。この計算はクレジットをもらうために行っているのではなく、IPCC の議論に準拠して行っている。RL の計算も同様に保守的である。

—カンボジア側のオーナーシップが確立しているように見える。オーナーシップを確立するための工夫は？

(中田) REDD には readiness、implementation、verification という段階があって、現在は readiness が完了したところである。この readiness に着手する際に Omalis と WCS が尽力して UN-REDD ロードマップを作成した。誰が何をなすべきかについて、開始時点ではっきりさせておいた。

—地方出先機関ではどうか？

(中田) REDD は新しいものではないが、測定方法が統一されていない。MRV のうち R (reporting) や V (verification) とは違う。Outcome 3 は現場での活動になるため、士気の高い人を張り付けるようにした。カンボジアでは生計を立てるのに月\$350 ほど必要であると言われていたところ、出先機関職員の給与は月\$100~\$200 弱しかない。この不足分を NGO に補填してもらっている。また、最初の3年は現場の見回りを頻繁に行った。すると、ベトナム国境では飲み水がないという問題を発見し、中央に進言して改善してもらった。

—プロジェクトと NGO とが意識付けについて対立することはあったか？

(中田) あまりなかった。NGO は給与補填を行っていて、その部分で JICA と競合することはなかった。1992 年のリオ宣言以来、途上国の地球環境問題に対する取り組みは GEF (実態は WB が独占) が関わることになった。これに対して、国連は炭素クレジットの資金を管理したいと考えている。

—CAM-REDD の単純延長はないと思われる。今年5月にプロジェクトが終了し、日本人専門家がいったん引き揚げた後はどうなるか？

(中田) 前述の REDD の Phase 1 (readiness) と Phase 2 (implementation) についてはある程度片が付いたと思っている。引き上げ直後は UNDP が仕切ることになる。ロードマップの実施は National Strategy にかかっている。この部分は FCPF、すなわち UNDP が担当する。ここで3つの懸念材料がある。①前述の社会系の間は Outcomes 3, 4 の政策分野が得意、技術分野が苦手なので、技術系の間を配置すべきである。セーフガードは欧米のやり方であって、カンボジアで成功するかどうかわからない。②National Strategy が軌道に乗るのは implementation に踏み込んでからである。③日本の国益という面からは、日本人が完全にいなくなってしまうと、CAM-REDD の後続の関与が雑になってしまうのではないか。京都議定書の約束を守るため、日本は主に東欧から排出権を 1,500~3,500 億円で買い取った。トン当たり 1,800~2,600 円である。適正価格をトン当たり\$7 とみれば、払い過ぎである。今後、年 8,000 万トン

<p>程度の排出量削減が必要で、そのうち年 1,000 万トン程度を REDD で充足する。このように国益を考えるべきである。FIP を動かせるアドバイザーを投入したい。そのためには年 700 万円ほどほしい。</p>
---

面談メモ(6)

相手方	JICA 長期専門家
日 時	2016 年 2 月 15 日(月)10:49～11:16
場 所	FA-OTA
面会者	(先方) 松江真美、長期専門家 (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>—業務調整に関わっている人員は？ (松江) ここにいる Ms. Sopheap と、他に男性 2 名を備上している。</p> <p>—後継案件ができた場合、スタッフをどうする？ (松江) 現在備上中の 3 名にオプションだけ示すが、最終的には本人任せになる。すなわち、3 名ともいったん契約終了となる。報酬として月 \$700 以上支払ってきた。</p> <p>—バスケットファンドを作らなかった理由は？ (松江) 資金の透明性を確保するためである。カンボジア政府が汚職体質から抜け切れていない。職員が資金を持ち逃げした事件があった。</p> <p>—セーフガードについて (松江) (2010 年 COP16 の) カンクン合意では、セーフガード 7 項目が示されていたが内容が曖昧であった。それが (2013 年 COP19 において打ち出された) ワルシャワフレームワークによって環境、社会に関する項目がやや具体化した。データを UNFCCC に報告することになっている。セーフガードの範囲は広く、FA だけではない inter-ministrial な範囲をカバーしている。現在から 2026 年までのスケジュールは、合意→各専門内容検討→SIS のための弁護士による監修となる。セーフガードの中身は、組織やモニタリング方法論も含まれる。この 10 年で何をやるかを考えなければならない。そのための National Strategy には実施と組織作りがあって、MRV チームとの連携が必要である。プロジェクト残り期間の 3 カ月で全部は無理なので、やるべきことを整理し、最終化まで FCPF に手伝ってもらう必要がある。National Strategy が策定されなければ進まない。</p> <p>—プロジェクトを実施するに当たって、人手や交通整理は十分だったか？ (松江) 一応、アポイントはある。プロジェクト活動に各省が出てくるが、理解度に差がある。Technical Team リーダーの Delux、UNDP のサイトウ氏 (JPO)、Sopheap が、言語や文化のギャップを埋めてくれる。</p> <p>—プロジェクト終了後に生じる JICA による支援の空白期間をどうするか？ (松江) そのような空白期間が生じるのは仕方ない。REDD+全体を FCPF で回してもらい、USAID にもみてもらうことになる。FIP (ADB の資金管理) を申請中である。</p> <p>—その間、誰が総指揮を執るのか？ (松江) 一義的には FA だが、実際には FCPF になる。consolidated work plan を作成し、それに従うことになる。</p>

## 面談メモ(7)

相手方	MRV/RL
日時	2016年2月15日(月)11:20~12:04
場所	FA
面会者	(先方) Mr. Chivin Leng, MRV/RL (CL) (先方) Ms. Sophira Sar, MRV/RL (SS) (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>—MRV/RL に対する JICA の関与は？ (CL) 2010年6月に策定されたロードマップの一部は JICA によるものである。カンボジアは現在、REDD+のフェーズ1 (readiness) からフェーズ2 (implementation) へ進んだ段階である。この進捗のためのキャパシティ・ビルディングを CAM-REDD が担った。最初が重要だった。個別研修において①研修と実務とのギャップを把握し、②研修評価のためのテクニカルペーパーを作成した。研修マニュアルはなかった。NFI の計算ミッションが National Strategy に含まれている。これには FA、CAM-REDD、FAO が関係した。JICA は評価を支援した。この三者は 2012 年から協働している。最初は活動に重複が生じないかと心配したが、重複は生じなかった。</p> <p>—そのような関係を誰が調整したのか？ (CL) マネジメントレベルでは FA のリーダーと中田専門家が調整していた。前者には小野専門家が付き、毎月 2~3 回会議を開催して調整していた。中田専門家は National Strategy に盛り込むアイデアを提供してくれた。</p> <p>—CAM-REDD で得たキャパシティは十分か？ (CL) いつまでも支援を受け続けることができないのは理解しているが、REDD にはなお支援が必要である。フェーズ1 からフェーズ2 へ進む段階で National Strategy が作成されたが、action plan も Sub-national Strategy も未完成であり、そこに支援が必要である。1 人では成長できないため専門家による助力、政府に対する支援が必要である。</p> <p>—CAM-REDD は 2016 年 5 月に終了する。その次に JICA に何をしてほしいか？ (CL) 3 つある。①基本的なキャパシティは獲得できたので、特定の事項、例えば土地利用の変化を評価する技術に関するキャパシティの強化、②2016 年以降の評価に対する技術支援、③FREL や NFMS 等のフェーズ2 の技術文書作成に対する支援である。FREL の action plan は単純ではない。</p> <p>—これまでの CAM-REDD の実施に対する貢献・阻害要因は？ (CL) 実施機関の職員がタイムスケジュールを守れないことは阻害要因と言えるかもしれない。チーム間のギャップもあったが、大きな要因ではない。</p> <p>—それは、多くの職員が副業を持っている故か？ (CL) 副業以外にも、政府のスタッフが少なすぎる。自分の場合、MRV 以外にも業務を抱えている。多くの業務をこなさなければならない。それ故に長期支援が必要になる。</p> <p>—では、貢献要因はあったか？ (CL) ①我々のキャパシティが大きく強化されたこと、②協働が順調だったことである。 (SS) テクニカルアドバイザーが毎日協働し、内部で調整してくれた。 (CL) ③モニタリングシステム (技術文書を含む) ができたこと、④小野専門</p>

	<p>家がRELを確立してフェーズ進捗のベンチマークができたことも貢献要因である。</p> <p>—今後、GHG 排出量の算定精度を上げていく方策は？</p> <p>(CL) FREL の文書を作成するとともに、活動データを収集して emission factor を求める。FREL には2つのシナリオがある。1つは gain-loss approach で、NFI が未完成である 2017 年から 2020 年まではこれを適用する。2020 年以後は別のアプローチとして2つの時刻における状態を比較する方法を用いる。</p>
--	---

## 面談メモ(8)

相手方	Director of Wildlife and Biodiversity Department, FA
日時	2016年2月15日(月)12:18~13:12
場所	FA 近くのレストラン
面会者	(先方) Dr. Omalis Keo, Director of Wildlife and Biodiversity Department, FA (OK) (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>—4つの Outcome はほぼ達成され、法案を残すのみのようだが？ (OK) 法はまだ成立していない。政治プロセスであるため成立がいつになるかは不明である。全政党が賛成する見込みではあるが、2013、2014年の選挙を経て MAFF 大臣が交代して、審議が遅れている。</p> <p>—実施機関として3つの機関がある。それらの関係は良好か？ (OK) 現在は良好である。Taskforce を通じた連携がうまくいっている。</p> <p>—プロジェクト開始答辞は同だったか？ (OK) ロードマップに役割分担が明記されていた。</p> <p>—MoE だけ他との関係が希薄ということはないか？ (OK) そのようなことはない。MoE は Technical Team に積極的に参加している。</p> <p>—では、コーディネーションは良好と考えていいか？ (OK) それでよい。NGO とのコーディネーションも良好である。</p> <p>—PDM を頻繁に改訂したことについて？ (OK) フレームワークは決まっていて、そこから逸脱することはなかった。REDD は新しい枠組みで、どのように推移するかを見て柔軟に対応した。</p> <p>—REDD の全貌を把握しているか？ (OK) 底辺では全体の絵が描けていない。上の方では書けた。REDD を推進するには、リーダーシップとコーディネーションが重要だと思う。Chiven は MRV で重要な役割を果たしている。</p> <p>—CAM-REDD を通じて何のキャパシティが強化されて、何のキャパシティがまだ不足しているか？ (OK) MRV や FREL についてはかなりのキャパシティを獲得した。セーフガードはまだである。コミュニティにおける活動を社会環境セクターの面からコンサルテーションしている。その主な内容は意識啓発である。</p> <p>—13カ所のパイロットプロジェクトはすべて成功したか？ (OK) すべて成功した。</p> <p>—その成功経験をどう伝えていくか？ (OK) コミュニティレベルとレンジャーレベルでよく情報共有する。</p> <p>—コミュニンの住民がプロジェクトに反対したことはあるか？ (OK) まず社会的アセスメントを実施した。人が住んでいないためコミュニンが存在しない森林もある。木を切ってもいい場所、切ってはいけない場所を考えた。森林を持続可能な形で利用している住民も多かったが、そうでない住民もいた。代替収入源として、エコツーリズム、蜂蜜、竹材、ホームステイを紹介した。木を切れば得られるものがなくなってしまうことを説いた。</p> <p>—エコツーリズムはどのように成立させたのか？ (OK) NGO が支援し、コミュニン自身が着手した。</p> <p>—エコツーリズムを支援してくれた NGO はどれか？ (OK) WCS、WA、WWF であった。彼らの方法はうまくいくと信じている。</p>

<p>—エコツーリズムに参加する観光客に何を持ち帰ってほしいか？  (OK) エコツーリズムはまだ小規模であるが、観光客は増えると思う。ただ、あまり多くの観光客に来てほしくない。住民にはツアーガイドを務めて収入を得てもらいたい。</p> <p>—観光客が増えすぎると困るのは、多くのゴミが発生するからか？  (OK) もちろんそうである。森にゴミを捨ててはいけない。</p> <p>—コミュニケーションの外部から来る人について、悪い話も聞く。  (OK) 道路建設が森林減少の圧力になっている。野生動物を密猟する人もいる。密猟者は必ずしも猟銃を使うわけではなく、木製の簡単な武器（ボウガン類）で矢を射てイノシシを捕獲している。</p> <p>—イノシシが農作物を食い荒らすことはあるか？  (OK) カンボジアではそのような被害は発生していない。</p> <p>—プロジェクトの貢献、阻害要因はあったか？  (OK) JICA の財務上の手続きが遅かったのは阻害要因であった。一般競争入札なので時間がかかる。一方、Sopheap に助けられたのは貢献要因であった。</p> <p>—CAM-REDD が終了すれば Sopheap はいったん契約終了となる。引き留め方策は？  (OK) 本人次第ではあるが、当面は FCPF の活動、その後は REDD 関係の他のプロジェクトに従事してほしい。</p> <p>—対カンボジア REDD 支援の大枠では、バスケットファンドを設立しなかった。財務の柔軟性はどうだったか？  (OK) FCPF のファンドは比較的自由度が高い。バスケットファンドではないがそれに近いものである。長期的には、ファンドがばらばらでは goal に到達できない。</p> <p>—全体を仕切る人物は誰か？  (OK) 政府高官、特に MAFF 大臣か MoE 大臣のいずれかである。MoE 大臣は REDD に関して中立的な立場にいるので適任である。</p> <p>—将来の炭素クレジットの収入を誰が管理するのか？  (OK) FA も MoE も公正に管理する。multi agency cooperation を樹立する。</p> <p>—CAM-REDD 終了後、何が必要になるか？  (OK) Strategy implementation のプロポーザルを作成している。これは NFI に似ている。</p> <p>—プロジェクト目標達成から上位目標達成に至る見通しは？  (OK) FA のキャパシティをさらに強化する必要がある。中田専門家から政策に関する助言を受けたい。</p> <p>—中田専門家が不在となればどうするか？  (OK) 例えば小野専門家のように、中田専門家と同様のキャパシティを持つ人が必要である。プロジェクト目標達成という点では成功した。また、違法行為に対して柔軟に対応することができた。</p>
--



## 面談メモ(9)

相手方	NRS & Safeguards
日時	2016年2月15日(月)15:15~15:53
場所	FA
面会者	(先方) Mr. Delux Chhum, NRS & Safeguards (DC) (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>(DC) まずは質問票未回答をお詫びしたい。早急に回答する。 —こちらこそ、急かせてしまい申し訳ない。</p> <p>(DC) 自分はFAで気候変動の責任者になっている。FCPFの活動に参加している。その内容をFACCCで発表し関係者に情報共有している。 —4つのTechnical Teamのコーディネーションは良好か？</p> <p>(DC) 良好である。ここはFCPFの支援によるところが大きい。CAM-REDDではコーディネーションへの関与は限定的だった。 —今回のような複数の主体が関係するプログラムは初めてか？</p> <p>(DC) 初めてではないが、JICA、USAIDその他のドナーが関係すれば全体像は複雑になる。誰が何を担当するのかはロードマップに書かれていて、ロードマップがガイドラインの役割を果たしていた。そのおかげでドナーもNGOも活動の重複を避けることができた。 —ロードマップ以外に、活動の重複を避ける工夫はあったか？</p> <p>(DC) テクニカルアドバイザーが調整してくれた。新しいプロジェクトが加わろうとする際に、qualifyしてくれたと説明された。 —ドナーに対してそのような話をするスキルはどこから得たか？</p> <p>(DC) ドナーが入ってきたら、適切な人物を選んで差し向けた。 —カンボジア側のキャパシティを正しく理解してもらえたか？</p> <p>(DC) UNDPやWBはまずキャパシティアセスメントを実施していた。 —先方はカンボジア側のどのキャパシティを評価してきたか？</p> <p>(DC) 意識啓発のキャパシティを評価してきた。 —CAM-REDDを通じて得たキャパシティは十分か？</p> <p>(DC) 技術的なキャパシティ、例えばNFIについてめどが立った。政策支援は当面必要ない。 —複数のドナーが別々に財政支援することで、財務上の困難はなかったか？</p> <p>(DC) それぞれが個別に財務を管理していた。FAは相手の決まりに従うのみである。このような体制と財務の透明性との関係はよくわからない。 —支援された資金の使途は制約されているのか？</p> <p>(DC) プロジェクトに対する資金であれば、プロジェクト活動にのみ使える。 —給与補填はプロジェクト活動に使ったと言えないのでは？</p> <p>(DC) 支援された資金は、通常の給与の一部になったのではなく、プロジェクト活動に必要な旅費や日当に充当されていた。 —FAとの関係が難しいドナーやNGOはあったか？</p> <p>(DC) FAとの関係ではそのようなドナーやNGOはなかったが、ドナー同士の関係は難しいものもあった。セーフガードについて、UNDPはカンボジア政府と協力したがCAM-REDDとは関係を構築しなかった。CAM-REDDはセーフガードの技術面のみを見ていた。4つのOutcomeのうち、UNDPはNFMSに関与しなかった。NGOについては難しい関係はなかった。</p>

—REDD 支援の大枠を主導したのは誰か？

(DC) 実際は UN-REDD が主導していた。ドナー間の調整はうまくいったというものの、多少の重複は生じた。UN-REDD は現在ロールアップ中で、内容は報告書を見ればわかる。今後、UNEP と FAO が FREL に関わってくるが、そのための署名はまだである。その他、アジア航測には大変世話になった。

## 面談メモ(10)

相手方	TF / FACCC Chairman
日時	2016年2月15日(月)15:57~16:44
場所	FA
面会者	(先方) H. E. Chea Sam Ang, TF / FACCC Chairman (CSA) (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>—プロジェクト開始時のコーディネーションについて (CSA) UNDP 及び FAO が中心になってパネルを作っていた。大枠の中心になったのは UN-REDD、現在は FCPF である。関係主体を集めた National REDD+ Taskforce の立ち上げを FA が主導した。ローカル NGO も参加している。実施体制はロードマップのワークプランに明記されており、支援の重複を避けることができた。これには FAO の尽力があった。関係主体が同じゴールへ向かって異なる活動を実施することができた。</p> <p>—支援の重複を避ける努力は大きかったか？ (CSA) 少ない人手の多くをそれに割いた。今後の教訓になると思う。</p> <p>—少ない人手の多くをコーディネーションに割いたことは、通常業務に影響したか？ (CSA) 影響した。そのため最終決定が遅くなってしまった。REDD は新しい取り組みなので、国家レベルと全世界レベルの REDD を関連付けるのに苦労した。</p> <p>—CAM-REDD を柔軟に計画したのは？ (CSA) 計画はいつでも改訂できるようにしていた。FREL や NFMS の活動は実施中に追加した。</p> <p>—そのような柔軟な対応は成功したか？ (CSA) 成功した。計画の改訂のみならずモニタリングもよくできた。国家レベルよりもむしろ準国家レベルの方に外部の支援を多く必要とした。</p> <p>—Taskforce や Technical Team の立ち上げに時間を要した。これらが設立される前はどうしていたのか？ (CSA) Taskforce の設立に関して理解が明確でない人がいた。次第に理解が進んだので設立できた。</p> <p>—これらに長時間を要することは予測していたか？ (CSA) そのような予測はしていなかったが、結果的に長時間を要した。</p> <p>—部下はすべて協力的か？ (CSA) 協力的である。</p> <p>—副業を持っている職員もいるそうだが？ (CSA) それは REDD に限らずいつも悩まされる。</p> <p>—NGO が給与を補填しているが、sustainable でないのでは？ (CSA) 確かにそうだが、他に選択肢がない。特に出張時の旅費、宿泊費、日当の負担が大きいので、そこに 1 人 1 日 \$15.8 を補助してもらっている。</p> <p>—将来、炭素クレジットから得られる収入は何の目的に使用するのか？ (CSA) 関連政策や森林経営計画に使用する。</p> <p>—クレジットの価格変動に対応できそうか？ (CSA) クレジットは 5 年先をみている。価格変動への対応は容易ではないと思う。日本をはじめとする国から安定的な買い手を捜すべきである。</p>

<p>—価格安定化の期待は？  (CSA) 全世界的な政策の方向性に左右されると思う。</p> <p>—保護林周辺の住民に代替生計手段を照会したか？  (CSA) 森林からの生産物に依存して生活している住民の一部が、森林を切り開いていることは承知している。このような住民にも完全に参加してもらう。農業に対する支援、無職者には採集・収集の仕事を紹介する等も行う。</p> <p>—エコツーリズムはどうか？  (CSA) そのような住民にとって適切な仕事だと思う。</p> <p>—エコツーリズムを支援する計画は？  (CSA) 広く意見を募集しているところである。エコツーリズムの構造を作る。</p> <p>—CAM-REDD の Outcome の中で唯一未達成になっている法案はどの程度進捗したか？  (CSA) 法案はほぼ完成し、法制度の専門家にみてもらっている段階である。今年中には議会に上程したい（注：その前段として閣僚評議会の決定を経なければならない）。</p> <p>—上位目標達成への期待は？  (CSA) そこは次のステージになる。そのステージの内容を最終化していく。</p> <p>—そのために、どのような努力や支援が必要か？  (CSA) Global Fund からの資金援助、JICA からは技術支援、NGO には実施面で支援を受けたい。</p> <p>—CAM-REDD の実施に当たって、促進要因や阻害要因はあったか？  (CSA) 促進要因がいくつかある。①最初に構築したメカニズムが適切だった。②work plan が適切だった。③専門家チームによってカンボジア側のキャパシティが向上した。④一般社会や NGO といった多岐にわたるステークホルダーがすべて同じゴールを目指していた。⑤パートナー同士が協力した。⑥実施に対する強力なコミットメントがあった。</p> <p>—限られた時間で結果を出さなければならないという圧力は？  (CSA) それも実施の推進力になった。</p> <p>—CAM-REDD は 5 月に終了し、日本人専門家は引き揚げる。日本人専門家が不在の間、JICA に何を期待するか？  (CSA) コンサルタントに関係を継続してほしい。FREL のプロセスがまだ見えない。自前で排出量を計算するキャパシティが十分でなく、ここがウィークポイントとして残っている。契約を毎年更新する形態で何とか関係を続けてほしい。</p>
--

## 面談メモ(11)

相手方	Secretariat of Taskforce & FACCC
日時	2016年2月16日(火)10:05~10:46
場所	FA
面会者	(先方) Dr. Khorn Saret, Secretariat of TF & FACCC (KS) (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>—CAM-REDD の計画のうち、Outcome 3 の法案に関する部分が未達成だが？ (KS) まず自分はその部分に直接関係していない。法案については FA 内で議論している最中である。Omalis が作成者の 1 人になっている。</p> <p>—4 つの Outcome について、達成の見通しはどうか？ (KS) おそらくすべて達成される。プロジェクトとしては成功であった。REDD の実施については Outcome 4 が重要である。NFP、NRS の策定はほぼ終了し、CG において審議されている。FREL の算定方法の策定も 90~95% 終了し、承認待ちとなっている。MAFF では、2014 年の森林被覆率をベースラインとすることとした。モニタリングや NFMS もほぼ終了した。パリの COP21 が契機になった。SIS はまだ策定途上で、70~80% の進捗である。現在はその最終化に向けて努力している。</p> <p>—プロジェクト目標はどの程度達成されたか？ (KS) NRS は第 2 フェーズに進んだ。2016 年にアクションプランの中で NRS を最終化し、2017 年に実施する。CAM-REDD、UN-REDD、FCPF がこれらに関わっている。</p> <p>—プロジェクト開始後、Taskforce が設立されるまでの間はどのようにしていたのか？ (KS) その期間は 2013 年まで続いた。FA がメインパネルとなって、コーディネーションについての会議を開催していた。REDD+ロードマップが非常に重要な役割を果たした。ロードマップがガイドラインとなった。</p> <p>—誰がその会議を仕切っていたのか？ (KS) FA、他省を含む関係機関の全員で運営していた。社会との関わり、先住民等々の専門的な事項については、有識者からなる CG の助言を受けた。</p> <p>—このような巨大構造の運営はカンボジアで初めてか？ (KS) REDD という明確な理由があって巨大構造を立ち上げている。もちろん、いろいろな関係主体からカンボジア政府への支援があって運営できている。</p> <p>—関係主体間で意見の相違が生じることはあったか？ (KS) 機関同士の意見の相違は少なかったが、個人的意見の食い違いは多かった。</p> <p>—意思決定はどのようにしていたのか？ (KS) Technical Team で議論したものを Taskforce へ上申して決定していた。</p> <p>—人手は足りていたか？ (KS) 最初は人手不足が顕著だったが次第に解決してきた。REDD の内容は複雑であるため、カンボジア側のキャパシティ・ビルディングが不可欠だった。</p> <p>—NGO の受入はどうであったか？ (KS) CG が NGO から出されたアイデアを集めて整理していた。社会、NGO、実施機関の間で調整がついていた。</p> <p>—保護される森林に関わる住民に対して、他の生計手段を紹介したか？ (KS) 伝統的な家庭単位における利用のために木を切ることは許容されてい</p>

<p>る。それを超える規模で木を切ることは違法で、違反者は逮捕される。</p> <p>—合法、違法の区別は？</p> <p>(KS) 明確に区別できる。</p> <p>—住民参加のパトロールを実施していると聞いたが？</p> <p>(KS) 立入禁止区域を指定し、そこに立ち入る者は違法とみなしている。</p> <p>—エコツーリズムを支援しているか？どのような面で？</p> <p>(KS) 支援している。エコツーリズム支援はカンボジア政府の政策でもある。基本的な方法論を伝授している。財務面では開発パートナーの支援を受け、予算に繰り入れている。</p> <p>—エコツーリズムに対する技術面の支援は？</p> <p>(KS) その部分はFAが自力で行っている。ローカルコミュニテよりもFAの方がキャパシティを持っている。</p> <p>—JICAがREDDの大枠に参入してきたとき、すんなりと受け入れられたか？</p> <p>(KS) REDD以外のテーマについて以前から受入実績があったので、すんなり受け入れられた。</p> <p>—CAM-REDDが5月に終了してJICAがいなくなってから、コーディネーションを誰が担当するのか？</p> <p>(KS) プロジェクトを実施している機関になる。</p> <p>—CAM-REDDを通じて獲得したキャパシティは十分か？</p> <p>(KS) REDDの実施段階は複雑である。FREL算出のためのデータ収集、処理、報告という過程で必要となるキャパシティが十分でないかもしれない。</p> <p>—キャパシティ向上を続ける方策は？</p> <p>(KS) 個別専門家を派遣してもらえればありがたい。</p> <p>—今回のREDD支援には多数の関係機関が参加しながらも、バスケットファンドを設立しなかった。</p> <p>(KS) バスケットファンドなしで運営するのはnew modelであった。</p> <p>—その方針はカンボジア政府の意向か？</p> <p>(KS) そうではない。</p>
---



## 面談メモ(12)

相手方	森林・野生生物研究所 (IRD)
日 時	2016年2月16日(火)14:34~15:24
場 所	IRD
面会者	(先方) Dr. Sokh Heng, IRD (SH) (先方) Dr. So Thea, IRD (ST) (先方) Mr. Bun Tun, IRD (BT) (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>—Outcome 2 の指標 2.4 及び指標 2.5 の達成状況は？ (SH) これらは当 IRD の担当であった。 (ST) まず指標 2.4 の準国レベル NFP については、12 州 (Pailin, Kampong Chhnang, Kampong Thom, Stung Treng, Ratanakiri, Mondulakiri, Kratie, Kep, Takeo, Kampot, Kandal, Kampong Speou) で承認されるとともに、Phnom Penh 特別市で作成が終了し承認待ちとなっている。13 州・特別市のうち最初の 4 州は承認順である。その後の承認順は覚えていない。</p> <p>—指標 2.5 については？ (SH) 指標 2.4 が先で、指標 2.5 はその後に取り組んだ。現在、国家・州レベルの NFP が 3~4 州で実施されていると聞いている。</p> <p>—NFP の作成に必要なキャパシティはどこから獲得したのか？ (SH) FA が加わったワーキンググループで、JICA が備上したローカルコンサルタント (注：小野専門家か) から教えてもらった。REDD は新しい枠組みなので、自分の担当だった準国レベル NFP は、このキャパシティ獲得がなければ作成できなかった。1 州において承認されれば他州においてもその経験を活かして比較的容易に承認されると考えた。専門家からのブリーフィングや会議を通じて NFP を作り上げていった。最初は難しかったが、2、3 番目の州ではやや容易になった。</p> <p>—なぜ Pailin 州から始めたのか？ (SH) Pailin 州は小さい州であるため、最初にもってきた。これは中田専門家の助言であった。その経験を compile して次の 3 州に活かした。</p> <p>—小さい州から始めたのは良かったか？ (SH) NFP について、スケールが小さければマネジメントが楽になる。</p> <p>—NFP について、他ドナーの介入はあったか？ (ST) 技術的な介入はなかった。 (SH) 主として JICA が準国レベル NFP、FAO が国レベル NFP に関わった。CAM-REDD 開始時点ではデンマーク国際開発庁 (DANIDA) が国レベル、JICA が準国レベルに関わっていた。いずれも重複はなかった。</p> <p>—国レベルと準国レベルの NFP に要求される技術的事項は異なるのか？ (SH) 異なる。国レベルのものは DANIDA の専門家から技術支援を受けた。準国レベルのものは JICA 以外に支援を受けた相手はいない。</p> <p>—NFP に NGO は入ったか？ (SH) EU が議長を務める Technical Working Group on Forest Reform が森林セクターのコーディネーションの主体になっている。ドナーも NGO も財政支援を行っている。各サブプロジェクトに技術支援も行っている。いずれもプロジェクトベースのアプローチである。</p> <p>—今後、準国レベル NFP を改訂していく必要が生じればどうなる？</p>



	<p>(ST) 当 IRD や州の部署を巻き込んでコンサルテーションをする必要がある。FA は forest restoration のプログラムを作成している。多くの場合、主体が地方森林局となっている。これは中央政府の出先機関で、地方固有の問題を発見し解決していく。国レベルの NFP は 10 年、準国レベルの NFP は 5 年ごとに改訂していくことになろう。</p> <p>—地方分権の流れの中で、準国レベルの NFP は中央から地方へ移管されるのか？</p> <p>(ST) 中央からコミューンへ移管されると思う。現状では中央集権だが、地方分権は既に動き始めている。州単位の森林事務所は既に州知事に移管された。</p> <p>—次の世代へ技術を伝承していく見通しは？</p> <p>(SH) IRD の代表者として、研究活動、キャパシティ開発、知識の移転のための研修コースを設置し、当 IRD の研究者が研究を継続するとともに、研修コースを通じて地方政府やコミューンへ技術を移転していく。既に自前のウェブサイトにおいて情報発信している。</p> <p>(ST) 我々3名は Royal University of Agriculture の invited professor となって一般学生向けに講義している。来年からは Royal University of Phnom Penh においても REDD+の講義を行う。</p> <p>—CAM-REDD が5月に終了し、日本人専門家が不在となれば、JICA との関係はどう維持するのか？</p> <p>(SH) Sopheap と松江専門家に窓口になってほしい。Sopheap が引き続き関わってくれるかどうかは不透明である。</p>
--	--

## 面談メモ(13)

相手方	UN-REDD / FCPF
日時	2016年2月17日(水)10:02~10:55
場所	FA-FCPF
面会者	(先方) Mr. Anupam Bhatia, UN-REDD / FCPF Technical Specialist (AB) (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>(AB) 自分は REDD+ Taskforce Secretariat (RTS) へのアドバイザーである。中田専門家は DG/TA へのアドバイザーである。</p> <p>—UN-REDD は CAM-REDD に先行していた。JICA が参入した際にどう調整したのか？</p> <p>(AB) 確かに UN-REDD は CAM-REDD より先に開始されたが、先行したのはわずかであり、特に調整というものはなかった。timeflow が公開されているので参照してほしい（注：FACCC の資料にある）。REDD 参加国は最初にロードマップを作成することが義務付けられており、カンボジアでも 2010 年にロードマップを作成した。プロジェクト初期の 2011 年 8 月 11 日～2012 年 6 月 7 日まではほとんど何もしなかった。2011 年 5 月 5 日にプロジェクトドキュメントを作成して UNDP 本部に提出し、本部からの承認を経て活動資金を交付された。2011 年 11 月 15 日に inception workshop があって、実質的な開始は 2012 年 8 月になった。このロードマップは国家の文書であって、カンボジア政府、ドナーともロードマップに書かれた枠組みのもとで行動することとされた。いわば 1 つの傘の下にすべての関係主体がおさまる形である。多くの小さなプロジェクトを実施するのは良くないと考え、多くの主体に対して実施方法を共通化するよう要請した。このような関係は RTS が構築し、コーディネートを行った。REDD+ Taskforce は政策アドバイスを主たる活動内容とした。annual work plan (AWP)にも同様の目標を掲げた。AWP は四半期ごとに改訂した。</p> <p>—ロードマップは改訂しなかったのか？</p> <p>(AB) 改訂していない。これは憲法のようなもので、重大な理由がなければ改訂できない。技術支援が必要であるものの、カンボジア政府はロードマップを履行する能力を有するとみている。自分はロードマップを履行するために FA にいる。プノンペン市内の FA から数 km 離れた場所に UNDP のビルがあるが、そちらには常駐していない。UNDP からの交付金の目的は AWP に関するもののみで、年 2 回の board で使途を承認している。</p> <p>—カンボジア側の意思決定が遅いようだが、その原因は？</p> <p>(AB) それは Sovanna に聞いてほしい。政府は政府のルールに従っているのですがどうしても意思決定が遅くなるが、時とともに改善されてきている。REDD は複雑なシステムであり技術用語が多く出てくるため、どのような人でも内容を理解するのに 2～3 年はかかる。UN ですら理解の途上にある。カンボジア側では Chea Sam Ang がすべてを理解しており、Saret や Chivin も理解が進んでいる。まとめると、意思決定が遅くなるのには 2 つの理由がある。1 つは REDD の複雑さである。REDD に対する理解が進むにつれて意思決定が速くなってきた。もう 1 つは文化の違いである。カンボジア政府、UNDP、それぞれに組織の文化があり、組織間の対話では文化の相違が支障となることがある。互いに相手の言うことが正しいと信じるに至るのに、長時間の粘り</p>

	<p>強い対話を必要とした。その結果、operation のレベルでは信頼関係を構築することができ、文化の相違が問題になることはなくなったが、最上層部同士の対話ではそうはいかない。</p> <p>—UNDP からの技術移転の内容は？</p> <p>(AB) GHG インベントリーの作成に関する技術を移転した。セーフガード、費用便益分析、payment for ecosystem services (PES)等々については直接担当していない。</p> <p>—UN-REDD は 2015 年 11 月に終了、CAM-REDD も 2016 年 5 月に終了する。その後はどうなる？</p> <p>(AB) 次は FCPF が中心になる。既に実施のための費用 800 万ドルを用意している。</p> <p>—カンボジアの REDD ではバスケットファンドを設立しなかった。バスケットファンドがないことの得失は？</p> <p>(AB) それはカンボジア側に聞いてほしい。UNDP には、他の REDD 参加国での経験がある。REDD+とは政策であって、政策の支援のために入ったドナーは UNDP と JICA のみである。他のドナーは政策支援以外の目的で計 2,200 万ドルを投じている。今後は Thematic Working Group として Forestry Reform に関する WG を開催していく。この WG は DG/FR と EU が共同議長を務める。REDD は従来からあるものではなく、準備→実施→results-based payment (RBP) という流れの各段階で支援が必要である。このような全体像について、小野専門家と毎日のようにメールでやり取りして議論していた。</p>
--	--

## 面談メモ(14)

相手方	FAO
日時	2016年2月17日(水)11:14~12:14
場所	FA-FCPF
面会者	(先方) Mr. Mathieu Van Rijn, FAO expert (MR) (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>—カンボジア REDD における FAO と UNDP との関係は？ (MR) UNDP も FAO もともに UN の下部組織である。カンボジアの国家プログラムを支援している。</p> <p>—支援について、カンボジア政府から直接要請されたのか？ (MR) そうである。FAO は MRV やセーフガードの支援を担当している。予算消化上、2014 年まで、UNDP がファンドを使っていたが、以後は UNDP の UN-REDD は FCPF と同じ資金を使っている。FAO の参加期間はあと 6 カ月しかないが、もっと時間がほしかった。自分は 2013 年 1 月に赴任した。キャパシティがないので、3 年という期間で結果を出すことは難しかった。FAO は技術支援を実施するためコンサルタントを調達し、備上した。</p> <p>—Outcome 4 の達成状況は？ (MR) MRV に関する活動が開始され、Technical Team と密接に連絡を取っている。会議を頻繁に開催し、関係を構築した。2013 年から 2014 年まで NFI のプロジェクトを実施した。2015 年末まで NFMS の初版を作成していた。明日、MAFF と MoE を交えた会議で FREL について議論する。こうして REDD の戦略が作成されたので、次は個別の action plan の作成、その次はモニタリングというように進めていく。</p> <p>—関係構築に必要なものは、やはり頻繁なコミュニケーションか？ (MR) JICA の小野専門家のチームとは頻繁にコミュニケーションをとっていた。FA や MoE ともそうだった。FA は省の下にある局、MoE は省であって modality が異なるが、それを乗り越えて work plan をまとめるために奮闘した。JICA 専門家から技術面の支援を受けた。emission factor を求めるのに必要なデータを収集し、3 種類の森林（注：生産林、保護林、共有林のことと思われる）について emission factor を計算した。</p> <p>—関係主体の連携がうまくいった要因は？ (MR) ロードマップの存在である。小野、中田両専門家とも open mind であった。両者とよく議論して重複支援を避けた。部署が異なれば必要なデータも異なることに配慮した。後になって韓国がパイロットプロジェクトの支援に入ってきたが、カンボジア政府の担当者が事情をよく説明して支援の内容を限定してもらった。多くの関係主体が異なる提案をしてくるので大変だが、最後は結局人対人の関係で、役割分担を決めて皆が納得できる結果になった。その後、韓国、中国、米国（複数主体）が支援に入ってきて、いろいろなプロジェクトを実施した。これらの開始時点でコラボレーションがなく、カンボジア政府内での情報共有が十分でなくなった。特にマングローブ林に関するプロジェクトでその傾向が強かった。そのため、今後は joint research center のようなものを設立する必要があると思う。これには FCPF、UN-REDD、CAM-REDD の他、日本の森林総研 (FFPRI) にも参加してほしい。FFPRI は研究志向なので、方法論の検証を担当してほしい。</p>

	<p>—FAO がカンボジア REDD の支援に入った理由は？  (MR) FAO は食糧機関を名乗りながらも、実は森林に関する活動も手掛けている。森林のモニタリングや、NFI 作成支援を行っている。これらは FAO のスコープに含まれている。</p> <p>—カンボジアのような後発開発途上国で、FA、FiA、MoE という 3 つの政府機関が実施機関となり、多くの関係主体が支援に入っている巨大な枠組みのもとの活動が、なぜうまくいったのか？  (MR) いろいろと試行錯誤した。このような枠組みは野心的すぎるのではと思った。短期間に多くのことを実施した。なぜうまくいったのか、自分の言葉でうまく説明できないが、人間関係が根底にあったことは確かである。森林減少・劣化のデータを公表することは、どの国にとっても神経質にならざるを得ないが、この面でカンボジア政府が協力的であった。透明性を確保しようとしていた。時間はかかったがカンボジアの技術陣は UNFCCC にデータを提出するところまでこぎつけた。</p> <p>—透明性はプロジェクトの促進要因と言えるか？  (MR) 促進要因ではないが、プロジェクトの実施上必要なことではある。政府は協力的だったが、木材会社がデータを開示してくれないという問題があった。データベースを作成してほしいのだが、そのためには州ごとのデータを開示してもらわなければならない。これは外交事案になる。一方、透明性の確保は UNFCCC の要求事項で、UNFCCC のルールとして、「各国が自主的に決定する約束草案」(INDC) には透明性を反映させなければならない。2015 年の国際的な合意のもとで、GHG の発生・吸収量の算定に関する方法論は厳格なものになっている。MoE の新大臣がドナー会議に出席し、そのことを各ドナーに要請していた。</p> <p>—Outcome 4 の 3 つの指標の達成状況は？  (MR) REDD は戦略、NFMS、FREL、SIS を 4 つの柱としている。指標 4.1 は NFMS に関する記述を NRS に盛り込むことであり、達成されている。指標 4.2 も達成されている。指標 4.3 について、Tier 1 の部分は小さいが、Tier 2 すなわち国家固有のレベルで森林炭素量計測案を作成したので、指標 4.3 も達成されている。これには 3 つのアプローチがある。①200 ha の領域を取り上げてその中で全て計測、②サンプルベースの計算、③土地利用形態から推定、である。今回は 3 番目のアプローチを採用し、2006 年、2010 年、2014 年の土地利用形態から森林炭素量を推定した。</p> <p>—CAM-REDD は今年 5 月に終了する。その後は JICA との関係はどう維持するのか？  (MR) 6～7月からアジア航測と Skype で連絡を取り合う。JICA は今 CAM-REDD を conclude している途中だと理解している。CAM-REDD が終了してもただちに大きな問題が生じることはない。FAO と JICA 事務所との間で対話を継続している。Outcome 4 に関する方法論を確立することができたので、持続性は良好だと思う。今後は 2014 年の土地利用形態図をベースラインとして森林炭素量計測結果を UNFCCC に報告していく。これは UNFCCC が REDD 参加国に要請していることである。ここは UNDP や中田専門家の範疇で、アジア航測や FAO の範疇ではない。</p>
--	--

## 面談メモ(15)

相手方	FCPF
日 時	2016年2月17日(水)14:05~15:05
場 所	FA-FCPF
面会者	(先方) Mr. Sovanna Nhem, National Program Advisor of FCPF (SN) (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>(SN) 2015年12月まで、UN-REDD から FCPF への移行の authorizing の仕事をしていました。</p> <p>—UN-REDD と FCPF の内容は類似しているのか？</p> <p>(SN) FCPF の開始後に UN-REDD が終了したため、若干の並行期間があった。FCPF では、共有林に関する事項、政策、UNFCCC への報告に取り組んでいく。</p> <p>—REDD の方法論は世界的に統一されたものか？</p> <p>(SN) そうである。この方法論を適用すべきなのは FCPF に限らない。カンボジア側にこの方法論に関するキャパシティを提供し、Taskforce や Technical Team を通じて UNFCCC への報告を実施していく。Consultation Group や省庁間連携、ジェンダー配慮等々、課題は多い。それらの課題について、FCPF は政策支援を実施する。まず RTS において、2014年の森林被覆率をベースラインとして NRS を最終化する。これには MoE も巻き込む。既に最終化の方向性は明確になっている。FCPF は、Outcome 3 について、パイロットサイト 2カ所 (Seima, Oddar Meanchey) 及びデモンストレーションサイトにおける活動を支援する。Outcome 4 について、これまでの FAO や JICA による支援をもとに、管理と報告とを NRS が担当する統合計画を考えている。これには FAO の予算を使用する。</p> <p>—財源について</p> <p>(SN) UNDP の資金を、主として NRS を通じて支出していく。FCPF は 2014年の第4四半期に開始された。2014年は kick off だけで、実質的には 2015年から活動している。Outcomes 1, 3 のための活動を 2016年7月までの1年半にわたって実施し、予算 380万ドルのうち 39%を消化した。Outcome 4 のための活動は、カンボジア政府が実施を保証してくれたことで進捗し、進捗率は 50%になった。</p> <p>—カンボジアの REDD ではバスケットファンドを設立しなかった。バスケットファンドがないことの得失は？</p> <p>(SN) バスケットファンドを設立しないことは work plan にも書かれている。FCPF の活動資金は UNDP からのみ拠出されているので、当面の問題はない。ただ、REDD+のためのファンドが柔軟に利用できるものになるよう、将来はファンドの形態について議論が必要である。</p> <p>—ロードマップが関係主体にとってガイドラインになったようだが？</p> <p>(SN) RTS において開発パートナー同士の会議を年2回開催していた。緊急の必要がある場合は臨時の会議も開催した。これは四半期ごとに開催しなければならないが、結果的に年2~3回になった。ただ、事務レベルではもっと頻繁に会議を開催していた。FAO であれ JICA であれ、REDD+に関する開発パートナーにカンボジア側で対応するのは FA に統一しておいた。そうでなければ個々の支援が別々の構造になってしまうおそれがあった。要はプラットフォーム</p>



	<p>フォームを一本化したということで、これは将来に関わると思う。</p> <p>—これまで、カンボジアの REDD は順調に進捗していると思われる。カンボジア側が成功した理由は何か？</p> <p>(SN) 2つある。①政策文書が明確になっていた。②マネジメントがしっかりしていた。オーナーシップがカンボジア側にあった。カンボジア側にオーナーシップの意識が強かった。FA を中心として省庁間の信頼関係が確立していた。技術担当部署が政策決定に口出しせず、技術面における貢献に専念していた。もっとも、最初から順調だったわけではなく、このような体制ができるのには時間がかかった。</p> <p>—カンボジア REDD 支援に着手したとき、名目で5年、実質的には4年という短期間でどこまでできると思ったか？</p> <p>(SN) 実質的な活動期間は3年半しかなかった。全部やれるとは思っていなかった。それがここまで進んだのは、政策文書が明確に書かれていたからだと思う。この期間で、NRS にいう REDD+ の readiness から implementation へ進むところまでできた。implementation には5~6年ほどかかるのではないか。実施期間を2020年までとし、以後は次の result-based payment (RBD) へ進むこととしている。</p> <p>—readiness と implementation という異なる段階に対する支援のあり方は異なるのか？</p> <p>(SN) 最近、国家森林計画 (NFP) が評価を受けた。implementation の段階では、伝統的な森林保護のやり方を潰さないよう行動しなければならない。2016年の work plan では、まずカンボジア側の需要をみる。MRV チームの TOR を、readiness から implementation に対応したものに改訂する。フィールドにおける REDD+ の活動を支援する。</p> <p>—FA、FiA、MoE の関係はどうか？</p> <p>(SN) 技術面では情報共有が順調に行われている。ただ政策面における関係が将来どうなるかは予測できない。ロードマップに基づき、Taskforce や Technical Team の TOR を明確にする。</p> <p>—このように政策文書が明確になっていたのは、最初からか？</p> <p>(SN) 過去の履歴は知らないが、少なくとも UN-REDD が開始された時点では明確になっていた。個人的意見として、UNDP が来てカンボジア政府に対して技術的事項を話しても、外部主導ではなくカンボジア政府にオーナーシップがあった。JICA や FAO についても同様である。</p> <p>—オーナーシップの確立には、首相のリーダーシップも関係しているか？</p> <p>(SN) 首相のリーダーシップというよりは、現政権になってから多くの支援を受け入れた経験、留学していた人材が帰国し世代交代が進んだこと、政府が高学歴の人を多く公務員として受け入れたことといった要因があると思う。</p> <p>—REDD 支援と世代交代のタイミングが一致したということか？</p> <p>(SN) 機会というものは重要である。気候変動対策の世界的な流れ、商業林のあり方に関する議論、森林技術者の育成といった要因のタイミングが一致した。クメール・ルージュ支配地域が残っていた時代は、支配地域のコミュニティは、牛や草について政府とクメール・ルージュの両方に別々に責任を負っていた (注：納税義務のことと思われる)。</p> <p>—地方分権の流れは、REDD にも影響するか？</p> <p>(SN) 地方分権はもう20年にわたって進められている。コミューン評議会の議員が選挙で選出されるようになった。州レベルでも最近20年で地方小単位の予算が強化されるようになってきた。中央と地方に対する支援が重複する可能性がある。それを避けるため、コミューンに対する支援が必要である。</p>
--	---



<p>地方分権プログラムに、中央と地方の役割を明記すべきである。また中央から地方へリソースを移譲することも必要である。これについては、中央政府が <b>commune development fund</b> を設立し、地方支援に乗り出している。また、中央政府が州知事を任命していたのが、コミューン評議会が州知事を選出するように改められた。</p>
--

面談メモ(16)

相手方	CF & Benefit Sharing
日 時	2016年2月17日(水)15:57~16:59
場 所	FA
面会者	(先方) Mr. Ratanakoma Long, CF & Benefit Sharing (RL) (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>—主に、Outcome 4のうちCFに関係する部分に携わったのか？ (RL) 準国レベルのコンサルテーションを担当していた。</p> <p>—Outcome 4の達成状況は？ (RL) NCFPCC(注：National Community Forest Programme Coordination Committeeの略、NFPのProgramme 4を取り仕切る組織、FAO主導)に参加していた。全国レベルではNGO等のパートナーとの関係構築、州レベルでは全24州・特別市(注：地方行政区分は再構成中なので、現時点で州・特別市がいくつあるのかは不明)の知事承認を担当した。</p> <p>—対象となる森林を有する州はいくつあるのか？ (RL) 21州に保護林がある。</p> <p>—それらにNGOが関与しているのか？ (RL) 全21州においてNGOの支援を受けている。ドナーも入っている。最初にUNDP、DANIDAといくつかのNGOがCF関係の支援に入った。USAIDは準国レベルの支援をしている。NCFPCCは国レベルの組織で、州レベルにはPCFPCC(Provincial Community Forest Programme Coordination Committee)があり、両者に対してNGOが支援に入っている。さらにローカルレベルにはCFを管理する出先機関がある。</p> <p>—そのような重層構造の支援関係のコーディネーションを担ったのは誰か？ (RL) 例えば、Oddar Meancheyではパイロット生産林として、FAが2010年以来PACTと組んできた。2007年にCFIというNGOがプロポーザル提出、TWGにおいてテストREDDとすることを決定し、2008年からDANIDAが支援に入った。CFIはその後カンボジアから撤退し、その役割をPACTが引き継いだ。</p> <p>—将来、地方分権の流れが影響するか？ (RL) 現在、地方行政を再編中である。中央政府と州知事との間に軋轢が生じることがある。首相のFacebookに中央の意向が書かれている。これは公式のもので、公務員はこれを読む義務がある。2002年に地方行政が改編され、それまで地方ではForestry AdministrationがAgricultural Departmentの指揮下にあったものが、Agricultural Departmentと並列に置かれ、中央の直接指揮下に入った。さらに2016年に改編が予定されている。</p> <p>—そのような再編は阻害要因になりうるか？ (RL) 改編は改良であって、指揮系統の明確化を目指している。州知事が州レベルの問題を自分で管轄したいと思っているが、どうなるか。</p> <p>—知事は公選か？ (RL) 州内のコミューンにある評議会からの選挙で選出される。評議会は住民から選挙されているので、間接選挙だと言える。</p> <p>—誰がCFを管轄しているのか？ (RL) MAFFの承認のもと、FAが全責任を負っている。CFの管理に関する取</p>

<p>り決めを地元と協議し、合意文書に署名している。</p> <p>—新たに CF を指定する際、地元と交渉するのか？</p> <p>(RL) 関係するコミューンを選定し、そのコミューンの評議会と協議し、コミューン内の農場主等々から意見を聞いている。住民の意見を聞く機会は確保されている。</p> <p>—CF を指定することで収入源に影響する住民に対して、代替収入源を紹介するのか？</p> <p>(RL) これには長時間を要する。竹やキノコの採取、樹脂、蜂蜜等、5 種類以上を紹介している。キノコはタイに輸出しており、その対価として電力を輸入している。キャッサバを栽培しようとする住民がそのために木を切ろうとするので、対立することが多い。住民の中には、生活手段を求めてタイやラオスへ流出する者もいる。</p> <p>—エコツーリズムはどうか？</p> <p>(RL) Preah Vihear で 2010 年から実施している。Oddar Meanchey でも野生動物観察のエコツーリズムを実施している。エコツーリズムの中には蟻料理も含まれている。蜜の味がする。</p> <p>—エコツーリズムの収入の見通しは？</p> <p>(RL) 収入は大きくない。例えば、野鳥観察の料金として観光客から 1 人 1 回 \$5~10 を得ている。</p> <p>—CAM-REDD が 5 月に終了した後、日本人専門家が不在となる。その間はどうなる？</p> <p>(RL) NGO の他、UNDP や EU が支援に入っている。これらを調整する committee を USAID が主導している。</p>
---

面談メモ(17)

相手方	FiA
日時	2016年2月18日(木)10:23~11:21
場所	FiA
面会者	(先方) Mr. Vibol Ouk, Director of Department of Fisheries Conservation (VO) (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>—Outcome 3 の達成状況は？ (VO) 自分が関係する共有漁場のパトロールについては、達成と言える。まず取り締まりの体制を作ることができた。JICA から受けた支援は、①共有漁場の境界を示す杭（高さ2m、21本）の設置、②パトロール用ボートの供与である。焼畑や密猟といった違法行為は、煙を見ることで発見している。浸水林(flooded forest)及びマングローブ林が炭素固定に貢献するため、FiA も REDD の実施機関になっている。</p> <p>—浸水林とマングローブ林がカンボジアの森林全体に占める割合は？ (VO) 陸上林は FA 及び MoE が管轄し、浸水林とマングローブ林は FiA が管轄している。カンボジア全体の森林 1,000 万 ha のうち、90 万 ha が浸水林、7 万 ha がマングローブ林である。これらのうち前述のように JICA の支援が入ったのは、浸水林 5,000ha、マングローブ林 5,000ha である。浸水林及びマングローブ林に限れば、JICA の支援はソフト面ではなくハード面、すなわち施設や機材であった。FCPF によれば、杭がなければ浸水林が切り開かれてしまう。2016年3月以後、JICA の支援が途絶えて杭を打てなくなることを懸念している。</p> <p>—指標 3.1 の達成状況は？ (VO) 排出量をどれだけ削減したのかは把握していない。</p> <p>—指標 3.2 の達成状況は？ (VO) annual report を書いて UN-REDD に提出した。</p> <p>—指標 3.3 の達成状況は？ (VO) ここでいう経験とは指標 3.2 に含まれる。水産業に関して annual meeting に報告したことは自分の Facebook に載せている。 (浸水林やマングローブ林におけるパトロール活動の写真を提示される)</p> <p>—浸水林やマングローブ林をパトロールするチームはどのような構成か？ (VO) FiA の職員、警察、地方出先機関の職員、コミュニティ住民からなる。違法行為を発見すれば、行為者を逮捕し処罰している。</p> <p>—逮捕人数は？ (VO) 月報に書いてある。月 2~3 件である。以前は月 20~30 件であった。何が違法行為に該当するのかが周知されてきたようだ。</p> <p>—違法行為者はどこから来て行為に及んでいるか？ (VO) コミュニティの内部、外部もいる。国内の他地域から移住してきた人が違法行為に及ぶことが多い。</p> <p>—浸水林やマングローブ林周辺の住民の収入減があれば、どのように対処しているか？ (VO) 2006 年の漁業法で、浸水林やマングローブ林から薪を切ることが禁止された。これは標識で周知している。</p> <p>—代替収入源を紹介しているか？</p>

	<p>(VO) まず、住民に対して保護の必要性をよく説明して、違法行為をやめさせている。違法行為者は他の公有地へ移動するようになった。彼らは定住できていない。</p> <p>—CAM-REDD に対する阻害要因、貢献要因はあったか？</p> <p>(VO) FiA のトップはプロジェクトに乗り気であったが、実施チームと開発パートナーとの間でワークショップを通じて活動計画が策定されても、それを実施するための人手が足りなかった。特に移住者への対策は頭の痛い問題であった。人手と予算の制約から、パトロールは1つの地域について月10回しか実施できない。パトロールについてはFCPFの支援を受けているが、それでも月8~10回しか実施できない。5,000haのマングローブ林の境界を明示するには杭が500本必要だが、実際に打たれたのは100本だけで、あと400本足りない。例えば、火の見櫓の建設に1基当たり\$3,000程度、杭は1本当たり\$200~\$300程度必要である。火の見櫓は、浸水林やマングローブ林で漁をする人が木の下でたき火をして森林火災を引き起こしたことがあるので、必要であると思う。JICAはボートを供与してくれたが、ボートの維持費や燃料費、消耗品は支援していない。パトロールについて、FCPFがこのようなソフト面（注：維持費、燃料費、消耗品等のことと思われる）の支援を実施しているが、十分とは言えない。なお、プロジェクトの実施が自然災害に阻害されたことはなかった。</p> <p>—どの分野のキャパシティが強化され、どの分野が不足か？</p> <p>(VO) 小野専門家にマッピングの技術、GPSや衛星画像の取り扱いを学んだ。衛星画像処理はChivinが詳しいので、GISとあわせ、以後は彼から指導を受ける。小野専門家による研修を2回受けたが、英語の理解が難しかった。Chivinは英語が得意で内容をよく理解したため、カンボジア側のメンバーは彼を通じて理解を進めた。FAと比較すると、FiAに対するJICAの支援は少なかった。</p>
--	--

面談メモ(18)

相手方	WCS Cambodia Program
日時	2016年2月18日(木)14:02~15:07
場所	WCS Cambodia Program
面会者	(先方) Dr. Ross Sinclair, Country Program Director, WCS (RS) (先方) Mr. Jeff Silverman, REDD+ Technical Advisor, WCS Cambodia Program (JS) (当方) 田中誠
受領資料	なし
手交資料	なし
議事次第	インタビュー
主な事項	<p>(RS) 自分はカンボジアの森林保護に関わりはじめてから2年半になる。 (JS) 自分はテクニカルアドバイザーを14カ月間務めている。</p> <p>—カンボジアには多くのドナーやNGOが入っていて、それらのコーディネーションが良好であるように見える。その理由は？</p> <p>(RS) まず、REDDとは森林のreformを伴うものである。コーディネーションが良好である理由は2つある。①どの関係機関も方向性を同じくし、「持続可能な森林経営」(sustainable forest management)を共通のゴールとしている。②森林セクターに20のtechnical working groupがあり、DG/FAに対して政策提言している。ここ数年、EUやUSAIDとともに社会系NGOも入っている。technical working groupのサブグループにはカンボジア政府は参加せず、ドナーとNGOのみが参加して率直な議論を交わしている。このようないいメカニズムを通じてコーディネーションが行われている。JICAはNGOに対してオープンである。今回のような大きなプログラムで、USAIDやEUも参加する中で、JICAの貢献は大きい。FAにとって中田専門家は最重要人物である。</p> <p>—NGOは個別の活動として何を実施しているのか？</p> <p>(RS) カンボジアでは2000年にNGO同士の競合が生じた。そこで、カンボジアに乗り込む前にNGO同士で紳士協定を結び、重複して活動しないことを互いに約束した。今朝、WWF、CI、バードライフインターナショナル(BLI)、WAとの会議で違法伐採対策について議論してきた。</p> <p>—NGO同士の会議のために特別なテーブルがあるのか？</p> <p>(RS) 特にテーブルはなく、回り持ちで会議を開催している。会議の形式も特に決まっていない。開発圧力のもとで森林保護が成功しているのは、カンボジア政府とNGOとが相互に関心を持っているからであろう。カンボジア内戦終結後、政府は環境codeを制定した。そこにコンサルタントのアイデアを加えてアレンジし、より有効なものにした。</p> <p>—NGOがドナーと議論する場は？</p> <p>(RS) Technical Working Groupである。昨日、森林、水産業、農業の各分野について、WCSとUSAIDとの間で情報を共有したところである。</p> <p>—NGOとドナーとの財務面での交流は？</p> <p>(RS) カンボジアに入っている最大のドナーはUSAIDである。NGOは大きい方から順にWWF、WCS、RECOFTCである。Mondulhiri州でのある活動について、USAIDがADBに資金を拠出し、その資金をWWFが使用している。Prey Longにおける活動では、USAIDがCI、WA、GEF、WWF、BLIに対して財務面で支援している。かつてEUはFunding for Forestryという資金を拠出していたが、終了時に更新しなかったため、現在はUSAIDが最大援助機関になっている。</p> <p>—カンボジアのREDDではバスケットファンドを設立しなかった。バスケット</p>



	<p>ファンドがないことの得失は？</p> <p>(RS) 透明性の確保に有効だと思う。USAID は JICA と同じく、バスケットファンドに資金を拠出しないことになっている。現在、米国が生物多様性に関するプロジェクトを実施しているが、米国政府の直営ではない。USAID の資金は柔軟に使えるものだと思う。ただ、USAID はビルを建てることはしない。</p> <p>—WCS は、森林保護の先に GHG 削減があることは意識しているか？また、森林を保護すれば GHG を削減できるというロジックは正しいか？</p> <p>(JS) WCS は森林保護にボランティアに取り組んでいる。その先に GHG 削減があることはもちろん承知している。ロジックが正しいかどうかは実例で検証すべきものである。VCS という、第三者による科学的な排出量算定方法がある。WCS が参加している Seima における活動で、VCS に基づいて算定された排出量をベースラインと比較するよう、プロジェクトドキュメントに書いた。検証の結果、実際に排出量が削減されたことがわかった。</p> <p>(RS) 他のサイトでも、WCS の活動の有無によって排出量が異なることが明確になっている。</p> <p>—森林保護は GHG 削減に効果的ということか？</p> <p>(JS) 実際、森林減少に起因する GHG 排出増は大きい。さまざまな生物が森林を住処としているので、生物多様性保護のためにも、森林保護は重要である。森林を破壊するような大規模な開発は止めさせなければならない。</p> <p>(RS) 森林減少対策は、GHG 削減策の中で最も安価であるという面もある。</p> <p>—森林に依存して生活している住民が、収入を得るために木を切ってはならないとなると、他の収入減としてどのようなものがあるか？</p> <p>(RS) WCS が取り組んでいる Seima では、住民の意識が高い。実際に観察されたと思う。保護区域の境界を明示し、先住民は保護区域に立ち入ってはならない、保護区域外で木を切ってもいいという約束を交わしている。彼らの現在の収入源は、エコツーリズム、バードウォッチングのガイド、農業等である。</p> <p>—Seima で合意に至るまでにどのような努力をしたか？</p> <p>(JS) コミュニティ評議会、ローカル NGO、政府、住民のいずれとも議論した。</p> <p>(RS) 保護区域を指定するプロセスに 1~2 年かかる。カンボジアでは民主的な地方自治のプロセスがまだ新しいので、住民がそれに慣れていない。</p> <p>(JS) 複雑な議論を経ている。違法な土地の収奪 (illegal land grabbing) がある。</p> <p>(RS) ただ、カンボジア政府は国民の声をよく聞いていると思う。次の総選挙に勝ちたいという思惑もあるかもしれない。</p> <p>—カンボジアの民主主義はどの程度成熟していると思うか？</p> <p>(RS) ラオスやミャンマーよりは成熟していると思う。ただ官僚制は良くない。カンボジアの透明性ランキングは世界 150~160 位である (注: Corruption Perceptions Index のことか。2015 年は 168 カ国中 150 位)。</p> <p>(JS) 官僚組織は政治的に中立であるべきである。</p> <p>(RS) それは重要である。カンボジアの場合、政府が国民に信頼されるようになってきた。</p> <p>—Seima の住民は意識が高いということだが、他の地域ではどうか？</p> <p>(RS) 例えば、Kulen Prum Tep Wildlife Sanctuary では大規模開発計画がないが、農地開拓の際は FPIC に尽力してきた。一般に、クメール族よりも先住民の方が自然に対する意識が強いのではないか。</p> <p>(JS) ベトナムから越境して違法行為に及ぶ者を食い止めなければならない。</p> <p>—Seima では住民がパトロールに前向きである。その理由は何？</p> <p>(RS) 先住民がパトロールに参加している。彼らには自分の森を守ろうという</p>
--	---



意識が強い。一般に、このような人々は政府と対立しがちだと思われるが、 <b>Seima</b> の場合はそれがない。 <b>WCS</b> との長い付き合いもあって、政府を信用しているようである。
--

## EVALUATION GRID

### Terminal Evaluation of “Project for Facilitating the Implementation of REDD+ Strategy and Policy” in Cambodia

#### Achievement of the Project

Evaluation Items	Evaluation Questions		Basis for Judgment & Method	Data Required	Data sources	Means of Data Collection
	Main Questions	Sub Questions				
Achievement of the Overall Goal (Likelihood)	Sustainable forest management as a mitigation measure against climate change is promoted based on the experiences of REDD+ implementation.		Indicator 1: Rate of deforestation and/or forest degradation is officially recognized and policies and measures are largely taken to reduce it.	Forecast of the achievement of the indicator	- Reports and other reference documents - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Interview
Achievement of the Project Purpose	Capacity of related stakeholders is strengthened for smooth implementation of REDD+ strategy and policy.		Indicator 1: Necessary policies and measures are drafted in a national REDD+ strategy.	Achievement of the indicator	- Governmental documents - Results of interviews - P/R	- Document review - Interview - Questionnaire survey
			Indicator 2: Policy level inter-ministerial coordination and stakeholder consultation for promoting a national REDD+ strategy is enhanced.	Achievement of the indicator	- Governmental documents - Results of interviews - P/R	
Achievement of the Outcomes	Outcome 1: Effective National Management of the REDD+ Readiness process and stakeholder engagement		Indicator 1-1: National taskforce, its secretariat, technical teams and consultation groups are established and become functional.	Achievement of the indicator	- Prakas by Ministers - P/R - Result of the Mid-term Review - Other reports	- Document review - Interview
	Outcome 2: Development of the National REDD+ Strategy		Indicator 2-1: A national REDD+ strategy is drafted.	Achievement of the indicator	- Prakas by Ministers - P/R - Result of the Mid-term Review - Other reports	- Document review - Interview
			Indicator 2-2: A relevant section on safeguards is compiled in a draft national REDD+ strategy.			
			Indicator 2-3: Draft law on Wildlife and Biodiversity is submitted to the Council of Ministers			
			Indicator 2-4: Sub-national NFP documents are endorsed for at least 7 provinces			
			Indicator 2-5: National/sub-national NFP programmes are implemented throughout 6 programmes and at least 4 provinces			
Outcome 3: Improvement of capacity to manage REDD+ at the subnational/national levels.		Indicator 3-1: Emission reduction is confirmed at least in one project	Achievement of the indicator	- P/R - Result of the Mid-term Review - Other reports	- Document review - Interview	
		Indicator 3-2: An initial pilot sub-national approach is documented.				

			Indicator 3-3: Experiences of all the demonstration sites supported by CAM-REDD are compiled and shared among stakeholders			
	Outcome 4: Design of a Monitoring System and RLs/RELS framework and capacity for implementation.		Indicator 4-1: A relevant section on national forest monitoring system is compiled in a draft national REDD+ strategy and operationalized.	Achievement of the indicator	- P/R - Result of the Mid-term Review - Other reports and reference documents	- Document review - Interview
			Indicator 4-2: Initial REL(s)/RL(s) is developed.			
			Indicator 4-3: Initial forest carbon measurement is completed above IPCC's Tier 1 level and its report is drafted for verification.			
Inputs	Were inputs by the Japanese side as planned?	Dispatch of experts (number, timing, periods and fields)	Whether the quantity, quality and timing of the Inputs are as planned	- Plans and achievements - Number, timing, periods, fields and the quality of the inputs	- P/R - Result of the Mid-term Review	- Document review - Data request - Interview
		Provision of machinery and equipment		List of equipment	- Project management data	
		Local expenses for the project activities		Result data	- Project management data	
		The timing, periods, contents and participants of trainings		Result data	- Project management data	
		Others		Result data	- Project management data	
	Were inputs by the Cambodian side as planned?	Arrangement of the C/P (names, positions and affiliations)		List of C/P	- Experts, C/P	
		- Facilities and equipment - Operational expenses - Others as necessary		List of equipment	- Experts, C/P	
Pre-conditions	Collaboration with other development partners (development partners/NGOs) is secured.	Sharing and understanding on the line and contents of the Project and the roles and responsibilities of the persons concerned among them	Degree of sharing and understanding on the line and contents of the Project and the roles and responsibilities of the persons concerned among them	- Progress report - Results of interview	- Document review - Interview - Questionnaire survey	

## Process of Project Implementation

Evaluation Items	Evaluation Questions		Basis for Judgment & Method	Data Required	Data sources	Means of Data Collection
	Main Questions	Sub Questions				
Implementation of the Activities	Have the activities been implemented as planned?		<ul style="list-style-type: none"> <li>- Comparison with the planned and actual schedule and the degree of achievement, etc.</li> <li>- If the plan and the achievement of an activity differ, its reason (e. g. whether the conditions for starting an activity were not satisfied, whether the inputs or time for that activity were not enough, etc.)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Degree of achievement, timing</li> <li>- If PO was changed, its reason and the way of correspondence</li> <li>- Who was mainly in charge of the activity</li> <li>- If the above person is supported, who and why supported him/her</li> <li>- Relation between activities (e. g. whether the achievement of an activity is required for starting another activity)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- P/R</li> <li>- Result of the Mid-term Review</li> <li>- Results of interviews (Experts, C/Ps)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Document review</li> <li>- Interview</li> </ul>
Method of technology transfer	Are there any problems in the method of technology transfer?		Whether the technology is appropriately transferred to C/P	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Achievement of activities</li> <li>- Opinion of persons concerned</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- P/R</li> <li>- Result of the Mid-term Review</li> <li>- Results of interviews (Experts, C/Ps, Trainees, etc.)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Document review</li> <li>- Interview</li> </ul>
Relation between stakeholders	Is there a good relationship between the experts and the C/Ps?	Is mutual reliance established? Are both of them satisfied with the other?	Whether the persons concerned establish mutual reliance	Opinion of persons concerned	Results of interviews (Experts, C/Ps)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Interview</li> <li>- Questionnaire survey</li> </ul>
		Do both the experts and C/P communicate frequently / appropriately?	Frequency of the mutual communication between the persons concerned			
	Are the role division and the chain of command clear between stakeholders? Are the structure of cooperation and the information share between them good?	Are the role division and the chain of command clear between each entity concerned (FA, MoE and FiA)? Are the structure of cooperation and the information share between them good? Are the cooperation between the entities concerned (FA, MoE and FiA) and other related entities (other ministries, relate enterprises and NGOs, etc.)? Are the roles of other entities concerned clear?	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Existence of the Project organization chart (a document in which the chain of command and the structure that can divide the roles are described)</li> <li>- Did each person concerned act following the structure?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Project organization chart</li> <li>- Stipulation and implementation of the role of each person concerned</li> <li>- Opinion of persons concerned</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- P/R</li> <li>- Result of the Mid-term Review</li> <li>- Results of interviews (Experts, C/Ps)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Document review</li> <li>- Interview</li> <li>- Questionnaire survey</li> </ul>
Ownership of the executing organization	Are there suitable C/Ps assigned?	Are there enough number of C/Ps assigned?	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Number of C/Ps</li> <li>- Research fields (in case of researchers) or section of charge of assigned C/Ps</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Achievement of activities</li> <li>- Opinion of persons concerned</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- P/R</li> <li>- Results of interviews (Experts, C/Ps)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Document review</li> <li>- Interview</li> <li>- Questionnaire survey</li> </ul>

		Has the C/P actively participated in the plan and implementation of the project activities?	- Did the assigned C/Ps participate in the trainings? - Did the C/Ps ask questions on what they could not have understood in the trainings?						
		Do FA, MoE and FiA sufficiently grasp the status of the project activities?	Structure of the sharing of Project information inside FA, MoE and FiA	Opinion of persons concerned	Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Interview - Questionnaire survey			
		Has the budget been allotted and disbursed as planned?	Whether the budget of the Cambodian side is allotted and disbursed as planned	- Financial status - Achievement of project costs - Opinion of persons concerned	- P/R - Related documents - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview - Questionnaire survey			
		Are the awareness and desire to the Project high in the site level (those who joined in the Project)?	Achievement of participation and awareness	Opinion of persons concerned	Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Interview			
Coordination with other development partners	Is there any collaborative relationship or duplication in cooperation with other development partners?	UNDP	Contents of assistance by other development partners and the collaborative relationship with the Project	- Scope of assistance of other development partners - Opinion of persons concerned	- P/R - Results of interviews (Experts, C/Ps, other development partners)	- Document review - Interview - Questionnaire survey			
		FAO							
		WB							
		ADB							
	Others								
Preventing and contributing factors	The factors preventing or contributing to Activity progress, Outcome achievement and Project Goal achievement	< Pre-condition > Collaboration with other development partners (development partners/NGOs) is secured.	* Cambodian policies on REDD+ do not change greatly. * Financial sustainability is secured. * A national REDD+ strategy is endorsed and financed. Whether the Pre-condition and Important Assumptions are satisfied	Opinion of persons concerned Degree of sharing and understanding on the line and contents of the Project and the roles and responsibilities of the persons concerned among them	- P/R - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview - Questionnaire survey			
		< Important Assumption > Provision of the equipment by the grant aid does not get greatly delayed.					- Provision of the equipment by the grant aid - Opinion of persons concerned	- Report of the grant aid - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview
		< Important Assumption > Stakeholders (FA/MoE/FiA) continue to work for the Project.					Opinion of persons concerned	- Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Interview
		< Important Assumption > * International rules and modalities related to REDD+ procedure are established without delay.					Opinion of persons concerned	- Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Interview
		< Important Assumption > Sufficient resources are allocated to draft national REDD+ strategy					Opinion of persons concerned	- Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Interview
		< Important Assumption > Cambodian policies on REDD+ do not change greatly.					Opinion of persons concerned	- Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Interview
		< Important Assumption > Financial sustainability is secured.					Opinion of persons concerned	- Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Interview

		< Important Assumption > A national REDD+ strategy is endorsed and financed.		Opinion of persons concerned	- Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Interview
		Are there other factors preventing or contributing to the project?	Existence of other preventing or contributing factors	Opinion of persons concerned	- Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Interview

## Relevance

Evaluation Items	Evaluation Questions		Basis for Judgment & Method	Data Required	Data sources	Means of Data Collection
	Main Questions	Sub Questions				
Necessity	Does the Project Purpose correspond with the needs of the Cambodian side (target group)?		Correspondence of the Project Purpose and the needs of the Cambodian side	- Development plan in the forest sector - Related documents - Opinion of persons concerned	- P/R - Related documents - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview
	Does the Project Purpose correspond with the needs of the target area and society?		Correspondence of the Project Purpose and the needs of the target area and society	- Development plan in the forest sector - Opinion of persons concerned		
Priority	Are the Overall Goal and the Project Purpose coherent with the National Development Plan, the development plan of the forest sector and other policies related to forest?		Coherence of the Overall Goal and the Project Purpose with the National Development Plan, the development plan of the forest sector and other policies related to forest	- Policy documents of the forest sector - Opinion of persons concerned	- Documents related to the forest sector - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview
	Is the Project Purpose coherent with the cooperation policy of Japan and the JICA's country-specific project implementation plan?		Coherence with the cooperation policy of Japan and the JICA's country-specific project implementation plan	Japan's assistance policy (especially assistance in the forest sector, assistance to the Southeastern Asia and bilateral assistance to Cambodia)		
Relevance of approach	Is the Project appropriate as a strategy that contributes to the development issues on forest?	Is the project approach appropriate?	Appropriateness of the project approach	- Achievement of the Project activities	- P/R - Results of interviews (Experts, C/Ps, other development partners)	- Document review - Interview - Questionnaire survey
		What kind of multiplier effects are there in the assistance coordination with other development partners?	Kind of multiplier effects in the assistance coordination with other development partners	- Achievement and evaluation of similar projects - Opinion of persons concerned		
	Was the selection of the target group (objects and dimensions) appropriate?		- Status of the acceptance of the effect and the payment of the costs	Documents of national and provincial level policies	- Ex-ante evaluation report - Documents related to policies - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview
	Are the acceptance of the effect and the payment of the costs impartially?		Status of the acceptance of the effect and the payment of the costs	- Achievement of the Project activities - Achievement and evaluation of similar projects - Opinion of persons concerned	- P/R - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview - Questionnaire survey
	Will the Project effects disseminate to any entities other than the target group?		Concepts and visions on the dissemination of the Project effects	Opinion of persons concerned	- Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Interview
	Does Japan have comparative advantage in technical cooperation in this	Have the experiences from JICA's forest projects been utilized in the Project?	Status of the utilization of the experiences from JICA's forest projects	- Achievement and evaluation of similar projects - Opinion of persons concerned	- Related documents - Results of interviews (Experts)	- Document review - Interview - Questionnaire survey



	field?	Have the experiences of forest development in Japan been utilized in the Project?	Status of the utilization of the experiences of forest development in Japan	- Achievement of Japan's assistance in forest development - Opinion of persons concerned	- Related documents - Results of interviews (Experts)	- Document review - Interview
Others	Are there any changes in the environment around the Project (policies, economy and society etc.) after the ex-ante evaluation and after the start of the Project?		Existence of the changes in the environment around the Project (policies, economy and society etc.) after the start of the Project	Opinion of persons concerned	- Related documents - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview - Questionnaire survey

## Effectiveness

Evaluation Items	Evaluation Questions		Basis for Judgment & Method	Data Required	Data sources	Means of Data Collection
	Main Questions	Sub Questions				
Degree of the Project Purpose achievement	Degree of achievement of the Project Purpose (likelihood)	Is capacity of related stakeholders strengthened for smooth implementation of REDD+ strategy and policy?	To confirm the indicators of the Project Purpose	Indicators of the Project Purpose	- P/R - Related documents - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview - Questionnaire survey
		Is the setting up of indicators of project objective appropriate?	- Comparison with the baseline - Comparison with other similar projects	- Baseline data - Indicators in other projects		
Causality of Outcomes and Project Purpose	Do the Outcomes contribute to the achievement of the Project Purpose?		Whether the logic is reasonable, the logic that the achievement of the four Outcomes causes the achievement of the Project Purpose	Indicators of the Outcomes	- P/R - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview - Questionnaire survey
	Are there any other necessary factors for the achievement of the Project purpose?		Existence of such factors	- Description in the Monthly progress reports - Opinion of persons concerned	- P/R - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview - Questionnaire survey
	Are there no changes in important assumptions on the process from the Outcomes to the Project Purpose? Do the important assumptions affect?	< Important Assumption > International rules and modalities related to REDD+ procedure are established without delay.	Existence of the important assumptions	- Description in the P/R - Opinion of persons concerned	- P/R - Related documents - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview
		< Important Assumption > Sufficient resources are allocated to draft national REDD+ strategy				
	Are there any other important assumptions?	Existence of other important assumptions				
Are there any preventive or contributing factors for the achievement of the Project Purpose?		Existence of preventive and contributing factors for the achievement of the Project Purpose	Opinion of persons concerned	- Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Interview	

## Efficiency

Evaluation Items	Evaluation Questions		Basis for Judgment & Method	Data Required	Data sources	Means of Data Collection
	Main Questions	Sub Questions				
Degree of Outcomes achievement	Degree of achievement of the Outcomes	Are the Outcomes achieved as planned? What are the preventive factors, if any?	- Comparison between the actual and the planned (target values) - Existence of preventing factors	- Degree and timing of the achievement of the plan - Opinion of persons concerned	- P/R - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview
		Is the setting up of the indicators of each Outcome appropriate?	Appropriateness of the setting up of each Outcome	- Current degree of achievement - Causal relationship with the Project Purpose		
Causality of Inputs, Activities, and Outcomes	Are the Activities enough to generate the Outcomes?	Outcome 1: Effective National Management of the REDD+ Readiness process and stakeholder engagement	Analysis of the achievement of the Activities and the Outcomes	Opinion of persons concerned	- P/R - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview
		Outcome 2: Development of the National REDD+ Strategy				
Outcome 3: Improvement of capacity to manage REDD+ at the subnational/national levels.						
Outcome 4: Design of a Monitoring System and RLs/RELS framework and capacity for implementation.						
Are the quality, quantity and timing of the Input suitable to produce the Outcomes?	Are the number, field and the timings and periods of dispatch of the Japanese experts appropriate?	Are the specifications, kinds, quantity and the timing of delivery of the supplied equipment appropriate?	Appropriateness of the number, field and the timings and periods of dispatch of the Japanese experts	- Achievement of the dispatch of Japanese experts - Opinion of persons concerned	- P/R - Related documents - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview
		Are the number of trainees, qualification, field, the contents and periods of training, the timing of acceptance and the costs of the domestic trainings in Japan appropriate?	Appropriateness of the specifications, kinds, quantity and the timing of delivery of the supplied equipment	- List of purchased equipment - Opinion of persons concerned		
		Are the number, arrangement and capacity of Cambodian C/Ps appropriate?	Appropriateness of the number of trainees, qualification, field, the contents and periods of training, the timing of acceptance and the costs of the domestic trainings in Japan	- Achievement of the acceptance of trainees - Opinion of persons concerned		
		Are the running costs for the Project by the Japanese side appropriate?	Appropriateness of the number, arrangement and capacity of Cambodian C/Ps	- Status of the arrangement of C/P - Opinion of persons concerned		
		Does the Cambodian side allot the budget appropriately?	Appropriateness of the running costs for the Project by the Japanese side	- Achievement of the running costs for the Project - Opinion of persons concerned		
			Appropriateness of the budget allotted by the Cambodian side	- Achievement of the local costs - Opinion of persons concerned		
Costs	Compared to similar projects (JICA projects and projects by other development partners etc. of the assistance in forest), the Outcomes are commensurate with the input costs?	Comparison with similar projects	- Project costs - Costs of similar projects - Opinion of persons concerned	- P/R - Related documents	- Document review	

	Compared to similar projects (JICA projects and projects by other development partners etc. of the assistance in forest), the degree of achievement of the Project Purpose is commensurate with the input costs?		Comparison with similar projects			
The factor which has affected the efficiency of the implementation process of the Project	Does the Project utilize the local resources effectively?	Does the Project utilize the existing organizational structure and facilities?	Status of the utilization of the existing organizational structure and facilities	- Record of the utilization of facilities - Opinion of persons concerned	- P/R - Related documents - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview - Questionnaire survey
		Are the results of past similar projects utilized?	Status of the utilization of the results of past similar projects			
	Are there any preventing or contributing factors to the efficiency of the Project?		Existence of preventing or contributing factors			

## Impact

Evaluation Items	Evaluation Questions		Basis for Judgment & Method	Data Required	Data sources	Means of Data Collection
	Main Questions	Sub Questions				
Achievement of the Overall Goal	Is there a prospect of the achievement of Overall Goal?	Sustainable forest management as a mitigation measure against climate change is promoted based on the experiences of REDD+ implementation.	Whether sustainable forest management as a mitigation measure against climate change is promoted based on the experiences of REDD+ implementation.	Opinion of persons concerned	Results of interviews (Experts, C/Ps)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Document review</li> <li>- Interview</li> <li>- Questionnaire survey</li> </ul>
	Does the achievement of the Overall Goal contribute to the development policy of the forest sector?	Goal contribute to the	Impacts that the Project contributes to the policy	Opinion of persons concerned	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Project Report</li> <li>- Related documents</li> <li>- Results of interviews (Experts, C/Ps, other development partners)</li> </ul>	
	Are the important assumptions on the process from the Outcomes to the Project Purpose currently still correct?	< Important Assumption > Cambodian policies on REDD+ do not change greatly.	Existence of the important assumptions	Opinion of persons concerned		
		< Important Assumption > Financial sustainability is secured.				
	< Important Assumption > A national REDD+ strategy is endorsed and financed.					
	Are there any factors to obstruct the achievement of the Overall Goal?		Existence of obstructing factors	Existence of obstructing factors		
Causal relationship	Do the Overall Goal and the Project Purpose become estranged? Does the achievement of the Project Purpose contribute the achievement of the Project Purpose?		Comparison of the Overall Goal and the Project Purpose	Newest edition of the Overall Goal and the Project Purpose	<ul style="list-style-type: none"> <li>- PDM</li> <li>- P/R</li> <li>- Results of interviews (Experts, C/Ps)</li> </ul>	
Ripple effect	Are there any ripple effects other than the Overall Goal?	Are there any positive and negative effects other than the Overall Goal?	Existence of positive and negative effects and influences	Opinion of persons concerned	<ul style="list-style-type: none"> <li>- Project Report</li> <li>- Related documents</li> <li>- Results of interviews (Experts, C/Ps, other development partners)</li> </ul>	
Degree of contribution of the Project	Does the project highly contribute to the realization of the Overall Goal?	Is there any demarcation or interactive effects with other development partners?	To confirm demarcation and interactive effects with other development partners	Degree of contribution of the Project		

## Sustainability

Evaluation Items	Evaluation Questions		Basis for Judgment & Method	Data Required	Data sources	Means of Data Collection
	Main Questions	Sub Questions				
Policy and institutional aspects	Is there a high possibility for continuation of the policy support after the end of the Project?		Whether there is a high possibility for continuation of the policy support after the end of the Project	Plans and strategies at the policy level on forest	- Project Report - Related documents - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview - Questionnaire survey
	Is the system secured that supports the dissemination of the effects of the Project?		Whether the system that supports the dissemination of the effects of the Project is secured.	Problems on the activities of the Project		
Organizational aspects	Does the cooperation between the related entities (FA, MoE and FiA) continue after the end of the Project?		Whether the cooperation between the related entities (FA, MoE and FiA) continue after the end of the Project	- Organization of related entities - Opinion of persons concerned		
Financial aspects	Is the budget for continuously demonstrating the effect of the Project secured?		Whether the budget for continuously demonstrating the effect of the Project is secured	- Financial status - Opinion of persons concerned		
Technical aspects	Does C/Ps have enough capacity to revise by itself the policy, standards, guidelines and other tools if necessary?		Whether C/Ps has enough capacity to revise by itself the policy, standards, guidelines and other tools if necessary	Opinion of persons concerned		
	Do FA, MoE and FiA have enough capacity to technically contribute to the dissemination of experience and knowledge obtained in the project to other areas?		Whether FA, MoE and FiA have enough capacity to technically contribute to the dissemination of experience and knowledge obtained in the project to other areas			
Society, culture and environmental aspects	Are there any factors that obstruct the Sustainability in society, culture and environmental aspects?	Is there enough consideration to vulnerable risk groups?	Whether there is enough consideration to vulnerable risk groups (absolute poor, aged and jobless, etc.)	Opinion of persons concerned		

## Others

Evaluation Items	Evaluation Questions		Basis for Judgment & Method	Data Required	Data sources	Means of Data Collection
	Main Questions	Sub Questions				
Notes until the end of the project	Is it necessary to reconsider the contents of the Input, the Activities and the Outcome?		Necessity to reconsider the contents of the input, the activities and the Outcome is to be interviewed to JET and C/Ps.	Related information	- PDM - P/R - Results of interviews (Experts, C/Ps)	- Document review - Interview - Questionnaire survey
	What are the important factors to be aware until the end of the Project?		Important factors to be aware until the end of the Project are to be interviewed to JET.	- Related information - Opinions of persons concerned		

カンボジア国 REDD+戦略政策実施支援プロジェクト 終了時評価調査 評価グリッド (案)

実績の検証

評価項目	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
	大項目	小項目				
上位目標の達成度 (見込み)	REDD+実施の経験に基づき、気候変動の緩和策として持続可能な森林経営が推進される。		指標 1: 森林減少及び/または森林劣化の速さが公に認知され、その割合を下げるために政策措置が広範に取られる。	指標の達成見通し	報告書その他の資料類 インタビュー結果 (専門家、C/P)	インタビュー
プロジェクト目標の達成度 (見込み)	REDD+の戦略と政策の実施が円滑に行われるように関係者(ステークホルダー)の能力が強化される。		指標 1: 必要な政策措置が国家 REDD+戦略の中に草稿される。	指標の達成状況	国家政策文書 インタビュー結果 事業進捗報告書	文献調査 インタビュー 質問票
			指標 2: 国家 REDD+戦略を促進するための政策レベルの省庁間の調整や関係者(ステークホルダー)の協議が進められる。	指標の達成状況	国家政策文書 インタビュー結果 事業進捗報告書	
成果 (アウトカム) の達成状況	成果 1: ロードマップの原則に基づき、REDD+に係る準備作業を効果的に管理する体制、及びステークホルダー・エンゲージメントが国レベルで整備されることを支援する。		指標 1-1: 国家タスクフォース、事務局、テクニカルチーム、コンサルテーショングループが設立され、活動する。	指標の達成状況	関係による Prakas 事業進捗報告書 中間レビュー結果 その他の報告書類	文献調査 インタビュー
	成果 2: 国レベルの REDD+戦略が策定され、実施の枠組が整うように支援する。		指標 2-1: 国家 REDD+戦略案が草稿される。	指標の達成状況	関係による Prakas 事業進捗報告書 中間レビュー結果 その他の報告書類	文献調査 インタビュー
			指標 2-2: セーフガードの関連セクションが国家 REDD+戦略案に盛り込まれる。			
			指標 2-3: 野生生物及び生物多様性法(仮称)案が関係評議会へ提出される。			
			指標 2-4: 州レベルの NFP の文書が少なくとも 7 州で承認される。			
			指標 2-5: 国家/州レベルの NFP が少なくとも 4 州で、6 プログラムを通して実施される。			
	成果 3: プロジェクト及び準国レベルにて REDD+を管理する能力向上を支援する。		指標 3-1: 排出削減が少なくとも 1 つのプロジェクトで確認できる。	指標の達成状況	事業進捗報告書 中間レビュー結果 その他の報告書類	文献調査 インタビュー
		指標 3-2: 試行的準国レベルのアプローチが文書化される。				



		指標 3-3：CAM-REDD で支援した全てのデモンストレーションサイトでの経験が編集され、関係者に共有される。					
	成果 4：政府職員が森林炭素量の測定・報告・検証（MRV）及び参照排出レベル（RELs）の枠組み設計及びその実施に必要な知識を身につけるための支援を行う。	指標 4-1：国家森林モニタリングシステム（NFMS）に関連したセッションが国家 REDD+戦略案の中に盛り込まれ、開始される。 指標 4-2：初期の REL/RL が開発される。 指標 4-3：初期の森林炭素量計測案が IPCC の Tier 1 以上のレベルで行われ、その報告用原案が認証のために作成される。	指標の達成状況	事業進捗報告書 中間レビュー結果 その他の報告書・資料類	文献調査 インタビュー		
投入の実績	日本側の投入は計画どおりか。	専門家派遣（数、時期、期間、専門性）	投入量、投入の質及び時期が計画通りだったかを確認する。	計画、実績数、時期、機関、専門性、投入の質	事業進捗報告書 中間レビュー結果	文献調査 データ提出依頼 インタビュー	
		機材供与・携行機材		機材リスト			プロジェクト管理情報
		現地業務費		実績データ			プロジェクト管理情報
		研修の時期、期間、内容、参加者		実績データ			プロジェクト管理情報
	その他	実績データ		プロジェクト管理情報			
	カンボジア側の投入は計画どおりか。	C/P の配置（氏名、役職、機関名）		C/P リスト			専門家、C/P
		施設・機材 運営費 その他		機材リスト			専門家、C/P
前提条件	Collaboration with other development partners (donors/NGOs) is secured.	プロジェクトの方針内容や、各関係者の役割責任が関係者間で共有され、理解されているかを確認する。	プロジェクトの方針内容や、各関係者の役割責任の関係者間での共有、理解度	事業進捗報告書 インタビュー結果	文献調査 インタビュー 質問票		

実施プロセスの検証

評価項目	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
	大項目	小項目				
活動の実施	活動 1-1~1-4、活動 2-1~2-7、活動 3-1~3-2、活動 4-1~4-6 は計画通り実施されているか。		<ul style="list-style-type: none"> <li>活動計画と実績とを比較する。</li> <li>活動計画と実績とが異なる場合は、その原因を確認する（例えば、活動開始条件が満たされていないか、活動に必要な投入が不足していたか、活動のための時間が不足していたか、等）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成度、達成時期</li> <li>POに修正があった場合、その理由や対応方法</li> <li>誰が主として活動を担当したか</li> <li>上記主担当を支援した関係者があった場合は、その関係者及び支援した理由</li> <li>活動相互間の関係（例えば、ある活動の達成が別の活動の開始のための必要条件になっているか）</li> </ul>	事業進捗報告書 中間レビュー結果 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー
技術移転の方法	技術移転の方法に問題はなかったか。		技術移転がC/Pに対して的確に行われたかどうかを確認する。	活動実績 関係者の意見	事業進捗報告書 中間レビュー結果 インタビュー結果（専門家、C/P、研修受講者等）	文献調査 インタビュー 質問票
ステークホルダーの関係	専門家とC/Pとの関係は良好か。	相互に信頼関係が醸成されているか。相互の満足度は高いか。	関係者間の相互の信頼関係が醸成されているかを確認する。	関係者の意見	インタビュー結果（専門家、C/P）	インタビュー 質問票
		相互コミュニケーションは十分に行われているか。	関係者間の相互のコミュニケーションの頻度について確認する。			
ステークホルダー間の役割分担、指揮命令系統は明確か。連携、情報共有体制は良好か。	各関係主体（FA、MoE、FiA）の関係者の役割分担、指揮命令系統は明確か。連携、情報共有体制は良好か。	関係主体（FA、MoE、FiA）と他関連機関（他省庁、関係企業、NGO等）との連携は良好か。他関連省庁の役割は明確か。	指揮命令系統や役割分担ができる体制が構築されているかを確認する。	プロジェクト組織図 各関係者の役割の明文化と実施 関係者の意見	事業進捗報告書 中間レビュー結果 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー 質問票
		関係主体（FA、MoE、FiA）と他関連機関（他省庁、関係企業、NGO等）との連携は良好か。他関連省庁の役割は明確か。	指揮命令系統や役割分担ができる体制が構築されているかを確認する。			
相手国実施機関のオーナーシップ	適切なカウンターパートが配置されているか。	十分な数のC/Pが配置されているか。	各レベルのC/Pの本プロジェクトの関与の度合いを確認する。	活動実績 関係者の意見	事業進捗報告書 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー 質問票
		C/Pは主体的にプロジェクト活動に参加しているか。	配置されたC/Pが研修に参加したか。研修に参加したC/Pは、不明点があれば質問していたか。			
	FA、MoE、FiAはプロジェクトの活動状況を十分に把握しているか。	FA、MoE、FiAのプロジェクト情報共有体制	関係者の意見	インタビュー結果（専門家、C/P）	インタビュー 質問票	
	先方予算は計画通り確保、支出されているか。	先方予算は計画通り確保、支出されているかを確認する。	財務状況 プロジェクト経費実績 関係者の意見	事業進捗報告書 関連文書 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー 質問票	

	現場レベル（実際にプロジェクトの活動に従事した者）でのプロジェクトに対する認識・参加意欲は高いか。		参加実績・認識	関係者の意見	インタビュー結果（専門家、C/P)	インタビュー
他開発パートナーとの協調	他開発パートナーとの協力関係はあるか。また協力内容の重複はないか。	UNDP	他開発パートナーの協力内容や本プロジェクトとの協力関係を認める。	他開発パートナーの協力内容 関係者の意見	事業進捗報告書 インタビュー結果（専門家、C/P、他開発パートナー）	文献調査 インタビュー 質問票
		FAO				
		WB				
		ADB				
	その他					
阻害要因及び貢献要因	活動進捗、成果（アウトカム）達成、目標達成に阻害、貢献する要因はあるか。	【前提条件】 Collaboration with other development partners (donors/NGOs) is secured.	前提条件及び外部条件を満たしているかどうかを確認する。プロジェクトの方針内容や、各関係者の役割責任が関係者間で共有され、理解されているかを確認する。	関係者の意見 プロジェクトの方針内容や、各関係者の役割責任の関係者間での共有、理解度	事業進捗報告書 インタビュー結果（専門家、C/P)	文献調査 インタビュー 質問票
		【外部条件】 環境プログラム無償の調達機材の到着が大幅に遅れない。		環境プログラム無償の調達状況 関係者の意見	環境プログラム無償の報告書 インタビュー結果（専門家、C/P)	文献調査 インタビュー
		【外部条件】 Stakeholders (FA/MoE/FiA) continue to work for the Project.		関係者の意見	インタビュー結果（専門家、C/P)	インタビュー
		【外部条件】 International rules and modalities related to REDD+ procedure are established without delay.		関係者の意見	インタビュー結果（専門家、C/P)	インタビュー
		【外部条件】 Sufficient resources are allocated to draft national REDD+ strategy		関係者の意見	インタビュー結果（専門家、C/P)	インタビュー
		【外部条件】 カンボジアの REDD+に関する政策が大幅に変更されない。		関係者の意見	インタビュー結果（専門家、C/P)	インタビュー
		【外部条件】 資金源が安定的に保障されている。		関係者の意見	インタビュー結果（専門家、C/P)	インタビュー
		【外部条件】 REDD+国家戦略が承認され、資金源が確保されている。		関係者の意見	インタビュー結果（専門家、C/P)	インタビュー
		その他の阻害、貢献要因はあるか。		その他の阻害、貢献要因があるのかを確認する。	関係者の意見	インタビュー結果（専門家、C/P)

妥当性

評価項目	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
	大項目	小項目				
必要性	プロジェクト目標とカンボジア側（ターゲット・グループ）のニーズは一致しているか。		プロジェクト目標とカンボジア側のニーズが一致しているかを確認する。	森林セクター開発計画、関連文書、関係者の意見	事業進捗報告書 関連文書 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー
	プロジェクト目標は対象地域・社会のニーズに合致しているか。		プロジェクト目標が対象地域・社会のニーズに合致しているかを確認する。	森林セクター開発計画、関係者の意見		
優先度	上位目標及びプロジェクト目標が国家開発計画、森林セクター計画、その他の森林関連政策に照らして妥当であるか。		上位目標及びプロジェクト目標が国家開発計画、森林セクター計画、その他の森林関連政策に照らして妥当であるかを確認する。	森林セクター政策に係る文書 関係者の意見	森林セクター政策関連文書 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー
	プロジェクト目標が日本の援助政策、JICA 国別事業実施計画に照らして整合性はあるか。		プロジェクト目標が日本の援助政策、JICA 国別事業実施計画に照らして整合性があるかを確認する。	日本の援助政策（特に森林セクター協力、対東南アジア協力、対カンボジア二国間協力に関係するもの）	「ODA 大綱」「ODA 中期政策」等援助政策文書 JICA 国別事業実施計画	文献調査
手段としての適切性	カンボジアの森林分野の開発課題に対する効果をあげる戦略として適切だったか。	プロジェクトのアプローチは適切であったか。	プロジェクトのアプローチは適切であったかを確認する。	プロジェクト活動実績 類似案件実績・評価 関係者の意見	事業進捗報告書 インタビュー結果（専門家、C/P、他開発パートナー）	文献調査 インタビュー 質問票
		他開発パートナーとの援助協調において、どのような相乗効果があったか。	他開発パートナーとの援助協調において、どのような相乗効果があったかを、インタビューにより判断する。			
	ターゲットグループの選定（対象・規模）は適正か。		選定の基準となった政策、方針、認識など	国家レベル、州レベルの各政策文書	事前評価報告書 政策関連文書 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー
	効果の受益や費用の負担が公平に分配されたか。		効果の受益や費用負担の状況を確認する。	プロジェクト活動実績 類似案件実績・評価関係者の意見	事業進捗報告書 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー 質問票
	ターゲットグループ以外へのプロジェクト成果の波及性はあるか。		活動拡大にかかるコンセプト、ビジョン	関係者の意見	インタビュー結果（専門家、C/P）	インタビュー
	日本の技術の比較優位性はあるか。	JICA の森林分野技術協力プロジェクトの経験は活かされているか。	JICA の森林分野技術協力プロジェクトの経験の活用状況を確認する。	類似案件の実績・評価 関係者の意見	関係文書 インタビュー結果（専門家）	文献調査 インタビュー 質問票
		日本の森林分野の経験が活かされているか。	日本の森林分野の経験の活用状況を確認する。	日本の森林分野協力実績 関係者の意見	関係文書 インタビュー結果（専門家）	文献調査 インタビュー
その他	事前評価以降、プロジェクト開始以降のプロジェクトを取り巻く環境（政策、経済、社会など）の変化はあったか。		プロジェクト開始後のプロジェクトを取り巻く環境（政策、経済、社会など）の変化の有無を確認する。	関係者の意見	関係文書 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー 質問票

有効性

評価項目	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
	大項目	小項目				
プロジェクト目標の達成度	プロジェクト目標はどの程度達成されるか。(見込み)	REDD+の戦略と政策の実施が円滑に行われるように利害関係者(ステークホルダー)の能力が強化される。	プロジェクト目標の指標を確認する。	プロジェクト目標の指標	事業進捗報告書 関連報告書等 インタビュー結果(専門家、C/P)	文献調査 インタビュー 質問票
		プロジェクト目標の指標の設定は適切か。	ベースラインとの比較を行う。 他の類似案件との比較を行う。	ベースラインデータ 他案件指標		
因果関係	プロジェクトの成果(アウトカム)はプロジェクト目標達成に貢献しているか。(プロジェクト目標の達成は成果(アウトカム)によって引き起こされたものか。)		4つの成果(アウトカム)が達成されればプロジェクト目標を達成するという論理に無理がないか。	成果(アウトカム)の指標	事業進捗報告書 インタビュー結果(専門家、C/P)	文献調査 インタビュー 質問票
	その他プロジェクト目標達成のために必要な要因はあるか。		要因の有無を確認する。	事業進捗報告書 関係者の意見	事業進捗報告書 インタビュー結果(専門家、C/P)	文献調査 インタビュー 質問票
	成果(アウトカム)からプロジェクト目標に至るまでの外部条件に変更はないか、外部条件の影響はあったか。	【外部条件】 International rules and modalities related to REDD+ procedure are established without delay.	外部条件の有無	事業進捗報告書 関係者の意見	事業進捗報告書 関連文書 インタビュー結果(専門家、C/P)	文献調査 インタビュー
		【外部条件】 Sufficient resources are allocated to draft national REDD+ strategy	その他の外部条件の有無			
	プロジェクト目標達成の阻害・貢献要因は何か。		プロジェクト目標達成の阻害・貢献要因の有無	関係者の意見	インタビュー結果(専門家、C/P)	インタビュー

効率性

評価項目	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
	大項目	小項目				
成果（アウトカム）の達成度	成果（アウトカム）はどの程度達成されたか。	成果（アウトカム）は計画通り達成しているか。阻害要因があるとすれば何か。	実績と計画（目標値）の比較 阻害要因の有無	計画の達成度、時期 関係者の意見	事業進捗報告書 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー
		各成果（アウトカム）の指標の設定レベルは適切か。	指標の設定レベルの妥当性	現時点での達成度 プロジェクト目標との因果関係		
因果関係	成果（アウトカム）を産出するために必要十分な活動であったか。	成果1：ロードマップの原則に基づき、REDD+に係る準備作業を効果的に管理する体制、及びステークホルダー・エンゲージメントが国レベルで整備されることを支援する。	活動と成果（アウトカム）の達成状況の分析	関係者の意見	事業進捗報告書 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー
		成果2：国レベルのREDD+戦略が策定され、実施の枠組が整うように支援する。				
		成果3：プロジェクト及び準国レベルにてREDD+を管理する能力向上を支援する。				
		成果4：政府職員が森林炭素量の測定・報告・検証（MRV）及び参照排出レベル（RELs）の枠組み設計及びその実施に必要な知識を身につけるための支援を行う。				
達成された成果（アウトカム）から見て投入の質、量、タイミングは適切か。		日本人専門家派遣人数、専門分野、派遣時期、期間は適切か。	日本人専門家派遣人数、専門分野、派遣時期、期間の適切性	日本人専門家派遣実績 関係者の意見	事業進捗報告書 関連文書 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー
		供与機材の仕様、種類、量、導入時期は適切か。	供与機材の仕様、種類、量、導入時期の適切性	機材リスト 関係者の意見		
		本邦研修の派遣人数、資格、分野、研修内容、研修期間、受入時期は適切か。	本邦研修の派遣人数、資格、分野、研修内容、研修期間、受入時期の適切性	研修員受入実績 関係者の意見		
		カンボジア側のC/Pの人数、配置状況、能力は適切か。	カンボジア側のC/Pの人数、配置状況、能力の適切性	C/P配置状況 関係者の意見		
		日本側の現地活動費は適切か。	日本側の現地活動費の適切性	現地活動費実績 関係者意見		
		カンボジア側の予算配分は適切か。	カンボジア側の予算配分の適切性	プロジェクト経費 関係者の意見		
コスト	類似プロジェクト（JICAプロジェクト及び他開発パートナー等が実施する森林関連の支援）と比較して、成果（アウトカム）は投入コストに見合ったものか。	類似プロジェクトとの比較	プロジェクト経費 類似プロジェクトのプロジェクト経費	事業進捗報告書 関連文書	文献調査	

	類似プロジェクト（JICAプロジェクト及び他開発パートナー等が実施する森林関連の支援）と比較して、プロジェクト目標の達成度は投入コストに見合ったものか。		類似プロジェクトとの比較	関係者の意見		
プロジェクトの実施プロセスの効率性に影響を与えている要因	ローカル資源を有効に活用しているか。	既存の組織、施設などを有効に活用しているか。	既存の組織、施設などの利用状況を確認する。	事業進捗報告書 関係者の意見	事業進捗報告書 関連文書 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー 質問票
		過去の類似プロジェクトの成果を活用しているか。	過去の類似プロジェクトの成果の利用状況を確認する。			
	その他効率性を阻害した要因はあるか。	阻害、貢献要因の有無				



## インパクト

評価項目	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法	
	大項目	小項目					
上位目標の達成見込み	上位目標は達成される見込みか。事後評価で効果の検証ができるか。	REDD+実施の経験に基づき、気候変動の緩和策として持続可能な森林経営が推進される。	REDD+実施の経験に基づき、気候変動の緩和策として持続可能な森林経営が推進されるかどうかを確認する。	関係者の意見	インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー 質問票	
	上位目標達成によりカンボジアの森林セクター開発政策等へのインパクトは見込めるか。		本プロジェクトが政策に与えたインパクトを確認する。	関係者の意見	事業進捗報告書 関連文書 インタビュー結果（専門家、C/P）		
	プロジェクト目標から上位計画に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか。	【外部条件】カンボジアのREDD+に関する政策が大幅に変更されない。	外部条件の有無		関係者の意見		
		【外部条件】資金源が安定的に保障されている。					
		【外部条件】REDD+国家戦略が承認され、資金源が確保されている。					
その他上位目標の達成を阻害する要因はないか。		阻害要因の有無を確認する。	阻害要因の有無				
因果関係	上位目標とプロジェクト目標が乖離していないか。プロジェクト目標の達成が、上位目標の達成に寄与するか。		上位目標とプロジェクト目標の比較	最新版の上位目標とプロジェクト目標	PDM 事業進捗報告書 インタビュー結果（専門家、C/P）		
波及効果	その他の波及効果はあるか。	その他上位目標以外の正負の効果・影響があるか。	正負の効果・影響の有無	関係者の意見	事業進捗報告書 関連文書		
プロジェクトの貢献度	インパクト発現に対するプロジェクトの貢献度は高いか。	他の開発パートナーとのデマケ、相乗効果はあるか。	他開発パートナーとのデマケ、相乗効果を確認する。	プロジェクトの貢献度	インタビュー結果（専門家、C/P、他開発パートナー）		

## 持続性

評価項目	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
	大項目	小項目				
政策・制度面	政策支援は協力終了後も継続される可能性は高いか。		政策支援が協力終了後も継続される可能性が高いかを確認する。	森林に関する政策レベルの計画、戦略	事業進捗報告書 関連文書 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー 質問票
	プロジェクトの効果について、その後の広がりを支援する仕組みが担保されているか。		プロジェクトの効果について、その後の広がりを支援する仕組みが担保されているかを確認する。	プロジェクトの活動において認知された課題		
組織面	関係主体（FA、MoE、FiA）の連携はプロジェクト終了後も維持されるか。		関係主体（FA、MoE、FiA）の連携がプロジェクト終了後も維持されるかを確認する。	関係機関の組織体制 関係者の意見		
財政面	プロジェクトの活動継続に必要な財源は確保されているか。		プロジェクトの活動継続に必要な財源は確保されているかを確認する。	財務状況 関係者の意見		
技術面	C/P が、必要に応じて政策・基準・ガイドライン・その他のツールなどを自助努力で改訂していただけるか。		C/P が、必要に応じて政策・基準・ガイドライン・その他のツールなどを自助努力で改訂していただけるかを確認する。	関係者の意見		
	FA、MoE、FiA が、プロジェクトで得た経験・知見の他地域への普及に技術面において貢献していただけるか。		FA、MoE、FiA の各担当者が、プロジェクトで得た経験・知見の他自治体への普及に技術面において貢献していただけるかを確認する。			
社会・文化・環境面	社会・文化・環境面に関して持続的効果を阻害する要因はあるか。	脆弱なリスクグループへの配慮はできているか。	脆弱なリスクグループ（絶対貧困層、高齢者、心身障害者、失業者等）への配慮ができていないかを確認する。	関係者の意見		

## その他

評価項目	評価設問		判断基準・方法	必要なデータ	情報源	データ収集方法
	大項目	小項目				
プロジェクト終了時までの留意点	投入・活動・成果（アウトカム）の内容を再検討する必要があるか。		投入・活動・成果（アウトカム）の内容を再検討する必要があるかについて、専門家およびC/Pにインタビューして判断する。	関連情報	PDM 事業進捗報告書 インタビュー結果（専門家、C/P）	文献調査 インタビュー 質問票
	今後、プロジェクト終了時までに留意していかなければならないことは何か。		今後、プロジェクト終了時までに留意していかなければならないことについて、専門家にインタビューして判断する。	関連情報 関係者の意見		

## 収集資料リスト

No.	資料タイトル	著者	形式
1	日本の REDD 関連事業	国立研究開発 法人森林総合 研究所	電子ファイル
2	FCPF Annual Report 2014	FCPF	電子ファイル
3	Global Forest Resources Assessment 2015 Desk Reference	FAO	電子ファイル
4	Key Note Address of Samdech Aka Moha Sena Padei Techo Hun Sen Prime Minister of the Kingdom of Cambodia in the Inauguration of “Morodok Techo Hun Sen Building”, Ministry of Environment and the Opening Ceremony of the Conference on Environment Stock Taking 2015 and Directions for 2016	カンボジア首 相府	電子ファイル
5	WWF Executive Summary on Mapping and Valuing Ecosystem Services in Mondulkiri Province	世界自然保護 基金 (WWF)	電子ファイル
6	Seima Protection Forest -overview	WCS	電子ファイル
7	PM gives ministers an ‘F’, lashes out at illegal logging task force	The Phnom Penh Post	電子ファイル

